仙台市文化財調査報告書第198集

上ノ原山遺跡

－国道286号線（茂庭工区）改良工事関係発掘調査報告書－

1995年

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第198集

上ノ原山遺跡

－国道286号線（茂庭工区）改良工事関係発掘調査報告書－

1995年

仙台市教育委員会

序

日頃より、仙台市の文化財保護行政に対しまして、多大の御協力をたまわり、担当する仙台市教育委員会にとりまして、誠に感謝にたえません。

茂庭地区は仙台市南西部でも遺跡が数多く分布している地域であります。近年、当該地区においても、国道バイパス建設や公共事業関係の開発が盛んに行なわれ、それらに伴って多くの遺跡の調査が実施され、先人の生活文化の様相が解明されつつあることは、よろこばしい反面、遺跡の保存に関する種々の問題が露呈していることも事実であり、文化財保護の問題となっていることも否めないところであります。

この度の上ノ原山遺跡の調査は、平成元年度から三年度まで、国道286号線の改良工事に先立って実施し、平安時代の集落の一端とみられる竪穴住居跡や当時の土器類、縄文時代の集落および狩猟生活を偲ばせる竪穴住居跡や落し穴、旧石器時代の石器などさまざまな資料が明らかになっております。調査の成果から本遺跡は旧石器時代から平安時代にいたる長い期間にわたって営まれた遺跡であることがわかってまいりました。

調査に際しましては多くの方々の御協力、御助言を頂きましたことを深く感謝申し上げる次第であります。先人の残した文化遺産を市民の宝として永く後世に継承していくことは、これからの「まちづくり」には欠かせない大切なことであります。今後共、市民各位の御協力を念願して序といたします。

平成７年３月

仙台市教育委員会
教育長　坪　山　　繁

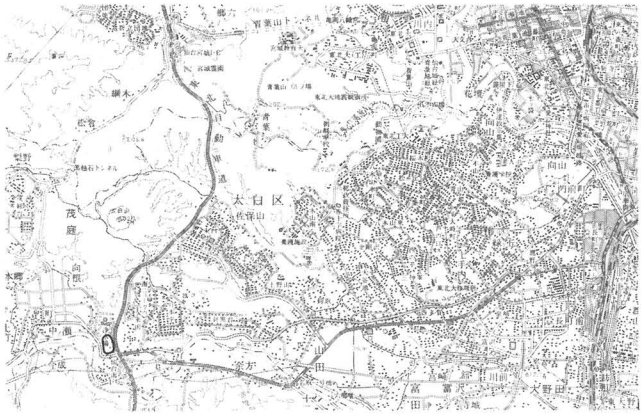
目　次

序
例言
Ⅰ．調査に至る経過 …… 1
Ⅱ．調査要項 …… 1
Ⅲ．調査の方法と経過 …… 2
Ⅳ．基本層序 …… 7
Ⅴ．検出遺構と出土遺物 …… 13
　1．検出遺構 …… 13
　2．出土遺物 …… 25
Ⅵ．まとめ …… 59
写真図版 …… 61

例　言

1．本書は国道286号線改良工事に係る上ノ原山遺跡の調査報告書である。
2．発掘調査は仙台市教育委員会が主体となり、平成元年10月２日より平成３年９月21日まで実施した。
3．出土遺物の整理と報告書作成は主浜光朗が担当し、熊谷裕行が補佐した。
4．遺跡の地理的環境及び歴史的環境については、「茂庭けんとう城・東館遺跡発掘調査報告書」『仙台市文化財調査報告書第137集』を参照していただきたい。
5．本書の文章、実測図中の方位は真北で統一してある。
6．本書中の土色については「新版標準土色帖」（小山、竹原：1975）を使用した。
7．本書第１図は建設省国土地理院発行の５万分の１「仙台」を使用した。
8．本書中の遺構図中の焼面及び土師器の黒色処理についてはスクリントーンで示した。
9．調査及び整理作業について以下の方から指導助言を賜わった。記して感謝の意を表します。
　鎌田俊照、梶原　洋、原河英二、蟹沢　聡、石川賢一、岡村道雄、会田容弘
10．本調査における出土遺物、図面、写真等は仙台市教育委員会で一括保管しているので活用されたい。

Ⅰ．調査に至る経過



第１図　遺跡位置図

宮城県道路建設課で持っていた、昭和57年から昭和63年度までに実施する一般国道286号線改良計画について、全路線のうち仙台市茂庭工区西半は、昭和63年度までに工事を終了する予定であった。この地区では、町田遺跡、西町遺跡の２遺跡について発掘調査が必要となった。茂庭工区東半部は、昭和62年春に予定地内を分布調査した結果、縄文時代早期末の土器が採集される上ノ原山遺跡が新たに発見され、昭和62・63年度に発掘調査が必要となったが、用地交渉が難航し、土地買収ができなかったため、昭和62年度の調査から除外され、昭和62年度には茂庭工区西半部の２遺跡についてのみ宮城県文化財保護課による発掘調査が実施された。その後平成元年度までに用地買収は終了し、発掘調査に着手する運びとなった。平成元年度に仙台市が政令指定都市に昇格したことによる道路法第17条の管理の特例により、仙台市が新設改築及び管理を行なうこととなったため、仙台市建設局道路部より平成元年10月、遺跡発掘通知が提出され、仙台市教育委員会文化財課によって発掘調査を行なうことになった。

Ⅱ．調査要項

遺　跡　名　：上ノ原山（うえのはらやま）遺跡（仙台市文化財登録番号：Ｃ－307　宮城県遺跡番号01423）

調 査 場 所　：仙台市太白区茂庭字上ノ原山地内

調査対象面積　：8,000㎡（調査面積：約6,500㎡）

調 査 期 間　：1989年度　自　1989年10月２日　至　同　12月25日

1990年度　自　1990年４月19日　至　1991年３月31日

1991年度　自　1991年４月10日　至　同　９月21日

調 査 主 体　：仙台市教育委員会

調 査 担 当　：仙台市教育委員会文化財課

担当職員　1989年度　熊谷幹男　　1990年度　熊谷幹男、主浜光朗、五十嵐康洋

1991年度　主浜光朗、熊谷裕行

調査参加者　：大海　厚、小松　愛、小山つるよ　（野外調査、室内整理含）

赤間共栄、浅利五郎、伊藤幸子、板山つねよ、岩間かつえ、遠藤いな子、遠藤すげ子、大沢すゑ、太田美和、沖中光三、奥平よう子、加藤さき子、加藤ゑなよ、叶　誠、川村　信、菊地恵子、熊沢とも、小塚　静、小山　繁、斎藤恵子、笹川光夫、佐藤勝見、佐藤きみ子、佐藤清治、佐藤とみ江、佐藤直成、佐藤　宏、佐野たみえ、島貫美代、庄子勝子、鈴木きぬ子、住吉貞子、清野　寛、高橋たづよ、高橋まさ子、丹治忠作、富永美輪子、夏井正雄、成田アヤ子、西本　博、支倉　喜久衛、三浦つよの、嶺岸イツ子、嶺岸わくり、宮沢正人、森　金三、森　ミヨノ（以上野外調査のみ）

小林由美、佐藤洋子、佐藤留美子、津島久子（室内整理のみ）

調 査 協 力　：猪股太、大睦建設

Ⅲ．調査の方法と経過

今回の調査では、丘陵の開削を伴う工事であるため、道路敷よりかなり広い約70mの幅で長さ約120mの約8,000㎡が調査の対象面積となった。遺跡は茂庭けんとう城の南端部に隣接して位置しており、けんとう城に関係する施設が検出されることも考えられたため、杉林の伐採、下草刈の後、発掘調査に先立って株式会社パスコに委託し、航空測量によって地形測量を実施した。

1989年度には、調査区内を通る道路及び地形によって、調査区をⅠ～Ⅳ区に設定し、排土処理の関係上、Ⅰ～Ⅲ区の表土を先行して排除し、排土はⅣ区に仮置きすることとして、重機によって表土を排除し、その後人力によって平削り作業を行なった。調査区内に、真北線を基準線として、3m×3mのグリットを設定し、南北軸を南からアラビア数字で表わし、東西軸を西からアルファベット文字で25区切毎にAA～AT、BA～BT…と表わし、両者の組合せでグリッド名を表わすこととした。平面図の基準は国家座標第X系X＝－198.216km・Y ＝－2.668km（Ⅰ区）、X＝－198.216km・Y ＝－2.638km（Ⅱ区）、X＝－198.156km・Y ＝－2.668km（Ⅲ区）である。

Ⅰ区については、旧石器時代の石器が出土するかどうかを確認するために、AE、AH、AKラインに、Ⅱ区ではAQ、AR、ATラインにトレンチを設定し、掘り下げた。その結果AE、AHラインから計8点の石器が検出され、1990年以降に本格的な旧石器時代の調査を行うこととし、Ⅰ～Ⅲ区に関する航空測量のための写真撮影を行なった。

1990年度は、工事の工程上の都合でⅡ区から調査を再開した。調査区の南東端に1ないし2段の段が認められる部分があり、けんとう城に関係した平場やその他の施設の有無を確認するため、3本のトレンチを設定し、掘り下げた。その結果、人為的に作り出された遺構の痕跡は認められず、段状の部分はけんとう城に関係するものではないと考えられた。Ⅱ区の西側では縄文時代以降の土坑が7基検出された。その後旧石器時代の調査区を設定し、AP～BC－25～32の範囲にわたって火山灰層を掘り下げ、AP～AQ、AS•BAラインを礫層上面まで掘り下げた。掘り下げは、スコップを用いて数cmの深さに約1cm刻みで掘り下げ、遺物を検出した段階で、草削りや草掻きを用いて慎重に掘り下げながら遺物の検出につとめるという方法をとったが、旧石器時代の遺構、遺物は検出されなかった。Ⅱ区の調査後、Ⅰ区の調査と平行して、Ⅳ区に仮置きしてあったⅠ～Ⅲ区の排土を重機でⅡ区に移動し、同時にⅣ区の表土排除を行なった。Ⅰ区では、縄文時代の竪穴住居跡2軒、縄文時代以降の土坑13基が検出された。その後旧石器時代の調査区を設定し、Ⅱ区と同様の方法でAC～AL－24～32の範囲にわたって、火山灰層を掘り下げ、そのうちAE、AHラインのグリッドを中心に礫層上面まで掘り下げた。その結果、旧石器時代の石器が「川崎スコリア層」の上層及び下層から検出された。遺物が集中して出土した部分の周辺の任意の範囲で土壌をサンプリングし、チップ等の微小遺物の検出のための水洗作業についても調査と平行して行なった。Ⅰ区の調査の終了後、Ⅲ・Ⅳ区の平削り作業を行ない、Ⅲ・Ⅳ区に関する航空測量の写真撮影を行なった。

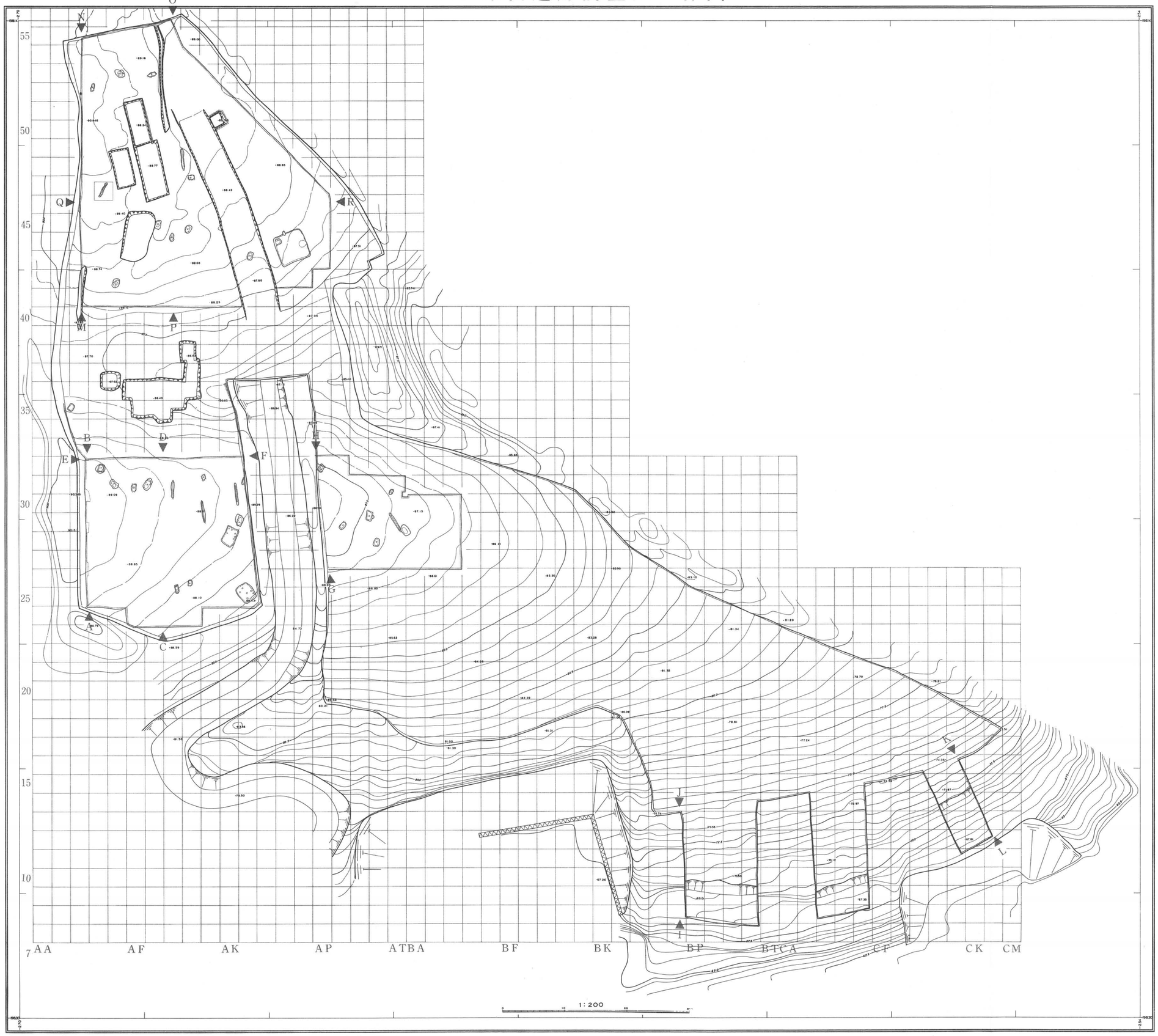
1991年度は、Ⅲ・Ⅳ区の調査を行ない、平安時代の竪穴住居跡1軒、縄文時代以降の土坑12基が検出された。その後旧石器時代の調査区を設定し、Ⅰ・Ⅱ区と同様の方法でAC～AP－41～55の範囲にわたって、火山灰層を掘り下げ、ACラインのグリット及び8ヶ所のトレンチを設定して礫層上面まで掘り下げた。その結果旧石器時代の石器及び溝状の土坑が検出された。Ⅲ、Ⅳ区の調査では、調査排土の運搬作業を軽減し作業の効率化を図るため、排土の移動にベルトコンベアーを用いた。

検出された遺構の記録は、遣り方測量を用いて1/20の平面図及び土層断面図、エレベーション図を作成した。出土遺物の記録は、1/20の平面図に地点を記入し、遺物カードに遺物番号、出土地点、出土層位、レベル等を記録した。記録写真は、35mm版及び6×7版の白黒及びカラーリバーサルを用いた。調査区の全体図及び地形図については、前述のように航空測量を用いた。

国道286号茂庭地形測量

第２図　遺跡周辺の地形と調査区

上ノ原山遺跡調査区全体図



第3図　グリット及び遺溝配置図

Ⅳ．基本層序

今回の調査では、Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ区については、調査中に層相の検討を行ない、層序の統一を計ることができたが、Ⅱ区については現場での検討ができなかったため別に記述することにする。

Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ区の層序

Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ区では、表土（第１層）から基盤の礫層（第23層）まで、大別23層、細別で32層確認された。

第１層　表土層である。ほとんどが草木根や植林による撹乱を受けているが、全体的な土色は褐色（10YR 4/4）である。シルトであるが、一部に粘土質シルトの部分もみられる。しまりはなく、粘性も弱い。炭化物を含み、縄文時代、平安時代の遺物が出土している。

第２層　暗褐色（10YR 3/3）　シルト。しまりは弱く、粘性はやや強い。調査区の北側、Ⅲ、Ⅳ区に厚く堆積しており、南側では薄くなっている。全体的に炭化物を多く含み、ところどころに径５㎜前後の白色粒がみられる。縄文時代、平安時代の遺物が出土している。

第３層　暗褐色（10YR 3/4）　シルト。しまりは弱く、粘性は強い。Ⅰ区南半部及びⅢ区南東部では薄くなり、分布のない部分もみられる。炭化物を含んでおり、縄文時代の遺物が出土している。

第４層　暗褐色（10YR 2/2）　粘土質シルト。しまりは弱く、粘性はやや強い。Ⅰ区とⅣ区の間の谷状の部分で特に厚く堆積しているが、Ⅲ区東部には分布していない。炭化物及びロームブロックを含み、部分的に径１～５㎜程度の砂礫を含んでいる。縄文時代の遺物が出土している。

第５層　褐色（10YR 4/4）　シルト。火山灰層への漸移層。しまり、粘性ともに弱い。調査区全体にほぼ均一に分布している。全体的に炭化物の細片をまばらに含み、倒木による撹乱がところどころにみられる。上面で竪穴住居跡及び土坑が検出された。Ⅰ区では縄文時代と旧石器時代の遺物が混在して出土しており、Ⅲ・Ⅳ区では旧石器時代の遺物が出土している。

第６層　褐～黄褐色（7.5YR 4/6～10YR 5/8）　粘土質シルト。火山灰層。Ⅲ・Ⅳ区では２層に細分される部分があり、上層が黄褐色土で、南側及び東側に向かって薄くなっている。下層は調査区全域にほぼ均一に分布している。しまりは弱く、粘性はやや強い。炭化物がまばらに含まれている。旧石器時代の遺物が出土している。

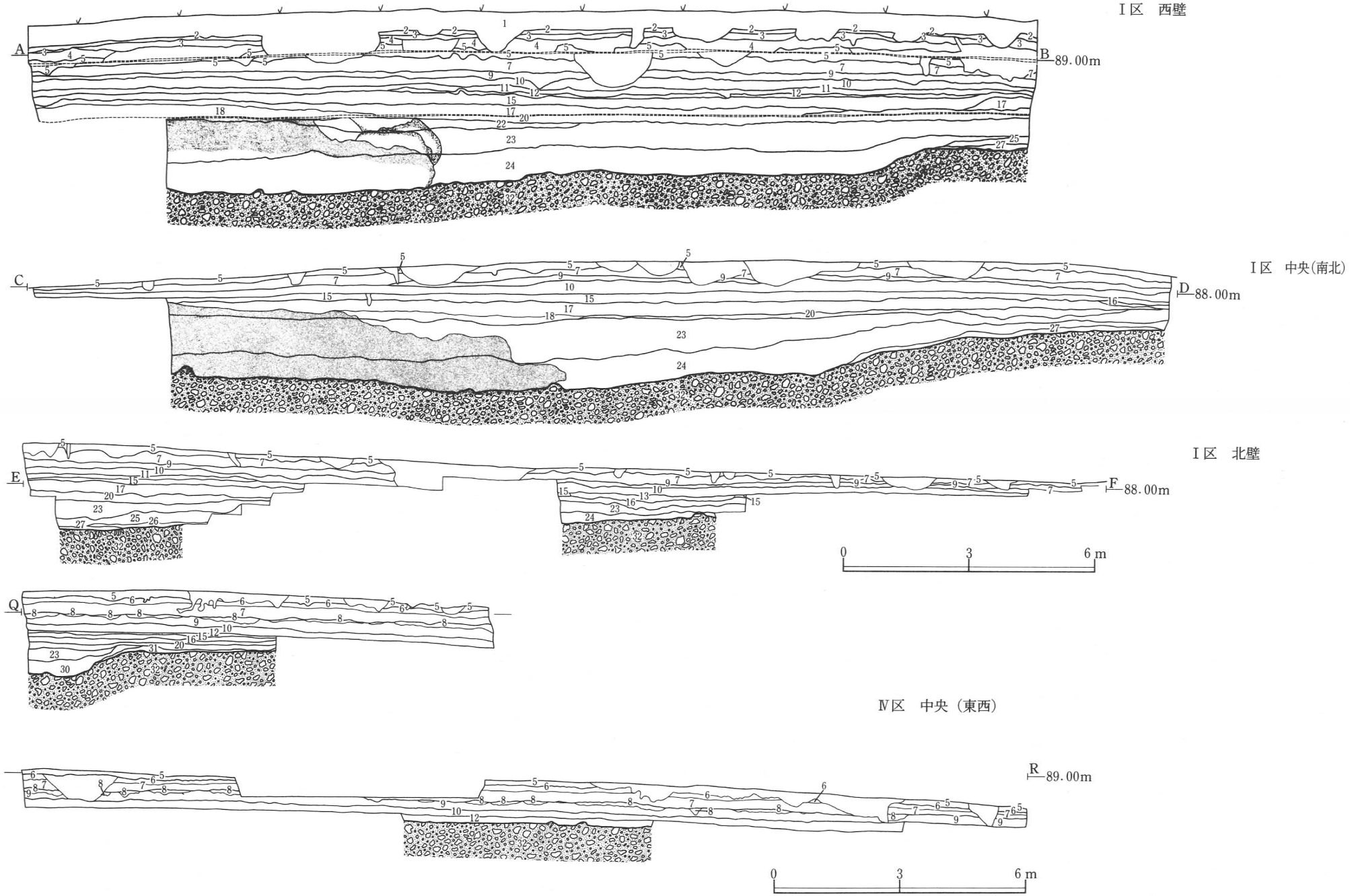
第７層　黄褐色（10YR 5/8）　粘土質シルト。火山灰層。しまり、粘性ともにやや強い。Ⅳ区では２層に細分され、上層が川崎スコリア層を含む固結部に相当する層（俗称：バンバン）であると考えられ、遺存状況の良好な部分もみられる。Ⅰ・Ⅲ区ではスコリア層はブロック状に含まれる程度で遺存状況は良くない。南側及び東側に向かってより散漫な集積状況になっている。Ⅳ区では上面で土坑が検出された。旧石器時代の遺物が出土している。

第８層　褐色（10YR 4/6）　粘土。火山灰層。しまりはやや強く、粘性は強い。調査区全体にほぼ均一に分布している。マンガン粒及び赤褐色土粒がまばらに含まれる。旧石器時代の遺物が出土している。

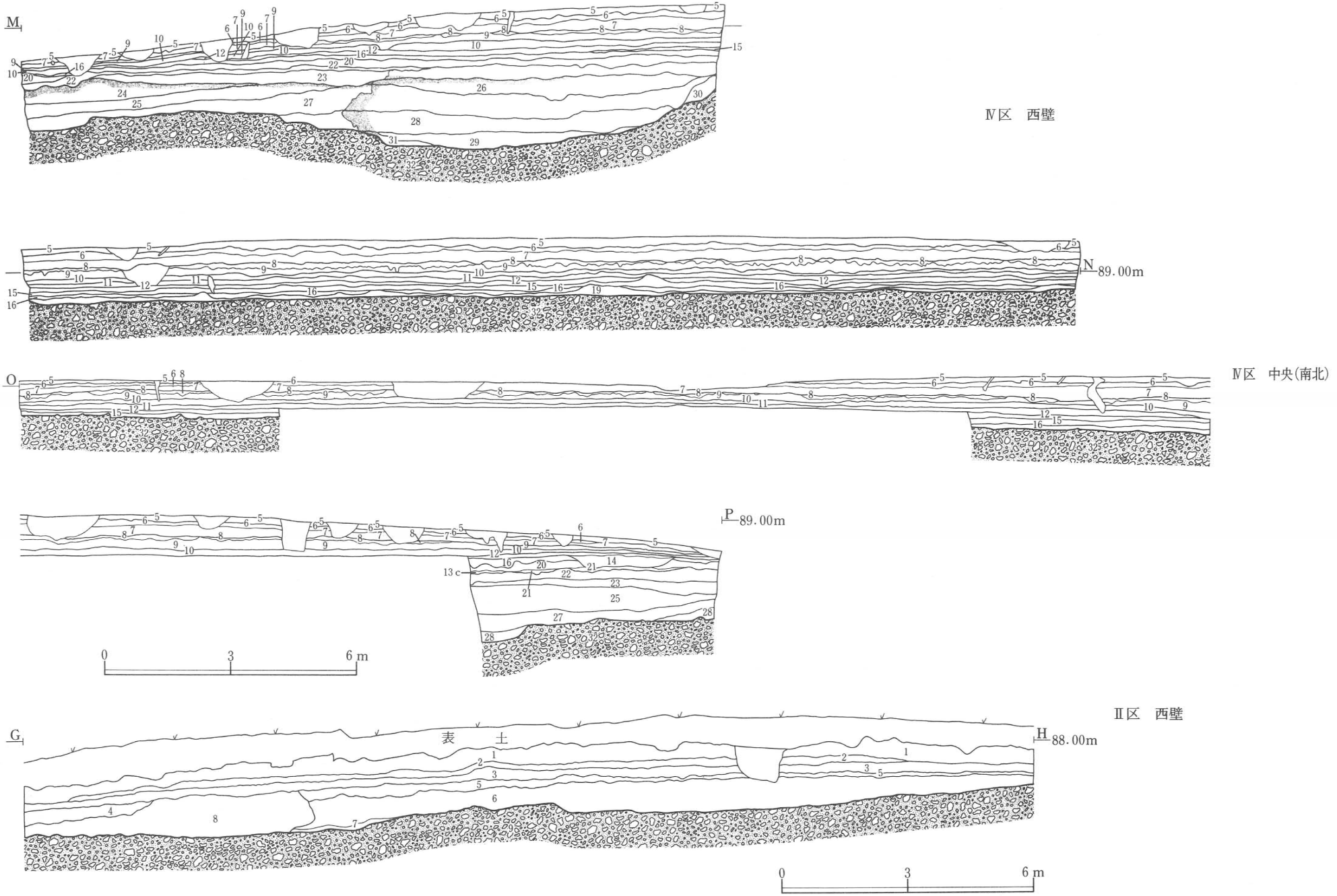
第９層　黄褐色（10YR 5/8）　粘土。火山灰層。しまり、粘性ともに強い。Ⅰ区の西側、Ⅳ区の北東部に分布している。マンガン粒及び赤褐色土粒が全体に見られる。木根が影響したものと考えられるしまりのない部分がところどころにみられる。旧石器時代の遺物が出土している。

第10層　明黄褐色（10YR 6/8）　シルト質砂。しまりは強く、粘性は弱い。Ⅰ区では北側及び西側に向かって薄くなり、Ⅳ区では南西側に向かって薄くなっている。Ⅰ区の北側では褐色（10YR 4/4）を呈する部分があり、Ⅳ区南部では黄褐色（10YR 5/6）を呈する部分がある。全体に径１㎜程度のマンガン粒を含み、ところどころに径１㎝程度の小礫を含んでいる。

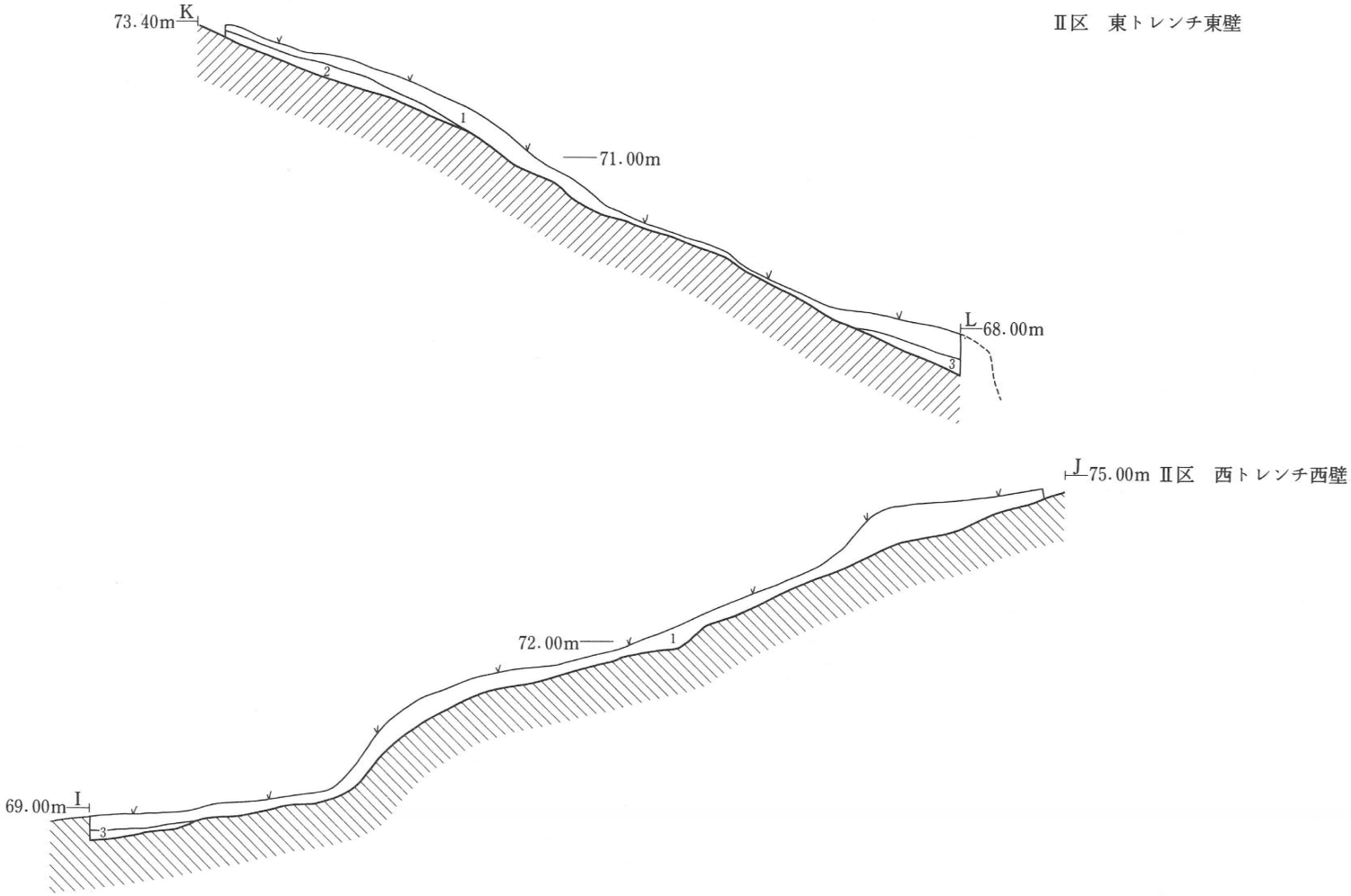
第11層　明黄褐色（10YR 4/6）　シルト質砂。しまりは強く、粘性は弱い。Ⅰ区では全体にみられるが、Ⅳ区では北側及び西側に分布し、南東部にはみられない。全体に径１㎜～１㎝のマンガンを多く含み、下部に酸化鉄の集積が認められる部分がある。



第４図　Ⅰ区・Ⅳ区(1)　土層断面図



第5図　Ⅳ区(2)・Ⅱ区(1)　土層断面図



第６図　Ⅱ区(2)　土層断面図

Ⅰ・Ⅳ区土層註記表

層位	層No.	色調	土性	備考
1	1	褐 (10YR 4/4)	シルト	表土層。全体に炭化物含む。
2	2	暗褐 (10YR 3/3)	シルト	炭化物を多く含む。
3	3	暗褐 (10YR 3/4)	シルト	炭化物を含む。
4	4	黒褐 (10YR 2/2)	粘土質シルト	炭化物・ロームブロック、小礫（径1～5㎜）を含む。
5	5	褐 (7.5YR 4/4)	シルト	倒木の撹乱あり。
6	6	黄褐 (10YR 5/8)	粘土質シルト	Ⅳ区：炭化物粒を少量含む。
	7	褐 (7.5YR 4/6)	粘土質シルト	炭化物をまばらに含む。
7	8	橙 (7.5YR 6/8)	スコリア層	Ⅳ区のみに分布。
	9	黄褐 (10YR 5/8)	粘土質シルト	Ⅰ区：スコリアを含む層である。北半部に多く堆積しているが、ブロック状で、南半側に行くほど少く、東側に近くなるほど散漫な集積を示す。
8	10	褐 (10YR 4/6)	粘土	マンガン粒、赤褐色粒がまばらに見られる。
9	11	黄褐 (10YR 5/8)	粘土	マンガン粒、赤褐色粒が全体的に見られる。所々に締りのない部分をブロック状に含む。
10	12	明黄褐 (10YR 6/8)	シルト質砂	マンガン粒（径1㎝位）を全体に含む。小礫（径1㎝位）を所々に含む。
	13	褐 (10YR 4/6)	シルト	Ⅰ区：微細なマンガン粒、にぶ黄（2.5Y 6/4）粘土粒が全体的に見られる。
	14	黄褐 (10YR 5/6)	粘土質シルト	Ⅳ区：炭化物粒若干含む。
11	15	明黄褐 (10YR 6/8)	シルト質砂	マンガン粒（径1㎜～1㎝）を全体にかなり含む。下位には酸化鉄の集積が見られる部分もある。
12	16	黄褐 (2.5Y 5/6)	砂質シルト	風化した小礫を所々に含む。マンガンの小粒は全体に見られ、径3㎜～1㎝の粒をブロック状に含む所がある。下の層との境付近に酸化鉄が帯状に集積している所もある。
	17	黄褐 (2.5Y 5/6)	シルト	マンガン粒をブロック状に全体に含む。隙間を酸化鉄が埋める。 Ⅰ区：風化した小礫、暗赤褐（5YR 3/3）シルト粒。にぶい黄（2.5Y 6/4）粘土粒を所々に含む。
	18	褐 (7.5YR 4/6)	シルト質砂	Ⅰ区：上位の層とほぼ同様の層相を示しているが、マンガン粒の大きさが最大で径3～4㎝ほどと大きくなる。
13	19	明黄褐 (2.5Y 6/8)	粘土	Ⅳ区：酸化鉄マンガン斑（やや大）、砂礫含む部分がある。
	20	明黄褐 (2.5Y 6/8)	粘土	Ⅰ区：層No.18との境付近にマンガン粒が見られるが、層全体としては少なくなっている。酸化鉄の集積が斑に見られる。にぶ黄（2.5Y 6/4）粘土粒が全体に見られる。 Ⅳ区：拳大～人頭大の礫を多量に含む。南の方へ礫の量が減っていく。
	21	明黄褐 (10YR 6/8)	砂質粘土	Ⅳ区：酸化鉄マンガン斑、小礫含む。
14	22	明褐 (7.5YR 5/8)	粘土質シルト	層の上部にマンガンブロックが多く、下部には酸化鉄の集積が見られる。 にぶ黄（2.5Y 6/4）粘土粒が見られる。
15	23	橙 (7.5YR 6/8)	粘土	上部にマンガンブロック、下部に酸化鉄の沈着が見られる。 にぶい黄橙（10YR 6/3）粘土質シルトが斑に入っている。
16	24	明黄褐 (10YR 6/6)	粘土質砂	明褐（75YR 5/6）シルトが層をなす。
17	25	明褐 (7.5YR 5/8)	砂質シルト	マンガン粒がブロック状に入る。風化した小礫が見られる。
	26	明褐 (7.5YR 5/6)	シルト質砂	マンガン粒はほとんど見られない。
18	27	明黄褐 (10YR 6/6)	シルト	マンガン粒がまばらに見られる。Ⅰ区では礫が混じっている。
19	28	にぶい黄橙 (10YR 6/3) 明黄褐 (10YR 6/8)	砂質粘土	Ⅳ区：非常に固く締っており、酸化鉄・マンガン粒多量に含み、マンガン集積部分がある。
20	29	にぶい黄橙 (10YR 7/2) 明黄褐 (10YR 6/8)	砂質粘土	Ⅳ区：酸化鉄、マンガン小斑含む。底面近くにマンガンが層状に固まっている。
21	30	明褐 (10YR 6/8) にぶい黄橙 (10YR 7/2)	粘土	Ⅳ区：上面にマンガンが層状に固まっている。酸化鉄、マンガン斑含む。
22	31	明褐 (7.5YR 5/6) にぶい黄橙 (10YR 7/2)	細砂	Ⅳ区：酸化鉄、マンガン含む。
23	32	－	－	礫層：段丘礫層。

Ⅱ区土層註記表

層位	層No.	色調	土性	備考
1	1	褐 (10YR 4/6)	シルト	スコリア層を所々にブロック状に含む。
	2	黄褐 (10YR 5/6)	シルト	マンガン粒（径1㎜以下）を含む。酸化鉄の集積が見られる。
2	3	黄褐 (10YR 5/8)	シルト	マンガン粒（径1～2㎜位）を層全体に含む。
	4	明黄褐 (10YR 6/8)	シルト	基本的には層No.3と同じであるが、層の下部に酸化鉄が集積している。
3	5	明黄褐 (10YR 6/8)	シルト	マンガン粒（径5㎜～1㎝）を斑に含む。明褐（7.5YR 5/8）粘土質シルトを層全体に含み、下部程多く見られる。
4	6	明黄褐 (10YR 6/6)	粘土質シルト	マンガン粒をブロック状に含む。明褐（7.5YR 5/8）と、にぶい黄橙（10YR 7/3）の粘土を層全体に斑に含む。明褐（7.5YR 5/8）粘土質砂が、5層との境に多く集積している。
	7	黄褐 (10YR 5/8)	砂質シルト	マンガン粒がブロック状に見られる。
5	8	黄褐 (10YR 5/8)	粘土質シルト	4層との境にマンガン粒が非常に多く集積している。赤褐（5YR 4/6）砂質シルトと明黄褐（10YR 6/8）粘土質シルトが層状に互層になって見られる。
6	9			礫層：段丘礫層。

東西トレンチ土層註記表

層No.	土色	土性	遺構
1	暗褐 (10YR 3/3)	シルト	水分を含む時は、いく分粘土っぽくなる。粒子が細い。締りがなくぼそぼそしている。
2	黒褐 (10YR 2/3)	シルト	礫やロームブロックを含む。
3	黒褐 (10YR 2/3)	シルト	礫やロームブロックの混入量が層No.2より多い。

第12層　黄褐色～褐色（2.5Y 5/6～7.5YR 4/6）　砂質シルト～シルト質砂。しまりは強く、粘性は弱い。Ⅰ区では北側から西側に分布しており、Ⅳ区でも北側から西側に分布している。Ⅳ区ではほぼ均一の層相を示すが、Ⅰ区では3層に細分される。Ⅳ区及びⅠ区の上層では風化した小礫及びマンガンを全体に含み、径1～3㎜のマンガン粒をブロック状に含む部分もある。中層はほぼⅠ区全域に分布し、全体にマンガン粒をブロック状に含み、隙間には酸化鉄がみられる。ところどころに風化した小礫、暗赤褐色シルト粒、にぶい黄褐色粘土粒を含んでいる。下層は褐色で含まれるマンガン粒は径3～4㎝と大きく、南に向かってまばらになる。

第13層　明黄褐色（2.5Y 6/8～10YR 6/8）　粘土～砂質粘土。しまりは大変強く、粘性はやや強い。Ⅰ区では中央部から西側にかけて分布し、Ⅳ区では西側から南側に分布しており、北西に向かって薄くなる。Ⅰ区ではマンガン粒、酸化鉄が含まれ、層状ににぶい黄褐色粘土が含まれている。全体に粘土粒がみられる。Ⅳ区の南部では3層に細分され、酸化鉄、マンガン斑、小礫が含まれている。北半部及び東端部では礫層の上面を覆う層であり、人頭大の礫もみられる。南側の下層では砂質粘土となり、しまり、粘性ともに弱くなっている。

第14層　明褐色（7.5YR 5/8）　粘土質シルト。しまり、粘性ともに強い。Ⅰ区では中央から西側に分布しており、レンズ状に堆積している。Ⅳ区では南端部に分布している。上部にマンガン粒のブロックが多く、下部には酸化鉄の集積がみられる。

第15層　橙色（7.5YR 6/8）　粘土。しまり、粘性ともに強い。Ⅰ区では全域に分布するが、南へ向かって厚くなる。Ⅳ区では南西部にのみ分布する。上部にマンガン粒のブロック、下部に酸化鉄の集積がみられる。Ⅰ区では黄橙粘土質シルトが斑に含まれる。

第16層　明黄褐色（10YR 6/6）　粘土質砂。しまりは強く、粘性は大変強い。Ⅰ区ではほぼ全域に分布しており、南に向かって厚くなっている。Ⅳ区では南西端部にのみ分布している。Ⅰ区では、下層の影響で北側に一段高くなっている。明褐シルトが互層をなす部分がある。

第17層　明褐色（7.5YR 5/6～7.5Y 5/8）砂質シルト～シルト質砂。しまり、粘性ともに強い。Ⅰ区では北側に、Ⅳ区では南側に分布している。2層に細分されるが、双方に酸化鉄とにぶい橙シルトが斑に含まれる。上層は砂質シルトでブロック状のマンガン粒と風化した小礫が含まれ、下層はシルト質砂でマンガン粒はみられない。

第18層　明黄褐色（10YR 6/6）　シルト。しまり、粘性ともに強い。Ⅰ区では西側、Ⅳ区では南西側に分布している。マンガン粒がまばらにみられ、Ⅰ区では下層（礫層）の浮き上がりと思われる礫が含まれている。

第19層　にぶい黄橙色（10YR 6/3）　明黄褐色（10YR 6/8）混在。砂質粘土。非常に固くしまり、粘性はやや強い。Ⅳ区の南側のみに分布しており、マンガンの集積部分がある。

第20層　にぶい黄橙色（10YR 7/2）　明黄褐色（10YR 6/8）混在。砂質粘土。しまりは弱く、粘性は強い。Ⅳ区の南西部のみに分布し、マンガン粒、酸化鉄を含んでいる。下面近くにマンガンが層状に集積している。

第21層　明黄褐色（10YR 6/8）　にぶい黄橙色（10YR 7/2）混在、第20層より明黄褐色土の割合が多い。粘土。固くしまり、粘性はやや強い。Ⅳ区西端にのみ分布している。上面にマンガンが層状に集積しており、酸化鉄、マンガンがまばらに含まれる。

第22層　明褐色（7.5YR 5/6）　にぶい黄橙（10YR 7/2）混在。細砂。固くしまり、粘性は無い。Ⅳ区の西側の一部にのみ分布する。マンガン、酸化鉄を含む。

第23層　礫層。Ⅰ区では北側から南側へ傾斜しており、Ⅲ・Ⅳ区では北半部でやや南東側に傾斜しており、南半部は西端で西側に急傾斜し、中央部では東西方向に谷状に窪んでいる。Ⅰ区南側では、Ⅱ区まで続くと考えられるマンガン、酸化鉄の著しい集積がみられる。第14層の堆積以降にできたクラックに侵込んだ水の影響と考えられるがこの線を挟んで同一層の土色及びマンガンブロックの固さが変わっている。Ⅳ区の南西部でも同様のマンガン及び酸化鉄の集積がみられる。

Ⅱ区の層序

Ⅱ区では、火山灰層より上位の層は一括して表土層として把え、細分していない。表土層以下は基盤の礫層（第6層）まで大別6層、細別9層まで確認された。

第1層　褐色～黄褐色（10YR 4/6～10YR 5/6）　シルト。火山灰層。2層に細分される。上層は、しまり、粘性ともにやや強い。川崎スコリア層をところどころにブロック状に含んでいる。下層は、しまりは強く、粘性はやや強い。径1㎜以下のマンガン粒を含み、酸化鉄の集積がみられる。

第2層　黄褐色～明黄褐色（10YR 5/8～10YR 6/8）　シルト。2層に細分される。上層は、しまりは強く、粘性は弱い。全体に径1～2㎜のマンガン粒を含んでいる。下層は、しまりは強く、粘性は無い。基本的には上層と変らないが、層の下部に酸化鉄が集積している。

第3層　明黄褐色（10YR 6/8）　シルト。しまりは強く、粘性は弱い。径5～10㎜のマンガン粒を斑に、全体に明褐色土粒を含み、下部程多く含んでいる。

第4層　明黄褐色～黄褐色（10YR 6/6～10YR 5/8）　粘土質シルト～砂質シルト。2層に細分される。上層は、しまり、粘性ともに強い。マンガン粒を含み、全体に明褐、にぶい黄橙粘土を斑に含んでいる。下層は、しまりは弱く、粘性は強い。マンガン粒を含んでいる。下層（第5層）との境に明褐粘土質砂が集積している。

第5層　黄褐色（10YR 5/8）　粘土質シルト。しまり、粘性ともに強い。上層（第4層）との境にマンガン粒が非常に多く集積しており、赤褐砂質シルトと明黄褐粘土質シルトが互層状にみられる。

第6層　礫層。

Ⅱ区の層を地形的に断絶の考えられないⅠ区の層と対比すると、Ⅱ区の第1層上層はⅠ区の第5～第7層に相当するものと考えられる。同様にⅡ区第1層下層はⅠ区の第8、9層に、Ⅱ区の第2層はⅠ区の第10～第12層に相当するものと考えられる。Ⅱ区の第3層から第4層はⅠ区の第15～第18層に相当するものであると考えられるが、Ⅱ区の第5層については、Ⅰ区の南側にみられた、土層中のクラックの影響でできたと思われるマンガンと酸化鉄の集積以南の部分に相当するもので第3、第4層が変化した部分であると考えられる。

また、Ⅱ区の南東端の段状部分では、表土直下が礫層となっている。表土層は2層に分けられるが、ロームブロックや礫が含まれている。

Ⅴ．検出遺構と出土遺物

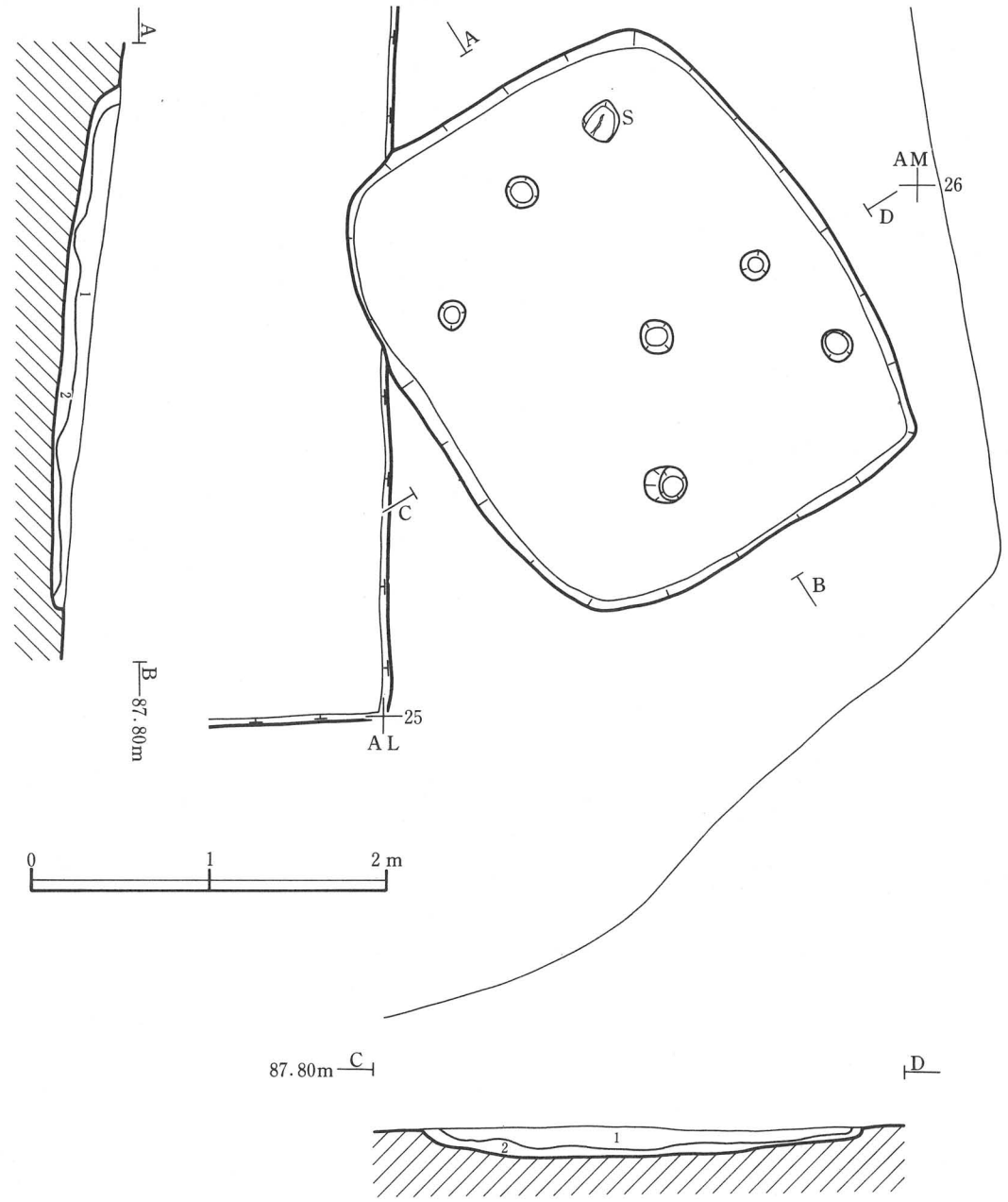
1．検出遺構

今回の調査では、竪穴住居跡3軒、土坑32基が検出されている。

竪穴住居跡

ＳＩ－１住居跡

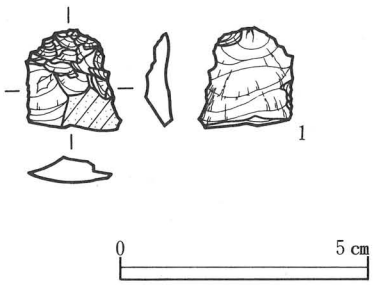
Ⅰ区の南東端、AK～AL－25～26に位置しており、第5層上面で確認された。平面形は、長軸2.95m、短軸3.5mのややゆがんだ隅丸の長方形を呈している。堆積土は2層に分けられる。壁は第5層から成り、最も保存の良い北隅の部分でも10㎝と保存状況は良くない。床面から急角度で立ち上がるが緩やかに立ち上がる部分がある。床面は第5層から成り、住居の掘り方が直接床面になっている。平坦であるが、レベルは北西壁際が最も高く、南東隅に向かって徐々に低くなる。床面から6個のピットが検出された。その他に床面の施設は確認されなかった。遺物は図示したものは剝片で床面から出土している。その他に堆積土中及び床面から縄文土器の摩小片及び剝片、礫が出土した。



ＳＩ－１　住居跡土層註記表

層No.	色　調	土　性	備　考
1	にぶい黄褐　(10ＹＲ４／３)	粘土質シルト	炭化物、ローム粒若干含む
2	黄褐　(10ＹＲ５／６)	シルト質粘土	炭化物、マンガン粒若干含む

第７図　ＳＩ－１住居跡

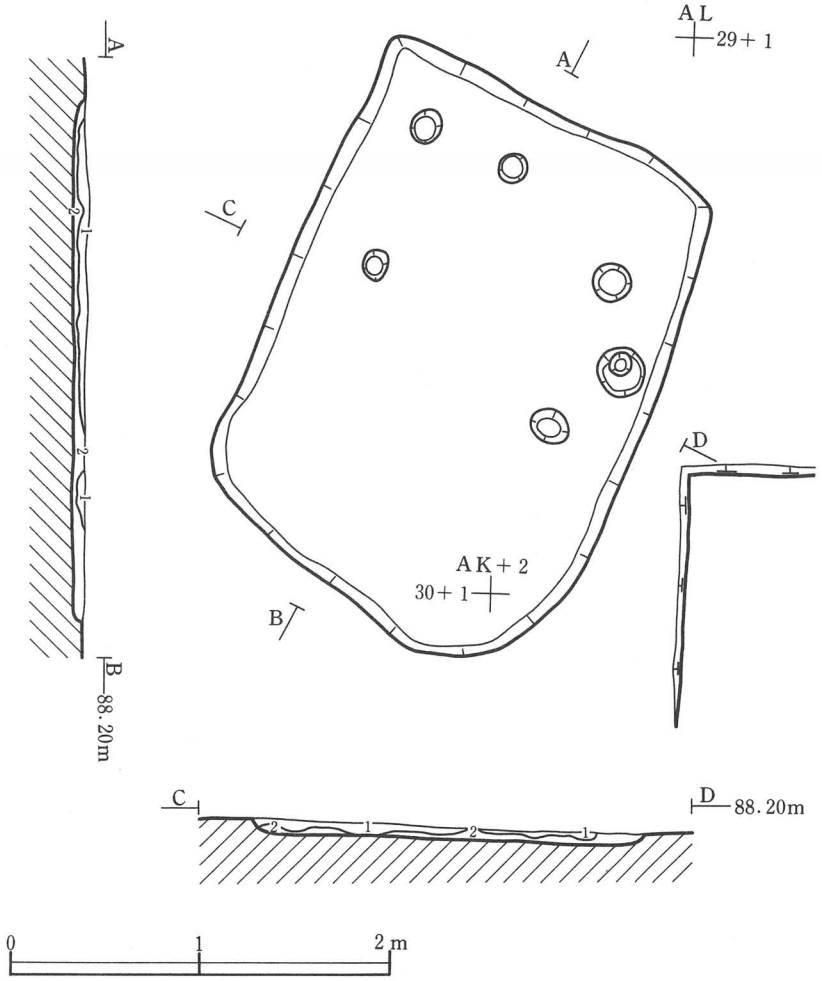


No.	層　位	種　別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	堆　積　土	二次加工剥片	1.9×1.9×0.5	1.5	珪質頁岩	

第８図　ＳＩ－１住居跡出土遺物

ＳＩ－２住居跡

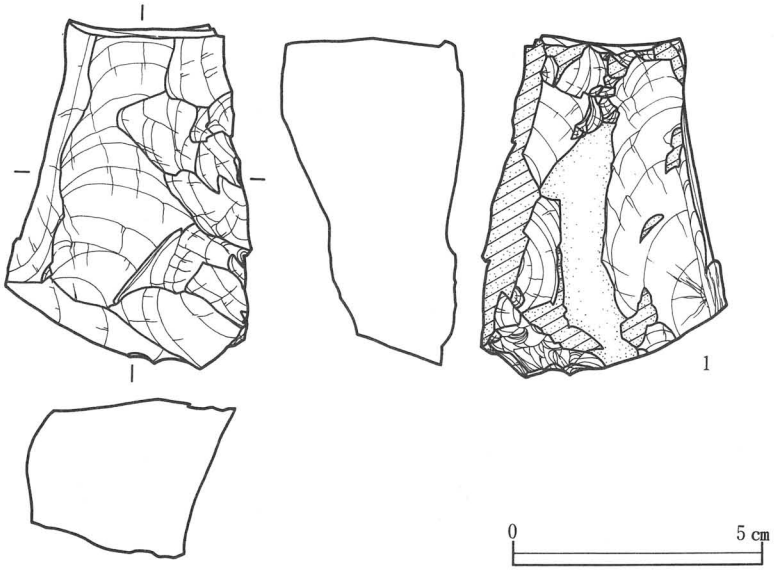
Ｉ区の東端部AK～AL－29～30に位置し、90年度のトレンチの中に入っており、第５層中で確認された。平面形は長軸2.9m、短軸2.1mの南東コーナーが隅丸状にやや張り出した長方形を呈している。堆積土は２層に分けられる。壁は第５層から成り、最も保存の良い西側部分でも11cmと保存状況は良くない。床面から急角度で立ち上る。床面は第５層から成り、住居の掘り方が直接床面となっている。平坦であるが、レベルは南西隅が最も高く東壁際に向かって徐々に低くなっている。床面から６個のピットが検出されたが北半部のみであり、南半部では検出されなかった。その他に床面の施設は確認されなかった。遺物は図示したものは石核で床面から出土した。堆積土中及び床面から縄文土器の摩小片及び剝片が出土した。



ＳＩ－２　住居跡土層註記表

層No.	色調	土性	備考
1	褐　(10YR 4／4)	シルト	炭化物粒、焼土粒若干含む
2	黄褐　(10YR 5／6)	粘土質シルト	ローム粒含む

第９図　ＳＩ－２住居跡

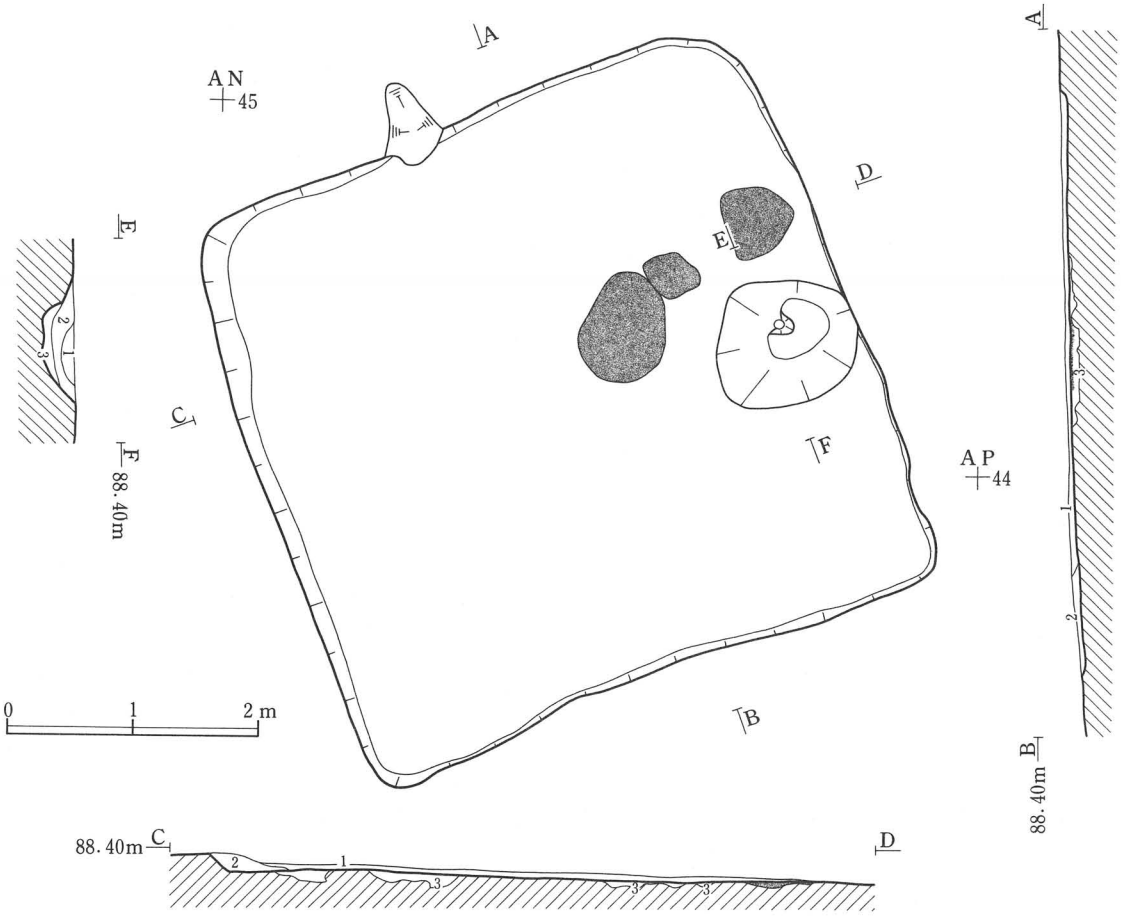


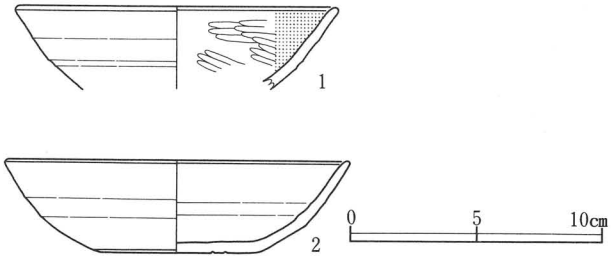
No.	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	床面	石核	6.8×4.7×3.8	129.5	珪化凝灰岩（ややへき玉化進む）	図版68－８

第10図　ＳＩ－２住居跡出土遺物

ＳＩ－３住居跡

Ⅲ区の南寄り、AM～AO－43～45に位置し、第５層上面で確認された。平面形は一辺4.7～4.9mの北東及び北西コーナーがやや丸味をもった正方形を呈している。堆積土は２層に分けられる。壁は第５層から成り、最も保存の良い北西コーナー部分で14cmであるが、東～南壁では２～３cmという残存高であり、保存状況は良くない。床面からやや緩やかな角度で立ち上がる。床面は大部分第５層から成るが、一部に貼床が認められる部分がある。ほぼ平坦であるが、レベルは北西隅が最も高く南西隅に向かって徐々に低くなる。床面中央部のやや東側から東壁際に90cm×70cm、50cm×35cm、55cm×55cmの不整な楕円形等の焼面が検出された。東壁際のものはカマドの燃焼部の焼面である可能性があるが、その他の施設は検出されなかった。床面の東壁際中央部に115cm×105cmの不整な円形の土坑が検出された。焼面との位置関係から貯蔵穴状ピットである可能性がある。その他にピット、周溝等は検出されなかった。遺物は、図示したものは土師器甕、坏及び須恵器坏で、検出面及び床面から出土した。その他に土師器、須恵器片及び縄文土器片、剝片、礫が出土した。





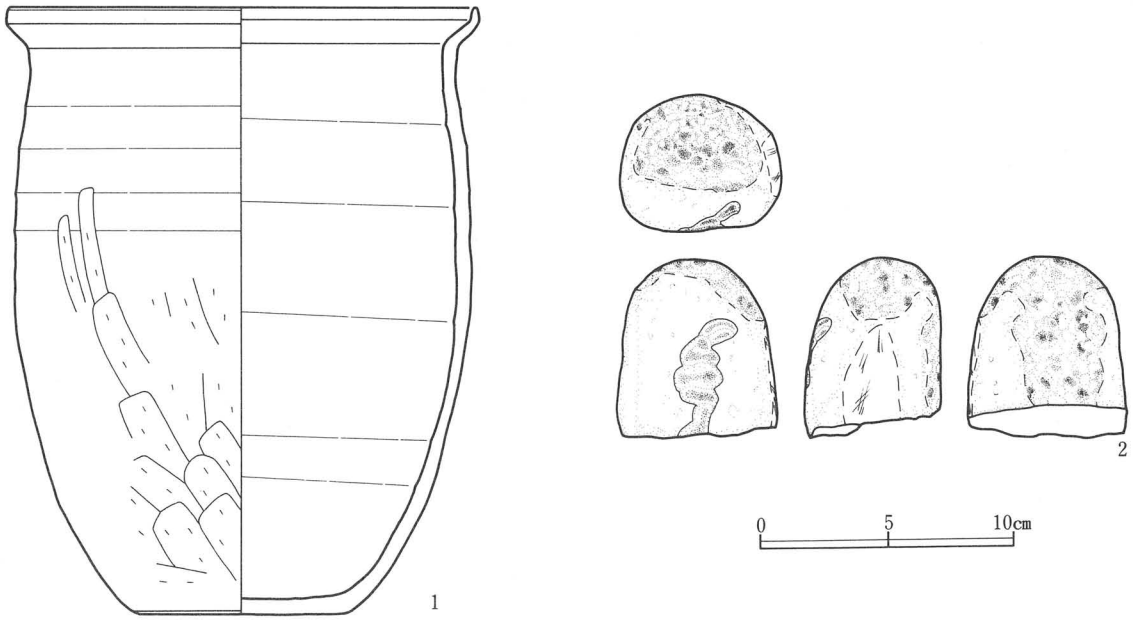
ＳＩ－３　住居跡土層註記表

層No.	色調		土性	備考
1	褐	(7.5YR 4／4)	シルト	炭化物粒、焼土粒若干含む
2	褐	(7.5YR 4／6)	シルト	炭化物、焼土ローム粒含む
3	黄褐	(10YR 5／8)	粘土質シルト	炭化物若干含む
	褐	(10YR 4／4)	シルト	

第11図　ＳＩ－３住居跡

No.	層位	種別	器形	外面	内面	底面	備考
1	検出面	土師器	坏	ロクロ調節	ミガキ、黒色処理		図版66－1
2	床面	須恵器	坏	ロクロ調整	ロクロ調整	回転ヘラ切り	図版66－2

第12図　ＳＩ－３住居跡出土遺物(1)



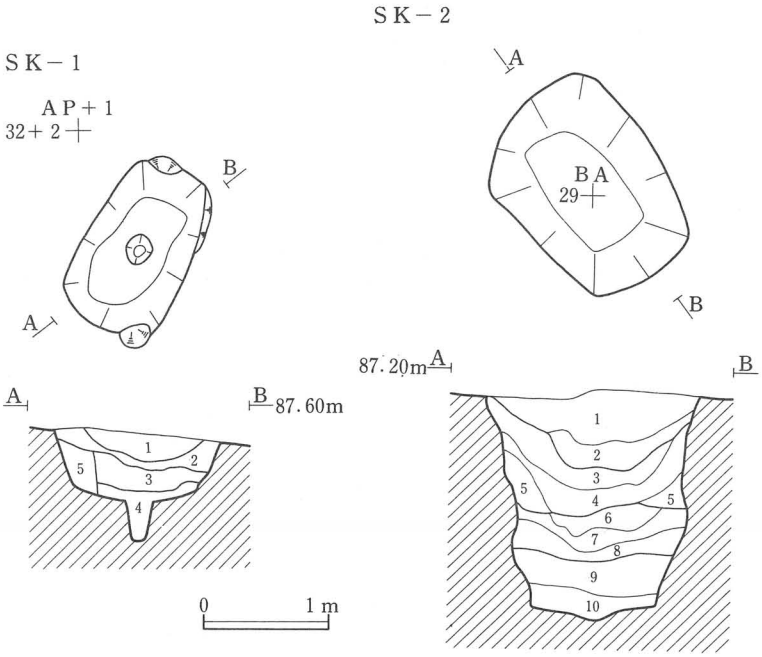
No.	層位	種別	器形	外面	内面	底面	備考
1	底面ピット1	土師器	甕	ロクロ調整、ケズリ	ロクロ調整	ナデ	図版66－3

No.	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
2	堆積土	礫石器	7.2×6.4×5.5	279.0	負岩	敲－端部、側面。磨－側面。凹－側面。 図版68－9

第13図　ＳＩ－３住居跡出土遺物

土坑

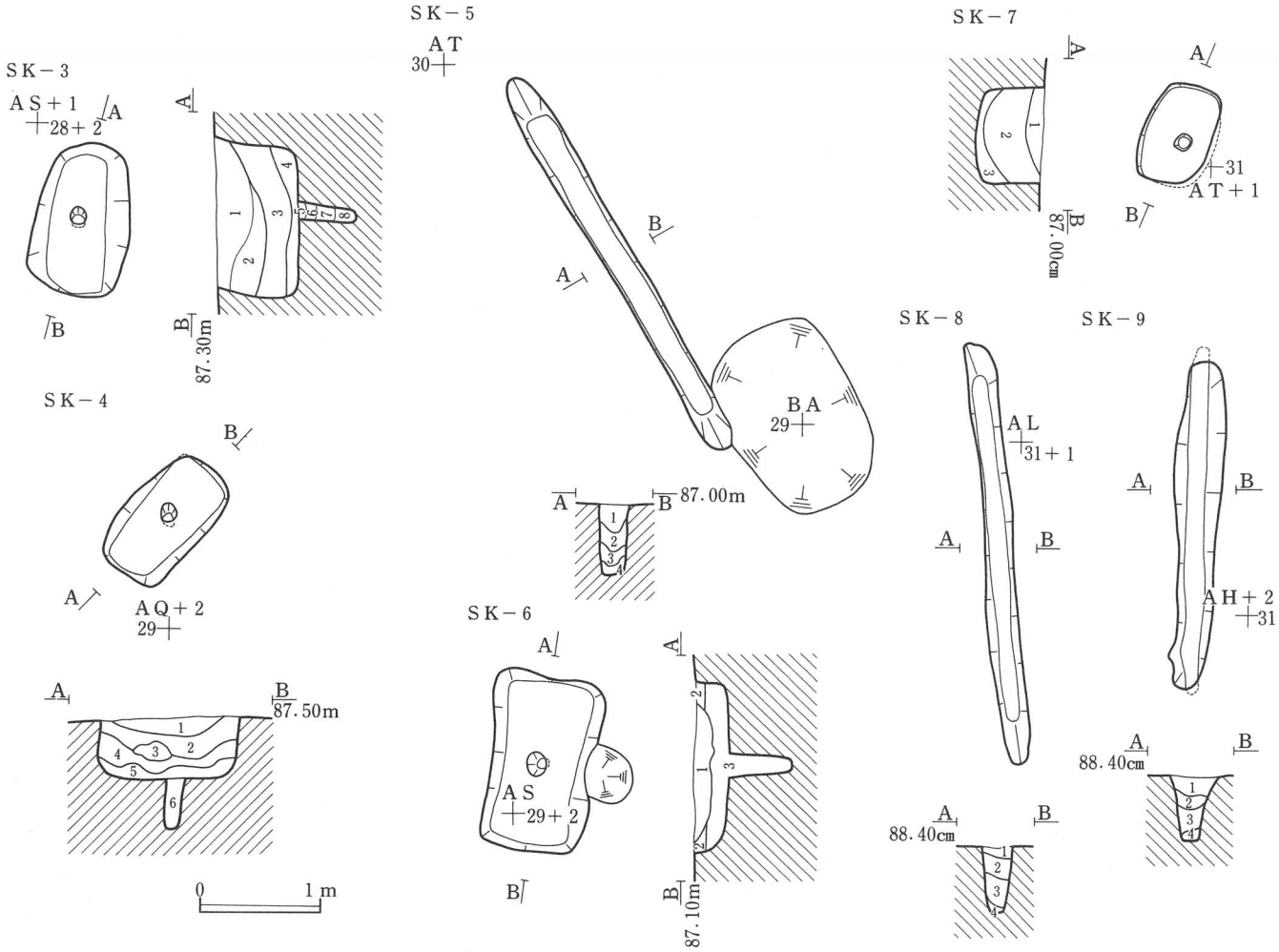
SK	位置	平面形	規模（cm）	壁（cm）	底面（ピットcm）	方向	備考
1	Ⅱ－ＡＰ－32	隅丸長方形	145×85	西壁44、やや緩傾斜	平坦、中央低、ピット22×25×33	Ｎ－32°－Ｅ	
2	Ⅱ－ＡＴ・ＢＡ－29・30	不整長方形	170×123	北壁186、急傾斜	凸凹、北側高、中央低ピット無	Ｎ－37°－Ｗ	



SK	層位	層No.	色調	土性	備考
1		1	褐 (10YR4／6)	粘土質シルト	炭化物粒、小礫（径数mm）含む
		2	明褐 (7.5YR5／6)	粘土質シルト	ローム粒多く含む
		3	褐 (10YR4／6)	シルト	炭化物粒、ローム粒含む
		4	明黄褐 (10YR6／6)	シルト質粘土	層No. 3を斑に含む
		5	明褐 (7.5YR5／8)	シルト質粘土	しまっている。マンガン粒含む
2	1	1	褐 (10YR4／4)	シルト	炭化物粒、ロームブロック、小礫（径数mm～数mm）含む
		2	褐 (10YR4／4)	シルト	ローム粒を斑に含む
			黄褐 (10YR5／6)		
	2	3	暗褐 (7.5YR3／3)	粘土質シルト	微量の炭化物粒、小礫（径1cm以下）含む
		4	暗褐 (7.5YR3／4)	シルト	ローム粒、霜降状に含む
		5	暗褐 (10YR3／3)	シルト	壁の崩落土
			明黄褐 (10YR6／8)	粘土	
	3	6	褐 (10YR4／4)	シルト	褐（10YR4／6）粘土、霜降状に含む
		7	明黄褐 (10YR6／6)	シルト質粘土	壁際に暗褐(10YR3/3)粘土質シルト、層状に含む部分有り
		8	褐 (7.5YR4／4) 黄褐 (10YR5／6)	シルト質粘土	礫（径数cm）含む
	4	9	褐 (10YR4／4)	シルト質粘土	ローム粒、礫（径数cm）含む
		10	黒褐 (10YR3／2)	粘土質シルト	礫（径数cm）含む

第14図　ＳＫ－１・２土坑

SK	位置	平面形	規模（cm）	壁（cm）	底面（ピットcm）	方向	備考
3	Ⅱ－AS－28	不整円形	122×83	西壁72、急傾斜	平坦、北側高、中央低、ピット15×15×46	N－10°－E	
4	Ⅱ－AS－29	長方形	115×68	西壁52、急傾斜	平坦、東南側低、ピット16×13×32	N－41°－E	
5	Ⅱ－AT－28・29	長楕円形	360×33	西壁61、急傾斜	平坦、中央低、	N－31°－W	
6	Ⅱ－AR・AS－29・30	不整長方形	150×95	東壁30、急傾斜	平坦、中央低、ピット20×16×52	N－8°－E	東側に攪乱を受けている
7	Ⅱ－AS・AT－30・31	隅丸長方形	85×55	東壁55、急・一部オーバーハング	平坦、中央低、ピット15×13×23	N－22°－E	
8	Ⅰ－AK・AL－30・31	長楕円形	380×27	中央部59、急傾斜	平坦、北側高	N－6°－W	
9	Ⅰ－AH－30・31	長楕円形	275×40	南端57、南北端オーバーハング	平坦、北側高	N－4°－E	

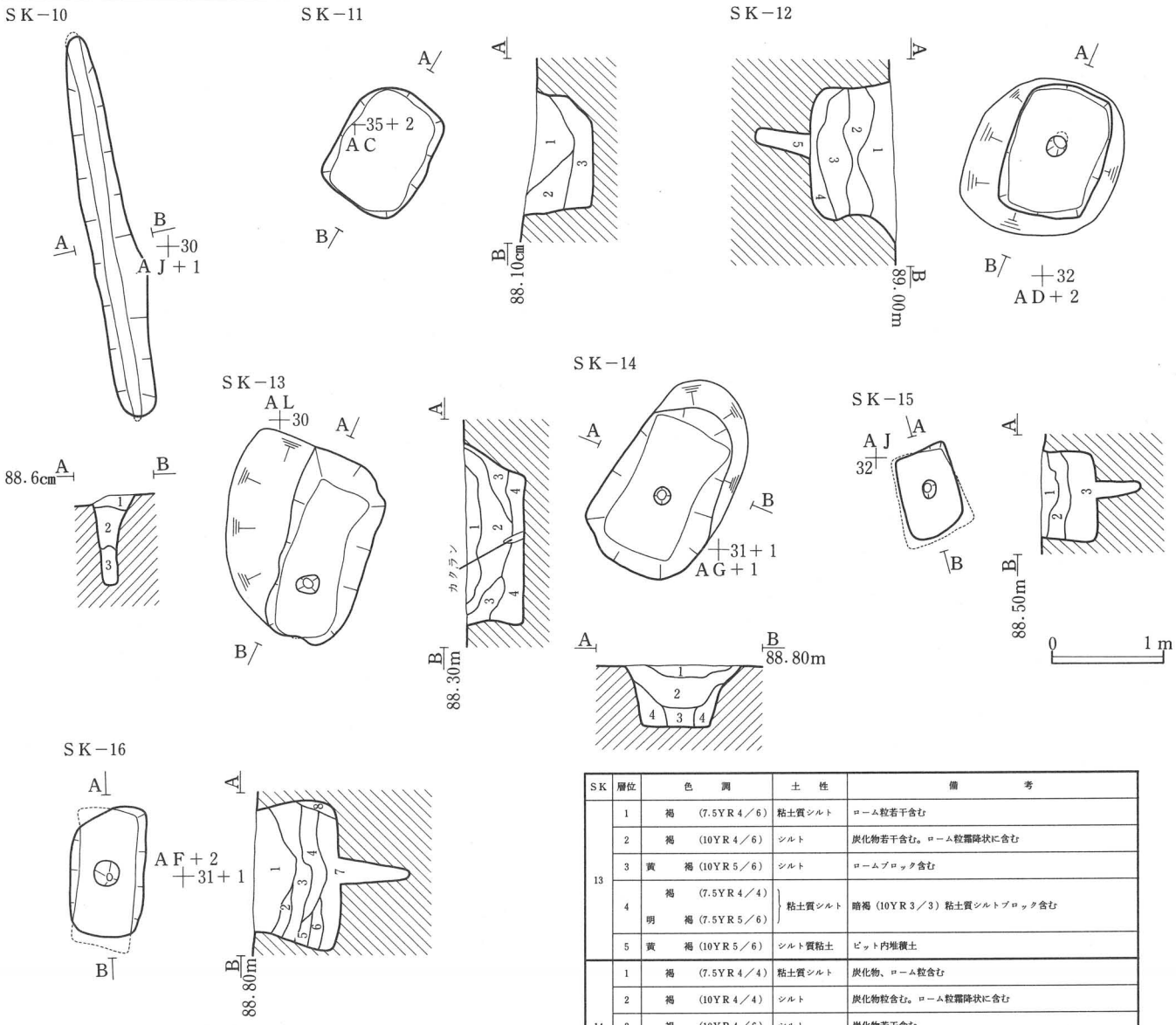


SK	層位	層No.	色調	土性	備考
3	1	1	褐（10YR 4／6）	粘土質シルト	炭化物粒、砂粒含む
		2	褐（7.5YR 4／6）	シルト質粘土	ローム霜降状に含む
	2	3	褐（10YR 4／4）	シルト質粘土	炭化物粒含む
		4	黄褐（10YR 5／6）	シルト質粘土	ロームブロック含む
	3	5	褐（10YR 4／6）	粘土質シルト	マンガン粒含む
		6	明褐（7.5YR 5／6）	シルト質粘土	砂粒（径数mm）含む
		7	褐（10YR 4／6） 黄褐（10YR 5／6）	粘土質シルト	砂粒（径数mm）含む
		8	黄褐（10YR 5／8）	粘土質シルト	砂粒（径数mm～数cm）多量に含む
4		1	褐（7.5YR 4／6）	シルト	炭化物粒、マンガン粒含む
		2	褐（7.5YR 4／4）	シルト	炭化物粒、ローム粒含む
		3	黄褐（10YR 5／6）	粘土質シルト	炭化物粒微量に含む
		4	褐（10YR 4／4）	粘土質シルト	炭化物粒、ローム粒含む
		5	褐（10YR 4／6）	粘土質シルト	ローム粒霜降状に含む
		6	褐（7.5YR 4／6）	粘土質シルト	砂粒（径数mm）含む
5		1	明褐（7.5YR 5／6）	シルト質粘土	炭化物粒含む
		2	黄褐（10YR 5／6）	粘土質シルト	マンガン粒含む
		3	褐（10YR 4／6）	シルト	砂粒（径数mm）多量に含む
		4	明褐（7.5YR 5／6）	シルト	マンガン、砂粒（径数mm）含む

SK	層No.	色調	土性	備考
6	1	褐（10YR 4／6）	粘土質シルト	炭化物、砂粒含む。黄褐（10YR 5／6）シルト霜降状に含む
	2	黄褐（10YR 5／8）	シルト	炭化物粒、マンガン粒微量に含む
	3	褐（7.5YR 4／4）	粘土質シルト	砂粒、明黄褐（10YR 6／6）粘土質シルト霜降状に含む
7	1	褐（7.5YR,4／4）	シルト	炭化物若干含む
	2	にぶい黄褐（10YR 4／3）	粘土質シルト	炭化物若干含む。明黄褐(10YR 6／6)シルト質粘土ブロック含む
	3	褐（10YR 4／6）	粘土質シルト	明黄褐（10YR 6／6）シルト質粘土霜降状に含む
8	1	黄褐（10YR 5／6）	粘土質シルト	明黄褐（10YR 6／8）粘土粒含む
	2	褐（10YR 4／6）	粘土質シルト	明黄褐（10YR 6／8）粘土粒含む
	3	明黄褐（10YR 6／6）	シルト質粘土	
	4	明黄褐（10YR 6／8）	粘土	砂粒含む
9	1	明褐（7.5YR 5／6）	シルト質粘土	
	2	黄褐（10YR 5／6）	粘土	
	3	褐（10YR 4／6）	粘土質シルト	明黄褐（10YR 6／6）粘土ブロック含む
	4	黄褐（10YR 5／8）	粘土	明黄褐（10YR 6／8）粘土霜降状に含む

第15図　SK－3・4・5・6・7・8・9　土坑

SK	位置	平面形	規模（cm）	壁（cm）	底面（ピットcm）	方向	備考
10	I－AJ－29・30	長楕円形	353×47	中央部82、南北端オーバーハング	平坦、南端低	N－10°－W	
11	I－AC・AD－35	隅丸長方形	115×87	南端66、急傾斜	小凸凹、西側高、ピット無	N－34°－E	底面は礫層に達する
12	I－AD－32	隅丸長方形	123×87	西壁75、急傾斜	平坦、中央低、ピット20×17×52	N－18°－E	本来の土坑の周辺に崩落の痕跡有
13	I－AK・AL－29	不整長方形	163×83	北隅58、北～東やや緩傾斜	平坦、ほぼ同レベル、ピット21×17×24	N－17°－E	本来の土坑の西側に崩落の痕跡有
14	I－AF・AG－31	不整長方形	163×107	南壁54、急傾斜	平坦、南側高、ピット17×15×58	N－27°－E	本来の土坑の北側に崩落の痕跡有
15	I－AJ－31・32	長方形	77×53	南隅48、北隅を除きオーバーハング	平坦、北側高、ピット19×13×40	N－13°－W	
16	I－AF－31	不整長方形	120×68	中央部77、北西、南側オーバーハング	平坦、南側低、ピット25×25×37	N－4°－E	

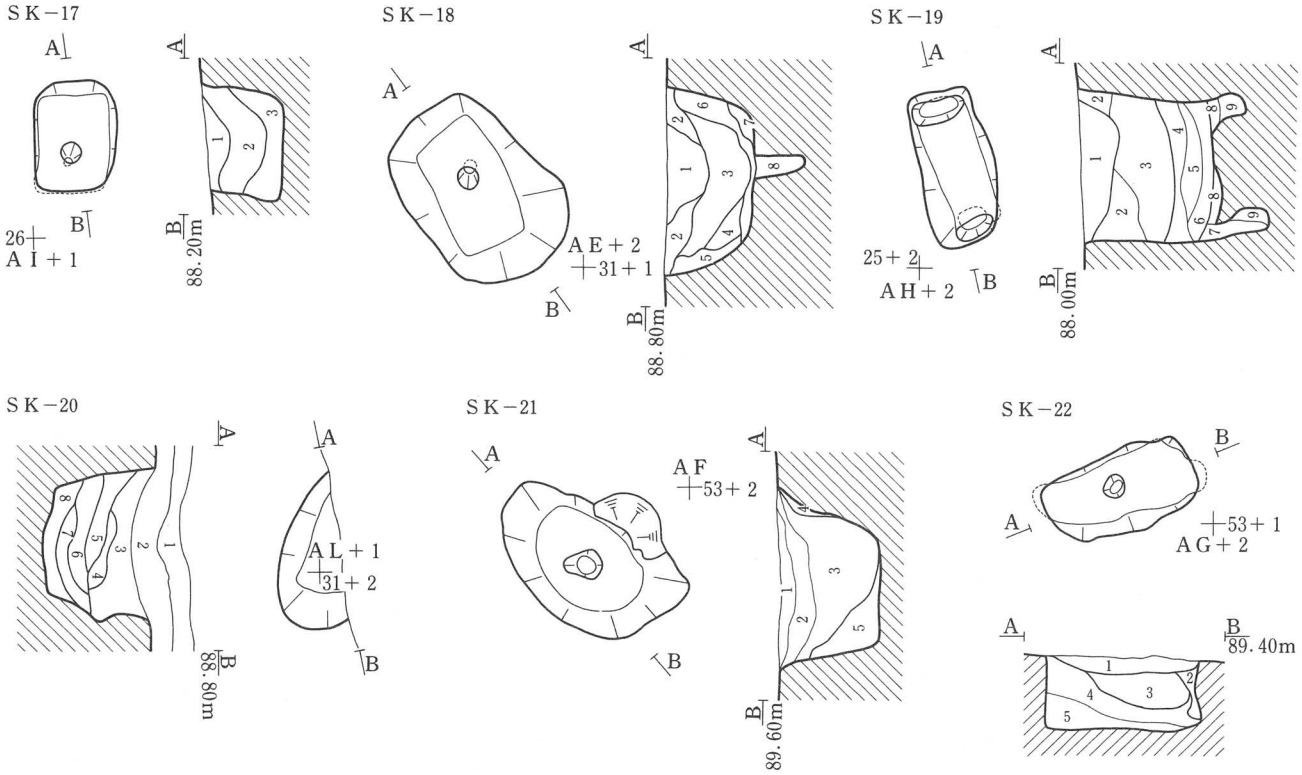


SK	層No.	色調	土性	備考
10	1	褐 (10YR 4／6)	粘土質シルト	マンガン粒を含む
	2	黄褐 (10YR 5／6)	粘土質シルト	マンガン粒、若干、バンバンブロックを含む
	3	褐 (10YR 4／6)	粘土	1、2層より粒の大きなマンガン粒（1～2㎜ぐらい）含む
11	1	褐 (7.5YR 4／6)	粘土質シルト	マンガン粒、ローム粒、小礫（径1～数cm）含む
	2	暗褐 (7.5YR 3／4)	シルト質粘土	ローム粒含む
	3	褐 (7.5YR 4／4)	シルト質粘土	小礫含む
12	1	褐 (10YR 4／6)	シルト質粘土	ローム粒、小礫含む
	2	褐 (10YR 4／4)	シルト質粘土	炭化物粒含む
	3	褐 (10YR 4／4)	シルト質粘土	明黄褐（10YR 6／8）シルト質粘土（ローム粒）ブロック及び霜降状に含む
	4	にぶい黄褐 (10YR 4／3)	シルト質粘土	黄褐（10YR 5／6）粘土ブロック含む
	5	明黄褐 (10YR 6／6) 褐 (10YR 4／6)	シルト質粘土	砂粒多量に含む

SK	層位	色調	土性	備考
13	1	褐 (7.5YR 4／6)	粘土質シルト	ローム粒若干含む
	2	褐 (10YR 4／6)	シルト	炭化物若干含む。ローム粒霜降状に含む
	3	黄褐 (10YR 5／6)	シルト	ロームブロック含む
	4	褐 (7.5YR 4／4) 明褐 (7.5YR 5／6)	粘土質シルト	暗褐（10YR 3／3）粘土質シルトブロック含む
	5	黄褐 (10YR 5／6)	シルト質粘土	ピット内堆積土
14	1	褐 (7.5YR 4／4)	粘土質シルト	炭化物、ローム粒含む
	2	褐 (10YR 4／4)	シルト	炭化物粒含む。ローム粒霜降状に含む
	3	褐 (10YR 4／6)	シルト	炭化物若干含む
	4	黄褐 (10YR 5／6)	粘土質シルト	炭化物粒、ロームブロック含む
	5	褐 (10YR 4／6)	粘土質シルト	ローム粒、砂粒含む。ピット内堆積土
15	1	褐 (7.5YR 4／4)	シルト	炭化物、ローム粒、霜降状に含む
	2	暗褐 (7.5YR 3／4)	粘土質シルト	ローム粒含む
	3	褐 (7.5YR 4／3)	粘土質シルト	暗褐（10YR 3／3）粘土質シルトブロック含む
16	1	褐 (10YR 4／6)	シルト質粘土	ローム粒霜降状に含む
	2	明褐 (7.5YR 5／6)	シルト質粘土	ロームブロック含む
	3	褐 (7.5YR 4／6)	粘土質シルト	ローム粒若干含む
	4	褐 (7.5YR 4／4)	シルト質粘土	ロームブロック含む
	5	褐 (10YR 4／6)	シルト質粘土	ローム粒、砂粒含む
	6	褐 (10YR 4／6) 明黄褐 (10YR 6／8)	シルト質粘土	ロームブロック含む
	7	黄褐 (10YR 5／6)	粘土	ローム粒、砂粒含む
	8	明黄褐 (10YR 6／6)	粘土	壁崩落土

第16図　SK－10・11・12・13・14・15・16　土坑

SK	位置	平面形	規模（cm）	壁（cm）	底面（ピットcm）	方向	備考
17	I－AI－26	隅丸長方形	90×65	北東部68、南壁オーバーハング	平坦、中央低、ピット18×16×60	N－2°－E	
18	I－AE－31	不整隅丸長方形	155×111	南東隅70、やや緩傾斜	やや平坦、中央低、ピット18×17×42	N－36°－W	
19	I－AH－25・26	不整長方形	117×57	南壁129、急傾斜	小凸凹ピット南33×15×42、北42×18×34	N－13°－W	
20	I－AL－31	楕円形基調	(130)×(70)	北側82、急傾斜	平坦、中央低、ピット不明	(N－24°－E)	東側調査区外へ延びる
21	N－AE－53	不整楕円形	155×85	北西部82、やや緩傾斜	平坦、中央低、ピット32×24×47	N－51°－W	北側に攪乱を受けている
22	N－AG－53	不整長方形	118×65	北東部59、急傾斜	小凸凹、中央低、ピット19×16×45	N－67°－E	

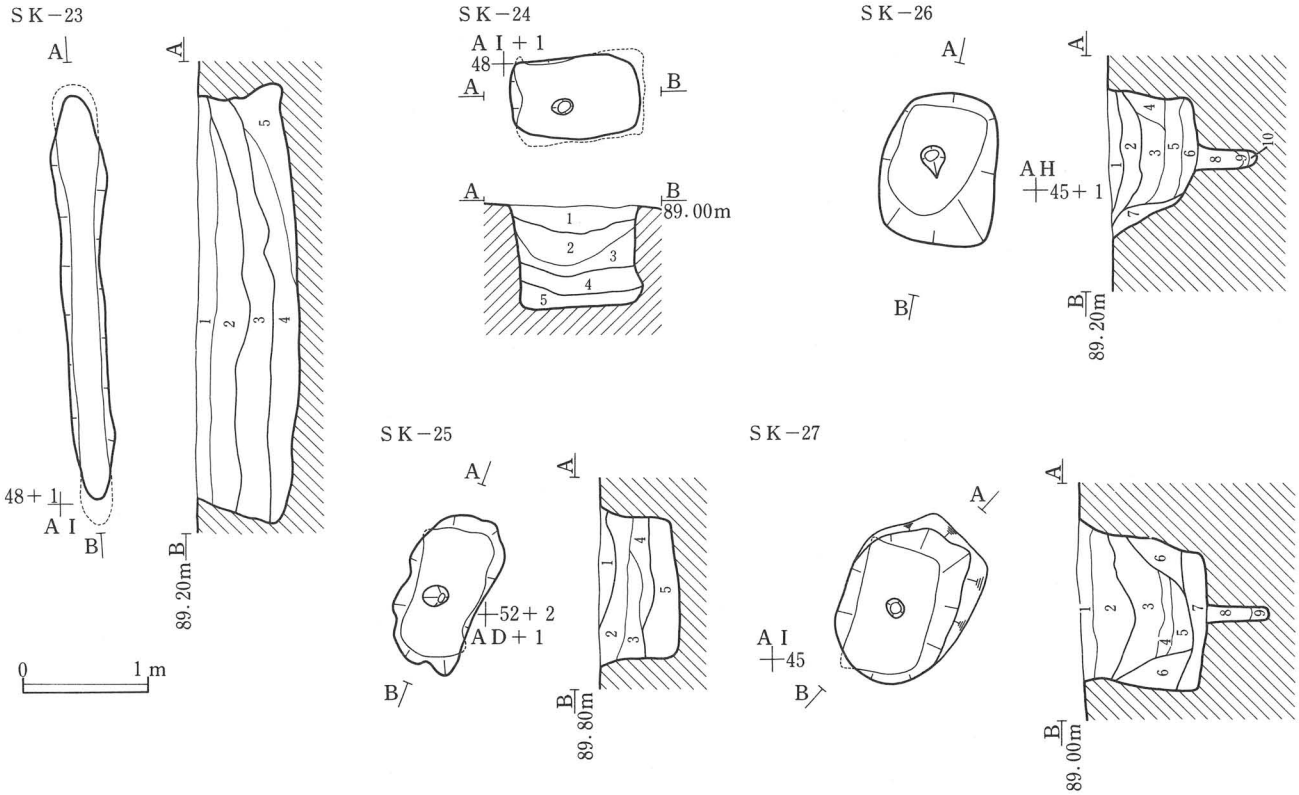


SK	層位	層No.	色調	土性	備考
17		1	褐 (7.5YR 4／6)	粘土質シルト	下部に炭化物含む。ローム粒霜降状に含む
		2	褐 (7.5YR 4／4)	シルト質粘土	炭化物、ローム粒含む
		3	褐 (7.5YR 4／4)	シルト質粘土	ローム粒含まない
		4	黄褐 (10YR 5／6) 褐 (7.5YR 4／4)	粘土質シルト	ピット内堆積土
18		1	黄褐 (10YR 5／6)	シルト	炭化物粒、マンガン粒、スコリア含む。
		2	褐 (10YR 4／6)	粘土質シルト	ローム粒霜降状に含む
		3	褐 (7.5YR 4／4)	粘土質シルト	炭化物粒、スコリア粒含む
		4	暗褐 (10YR 3／4)	シルト質粘土	ローム粒含む
		5	黄褐 (10YR 5／8)	シルト質粘土	壁の崩落土
		6	褐 (10YR 4／6) 黄褐 (10YR 5／6)	粘土質シルト	炭化物粒、ロームブロック含む
		7	褐 (7.5YR 4／6)	粘土質シルト	ローム粒含む
		8	明黄褐 (10YR 6／8)	粘土質シルト	砂粒含む
19	1	1	黄褐 (10YR 5／8) 黒褐 (10YR 3／2) 褐 (10YR 4／4)	シルト質粘土 粘土質シルト シルト質粘土	炭化物粒、褐 (10YR 4／4)・黄褐 (10YR 5／6) 土粒を霜降状に含む
	2	2	褐 (10YR 4／4)	シルト	暗褐 (10YR 3／3) 粘土質シルトブロック含む。黄褐 (10YR 5／8) ロームを霜降状に含む
		3	褐 (10YR 4／6)	シルト質粘土	炭化物含む。暗褐 (10YR 3／4) シルトを霜降状に含む
	3	4	暗褐 (7.5YR 3／4)	粘土質シルト	黄褐 (10YR 5／8) 粘土ブロック霜降状に含む
		5	黄褐 (10YR 5／6)	シルト質粘土	褐 (10YR 4／4) 粘土質シルト霜降状に含む
		6	暗褐 (7.5YR 3／3)	粘土質シルト	明黄褐 (10YR 6／8) ローム霜降状に含む
	4	7	褐 (10YR 4／4)	シルト質粘土	砂粒多く含む
		8	黄褐 (10YR 5／8)	粘土	砂粒含む
		9	褐 (10YR 4／6) 黄褐 (10YR 5／6)	粘土	

SK	層位	層No.	色調	土性	備考
20	基本3	1	暗褐 (10YR 3／4)	シルト	炭化物を含む
	基本4	2	黒褐 (10YR 2／2)	粘土質シルト	炭化物、オームブロック、小礫（径1～5mm）を含む 礫（径1～5mm）を含む
		1	3	褐 (10YR 4／6)	シルト	炭化物、バンバンブロック含む
		2	4	黄褐 (10YR 5／6)	シルト	バンバン粒含む
		3	5	褐 (7.5YR 4／6)	粘土質シルト	ローム粒霜降状に含む
		4	6	褐 (10YR 4／6)	粘土	ローム粒、砂粒含む
		5	7	明褐 (7.5YR 5／6)	粘土	マンガン粒、ローム粒、バンバン粒含
		6	8	黄褐 (10YR 5／8)	シルト質粘土	ロームブロック、砂粒多く含む
21	1	1	褐 (7.5YR 4／4)	粘土質シルト	炭化物細粒含む
		2	褐 (7.5YR 4／6)	粘土質シルト	炭化物細粒、ローム粒含む
		3	褐 (7.5YR 4／4)	シルト質粘土	ロームブロック、ローム粒霜降状に含む
	2	4	明黄褐 (10YR 6／8)	粘土	ローム崩落土
		5	褐 (10YR 4／6)	粘土質シルト	ロームブロック含む
22	1	1	褐 (10YR 4／6)	シルト	ロームブロック含む
	2	2	黄褐 (10YR 5／8)	粘土	ローム崩落土
	3	3	褐 (7.5YR 4／3)	シルト	ロームブロック含む
	4	4	褐 (10YR 4／4)	粘土質シルト	ローム粒霜降状に含む
		5	黄褐 (10YR 5／6)	粘土質シルト	

第17図　SK－17・18・19・20・21・22　土坑

SK	位置	平面形	規模（cm）	壁（cm）	底面（ピットcm）	方向	遺物、備考
23	N－AI－48・49	長楕円形	325×43	西壁中央部75、南北端オーバーハング	平坦、中央低	N－3°－W	
24	N－AI－47・48	不整長方形	102×65	南西部83、西壁除いてオーバーハング	平坦、中央低、ピット17×12×29	N－86°－E	
25	N－AD－52	不整楕円形	126×70	南東部64、急角度	小凸凹、中央低、ピット20×16×43	N－20°－E	
26	N－AG－45	不整隅丸長方形	123×90	北壁70、急角度	平坦、ほぼ同じレベル、ピット25×18×49	N－9°－E	
27	N－AI－44・45	不整楕円形	130×90	北西隅103、急角度	平坦、中央低、ピット20×14×48	N－25°－E	本来の土坑の北・東側に崩落の痕跡有

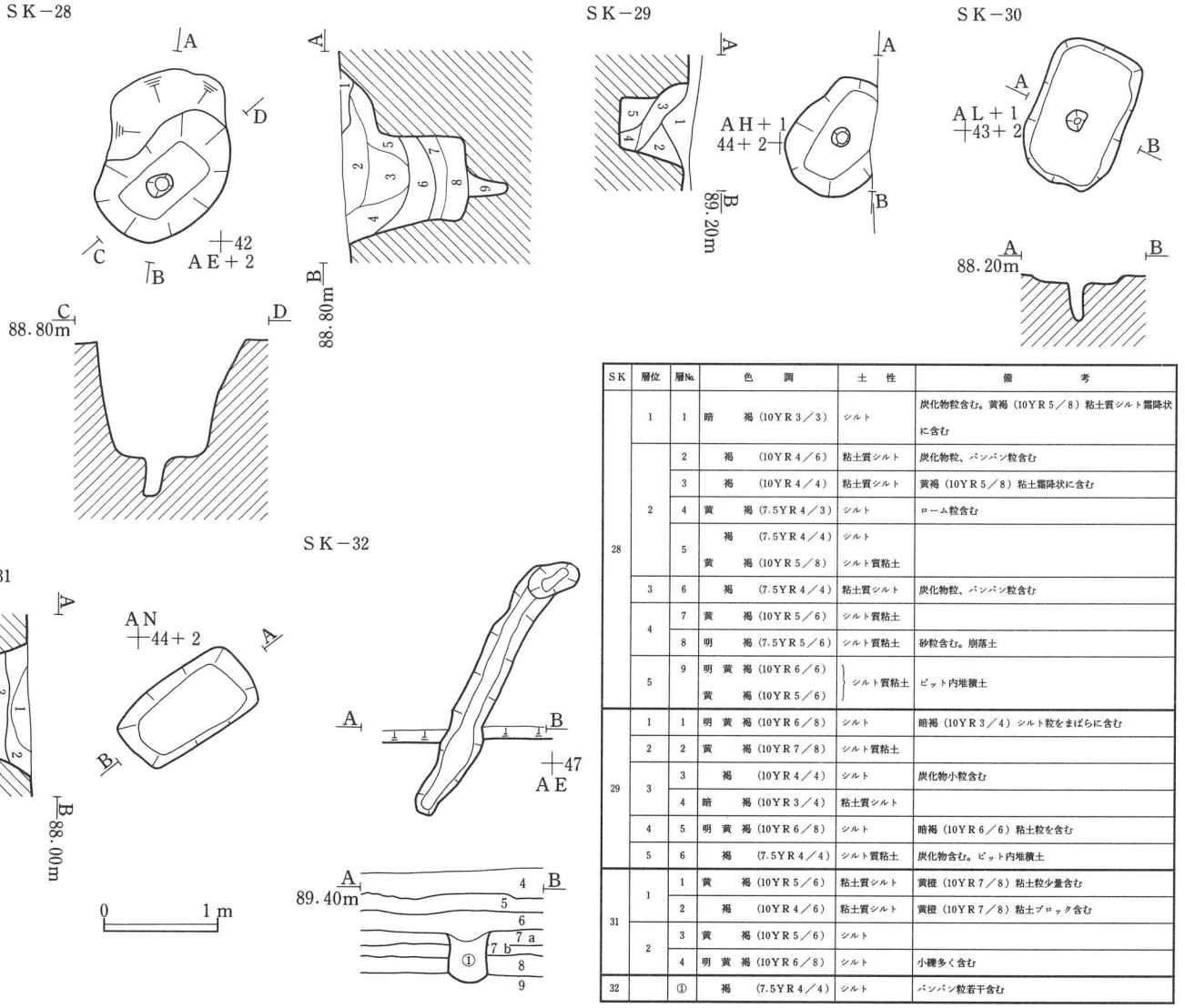


SK	層位	層No.	色調	土性	備考
23	1	1	褐（10YR4／6）	シルト	炭化物、ローム粒含む
		2	黄褐（10YR5／6）	シルト	ロームブロック、スコリア含む
	2	3	黄褐（10YR5／6） 黄褐（10YR5／8）	粘土質シルト	炭化物粒、ロームブロック含む
	3	4	褐（10YR4／6）	粘土質シルト	ローム粒霜降状に含む
		5	明黄褐（10YR6／6）	シルト質粘土	ロームブロック、砂粒含む
24	1	1	黄褐（10YR5／6）	粘土質シルト	
	2	2	褐（7.5YR4／4）	粘土質シルト	ローム粒霜降状に含む
		3	暗褐（7.5YR3／4）	シルト質粘土	ローム粒少量含む
	3	4	褐（10YR4／6）	粘土質シルト	ローム粒、小礫（径数mm）を含む
	4	5	暗褐（7.5YR3／4）	シルト質粘土	ロームブロック含む
	5	6	明黄褐（10YR6／8）	シルト質粘土	炭化物粒、砂粒含む。ピット内堆積土
25	1	1	明黄褐（10YR6／8）	シルト質粘土	炭化物小粒、少量含む
	2	2	褐（10YR4／6）	粘土質シルト	炭化物小粒、黄褐ロームブロック含む
		3	褐（7.5YR4／6）	粘土質シルト	
		4	褐（10YR4／6）	粘土質シルト	層No. 3よりやや暗い
	3	5	黄褐（10YR5／6）	シルト質粘土	黄褐、粘土小粒をまばらに含む

SK	層位	層No.	色調	土性	備考
26	1	1	黄褐（10YR5／6）	粘土質シルト	炭化物細粒少量含む
	2	2	褐（7.5YR4／4）	シルト	黄褐色粘土細粒まばらに含む
	3	3	褐（10YR4／6）	粘土質シルト	黄褐粘土小粒まばらに含む
		4	黄褐（10YR5／8）	シルト質粘土	黄褐粘土ブロック含む
		5	褐（7.5YR4／6）	シルト質粘土	炭化物少量、黄褐粘土ブロックを含む
		6	褐（7.5YR4／4）	シルト質粘土	
	4	7	黄褐（10YR5／8）	粘土質シルト	壁面の崩落土をブロック状に含む
	5	8	褐（7.5YR4／4）	シルト質粘土	
		9	黄褐（10YR5／6）	粘土	炭化物小粒、小礫をわずかに含む
		10	明黄褐（10YR6／8）	粘土	小礫含む
27	1	1	明黄褐（10YR6／6）	粘土質シルト	暗褐（10YR3／3）シルトブロックまばらに含む
		2	明黄褐（10YR6／8）	粘土質シルト	炭化物少量含む
	2	3	褐（10YR4／6）	シルト	明黄褐（10YR6／8）粘土質シルトブロック含む
		4	褐（10YR4／4）	シルト	層No. 3よりやや暗い
		5	暗褐（10YR3／4）	シルト質粘土	
	3	6	褐（10YR4／6）	シルト質粘土	明黄褐（10YR6／8）粘土ブロック含む
	4	7	明黄褐（10YR6／6）	シルト質粘土	
	5	8	褐（7.5YR4／4）	シルト質粘土	明黄褐（10YR6／8）粘土粒含む
		9	明黄褐（10YR6／8）	シルト質粘土	

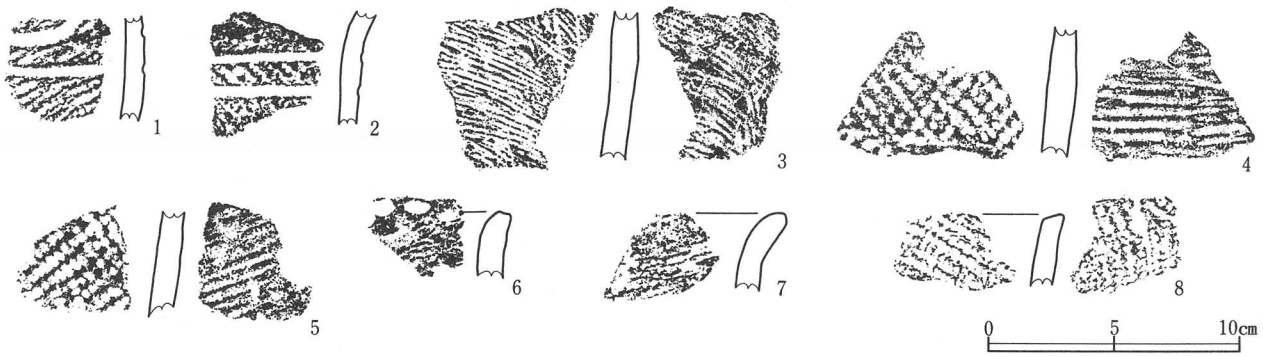
第18図　SK－23・24・25・26・27　土坑

SK	位置	平面形	規模（cm）	壁（cm）	底面（ピットcm）	方向	遺物、備考
28	Ⅳ－AE－42	不整楕円形	130×90	北西壁108、急角度	平坦、中央低、ピット23×17×34	N－48°－E	本来の土坑の北側に崩落の痕跡有
29	Ⅳ－AH－44	楕円形基調	108×(80)	南西隅65、急角度	平坦、中央低、ピット18×16×35	(N－42°－E)	東側はⅣ区南北ベルトのため掘下げ無
30	Ⅲ－AL－43	不整長方形	103×85	北壁6、緩傾斜	平坦、中央低、ピット18×16×32	N－20°－E	
31	Ⅲ－AM・AN－44	長方形	123×65	西隅35、緩傾斜	小凸凹、中央低、ピット無	N－55°－E	SI3床面下で検出
32	Ⅳ－AD・AE－46・47	溝状	255×33	南西部38、急傾斜	小凸凹、北端ピット45×36×15	N－28°－E	7層上面で検出



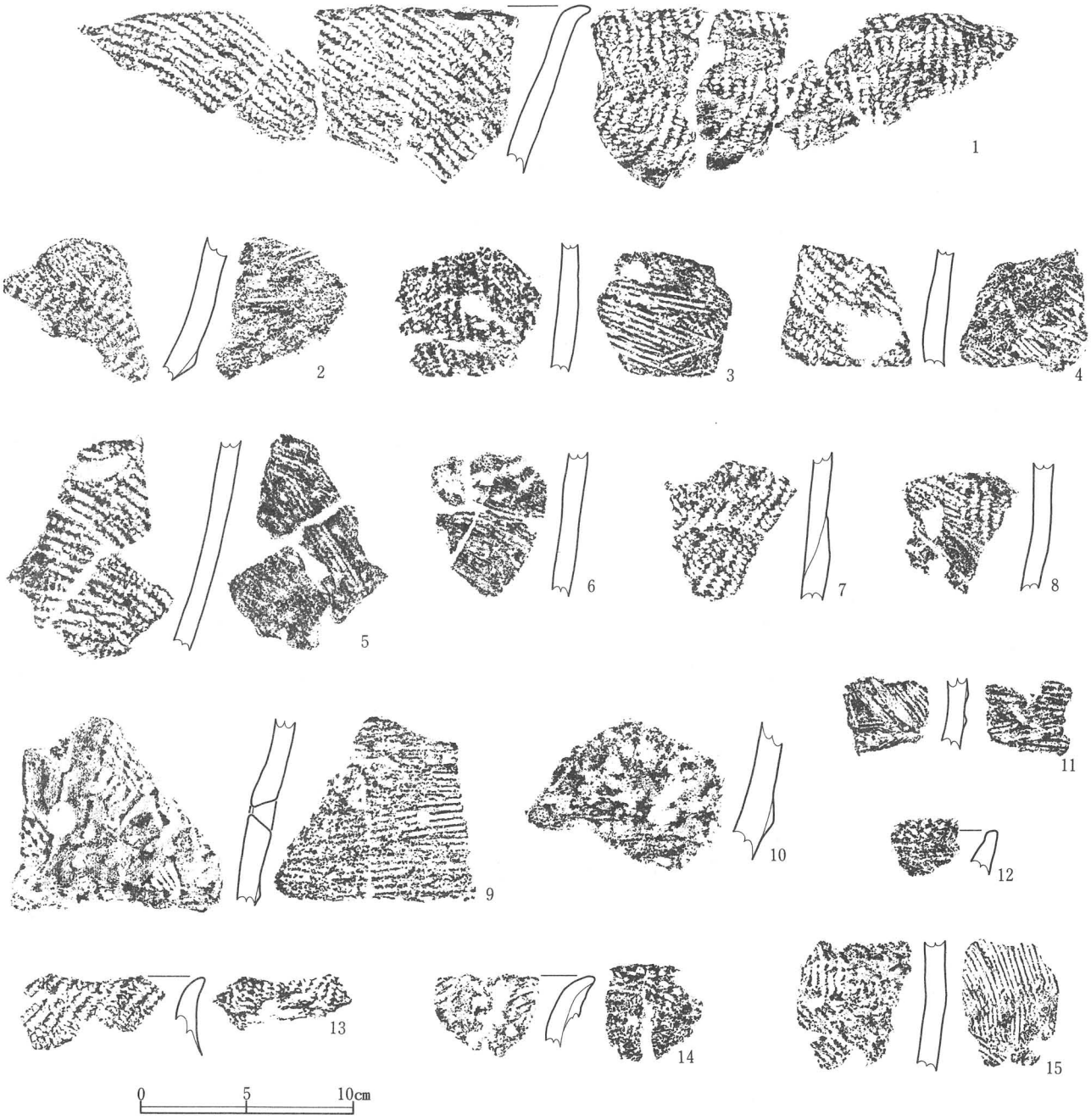
SK	層位	層No.	色調	土性	備考
28	1	1	暗褐（10YR3／3）	シルト	炭化物粒含む。黄褐（10YR5／8）粘土質シルト霜降状に含む
	2	2	褐（10YR4／6）	粘土質シルト	炭化物粒、バンバン粒含む
		3	褐（10YR4／4）	粘土質シルト	黄褐（10YR5／8）粘土霜降状に含む
		4	黄褐（7.5YR4／3）	シルト	ローム粒含む
		5	褐（7.5YR4／4） 黄褐（10YR5／8）	シルト シルト質粘土	
	3	6	褐（7.5YR4／4）	粘土質シルト	炭化物粒、バンバン粒含む
	4	7	黄褐（10YR5／6）	シルト質粘土	
		8	明褐（7.5YR5／6）	シルト質粘土	砂粒含む。崩落土
	5	9	明黄褐（10YR6／6） 黄褐（10YR5／6）	シルト質粘土	ピット内堆積土
29	1	1	明黄褐（10YR6／8）	シルト	暗褐（10YR3／4）シルト粒をまばらに含む
	2	2	黄褐（10YR7／8）	シルト質粘土	
	3	3	褐（10YR4／4）	シルト	炭化物小粒含む
		4	暗褐（10YR3／4）	粘土質シルト	
	4	5	明黄褐（10YR6／8）	シルト	暗褐（10YR6／6）粘土粒を含む
	5	6	褐（7.5YR4／4）	シルト質粘土	炭化物含む。ピット内堆積土
31	1	1	黄褐（10YR5／6）	粘土質シルト	黄橙（10YR7／8）粘土粒少量含む
		2	褐（10YR4／6）	粘土質シルト	黄橙（10YR7／8）粘土ブロック含む
	2	3	黄褐（10YR5／6）	シルト	
		4	明黄褐（10YR6／8）	シルト	小礫多く含む
32		①	褐（7.5YR4／4）	シルト	バンバン粒若干含む

第19図　SK－28・29・30・31・32　土坑



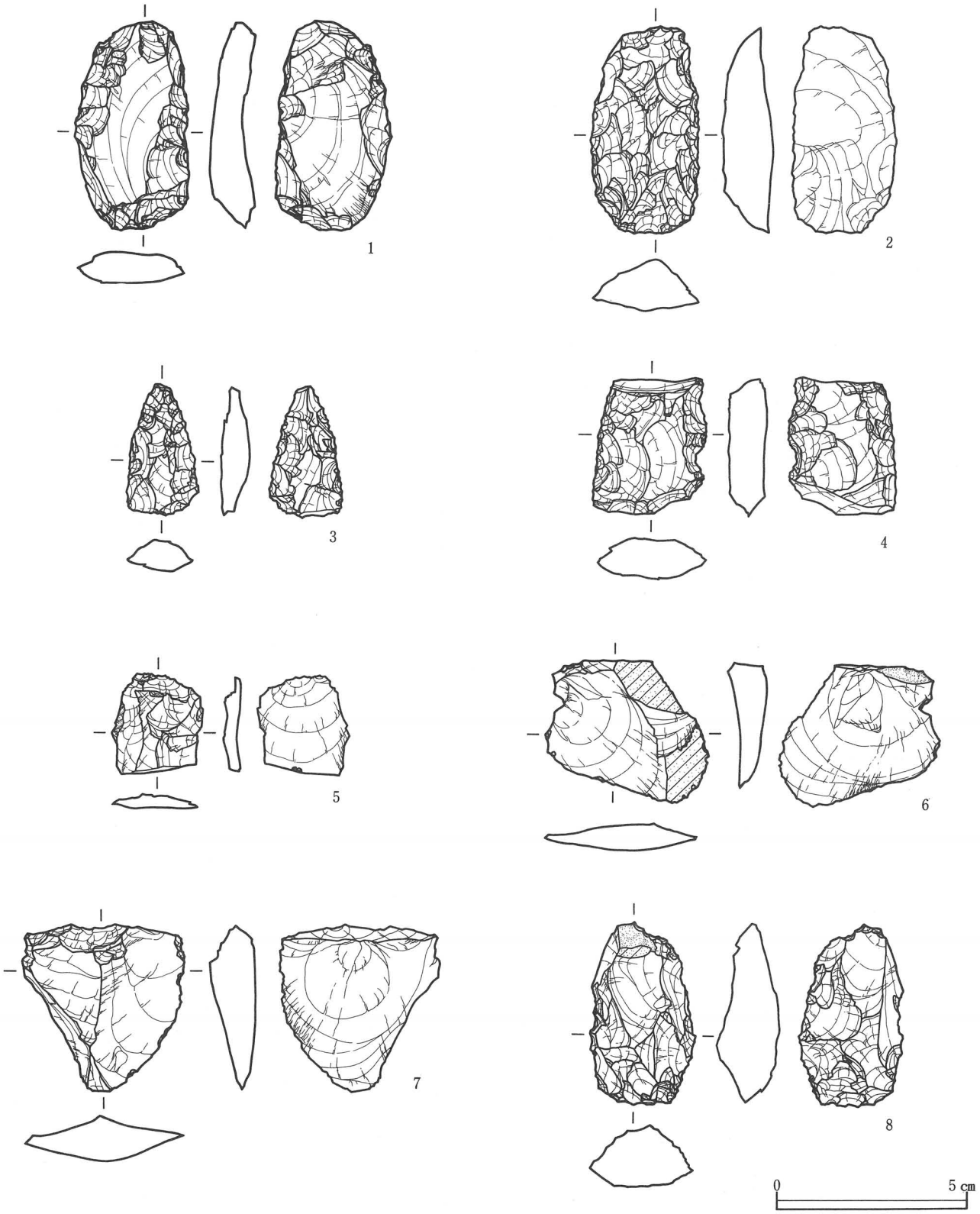
No.	出土位置	層位	種別	外面	内面	備考
1	Ⅱ-SK-2	堆積土	縄文土器	縄文LR、沈線文	ミガキ	
2	Ⅱ-SK-2	堆積土	縄文土器	縄文RL、沈線文	ミガキ	
3	Ⅱ-SK-3	堆積土	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
4	Ⅱ-SK-4	4上面	縄文土器	不明縄文	条痕文	胎土中に石英粒多く含む
5	Ⅱ-SK-6	3	縄文土器	縄文RL	条痕文	胎土中に石英粒多く含む
6	I-SK-12	4	縄文土器	条痕文。口唇部に刻目	ナデ	胎土中に植物繊維混入
7	I-SK-12	堆積土	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入。石英粒含む　図版67－1
8	I-SK-12	堆積土	縄文土器	縄文RL。口唇部に縄文RL	縄文RL	胎土中に植物繊維混入　図版67－2

第20図　土坑出土土器(1)



No.	出土位置	層位	種別	外面	内面	備考
1	I-SK-12	2	縄文土器	縄文RL。口唇部に縄文RL	縄文RL	胎土中に植物繊維混入。第20図No.8と同一個体。 図版67－4
2	I-SK-12	2	縄文土器	縄文LR、隆線文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
3	I-SK-12	3	縄文土器	不明縄文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
4	I-SK-12	3	縄文土器	縄文RL	条痕文、ナデ	胎土中に植物繊維混入
5	I-SK-12	3	縄文土器	縄文RL	条痕文	胎土中に植物繊維混入
6	I-SK-12	2	縄文土器	条痕文	不明	胎土中に植物繊維混入。内面にススタ状炭化物付着。
7	I-SK-12	堆積土	縄文土器	縄文LR	ナデ	胎土中に植物繊維混入
8	I-SK-12	4	縄文土器	縄文RL	マメツ	胎土中に植物繊維混入
9	I-SK-13	堆積土	縄文土器	隆線文、沈線文、刺突文	条痕文	胎土中に植物繊維少量混入。石英粒含む。 図版67－6
10	I-SK-15	堆積土	縄文土器	条痕文、隆線文、刺突文	マメツ	胎土中に植物繊維少量混入
11	I-SK-16	堆積土	縄文土器	条痕文、縄文LR、隆線文	条痕文	胎土中に植物繊維混入。砂粒含む
12	I-SK-16	堆積土	縄文土器	口縁端部近くと口唇部に縄文LR	ナデ	胎土中に植物繊維混入
13	I-SK-16	堆積土下部	縄文土器	縄文LR	口縁部近くに縄文LR	胎土中に植物繊維混入
14	I-SK-18	堆積土	縄文土器	不明縄文、隆線文	口縁端部近くに不明縄文	胎土中に植物繊維混入 図版67－3
15	I-SK-18	堆積土	縄文土器	縄文R	条痕文	胎土中に植物繊維混入

第21図　土坑出土土器(2)



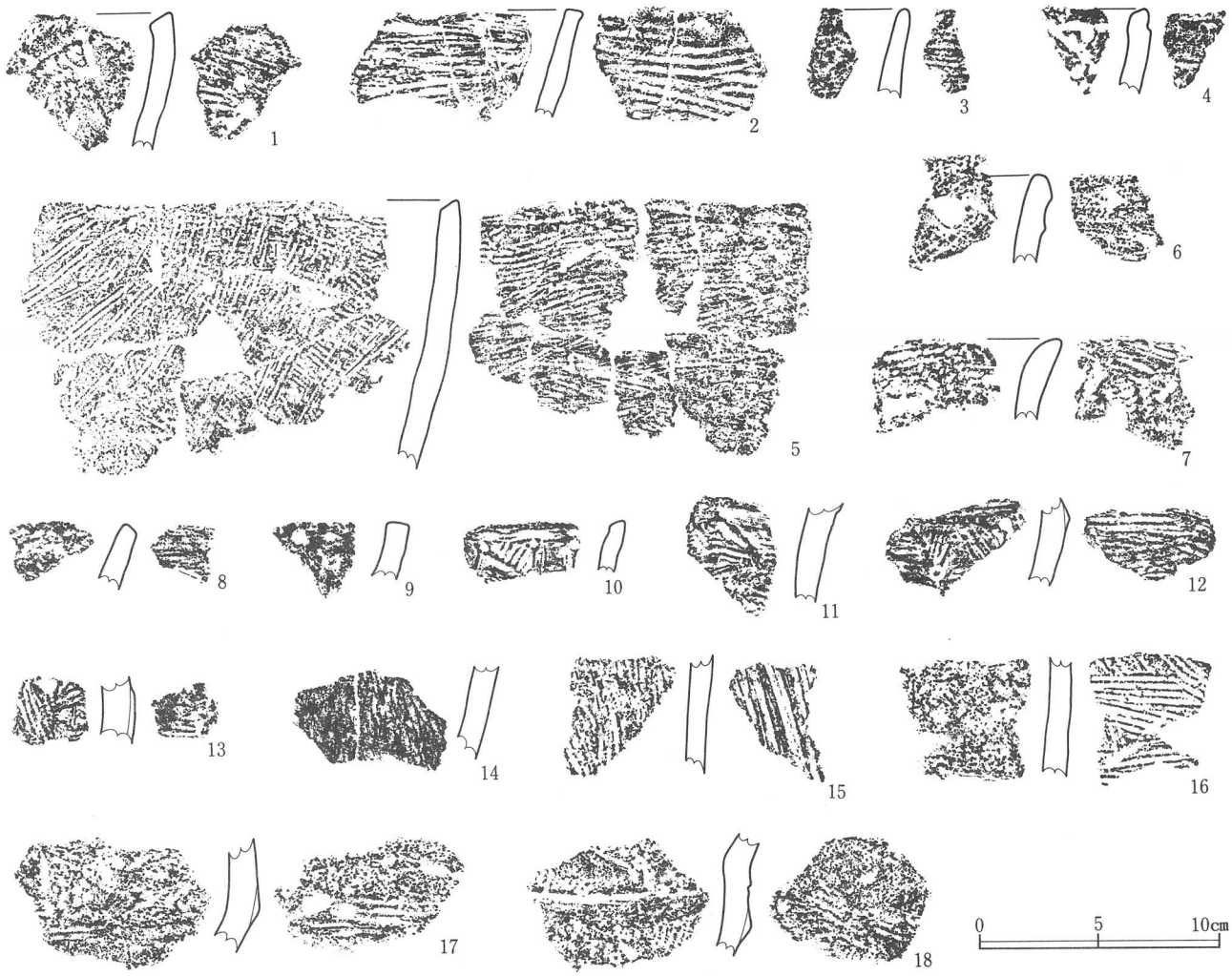
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	I-SK-8	2	篦状石器	5.3×2.8×1.0	18.6	凝灰岩	図版68－10
2	I-SK-9	堆積土	篦状石器	5.4×2.7×1.2	17.0	凝灰岩	図版68－11
3	I-SK-12		石鏃	3.4×1.8×0.7	4.2	珪質頁岩	図版68－12
4	I-SK-12	4	スクレーパー	3.5×2.8×1.0	13.2	玉髄	図版68－13
5	I-SK-12		二次加工剥片	2.6×2.2×0.4	2.1	珪質頁岩	
6	I-SK-15	堆積土	剥片	4.1×4.3×1.2	15.2	珪化凝灰岩	
7	I-SK-15	堆積土	剥片	4.5×4.0×1.0	10.2	珪質頁岩	
8	I-SK-16	堆積土	篦状石器	4.7×2.7×1.6	18.8	珪質頁岩	図版68－14

第22図　土坑出土石器

2．出土遺物

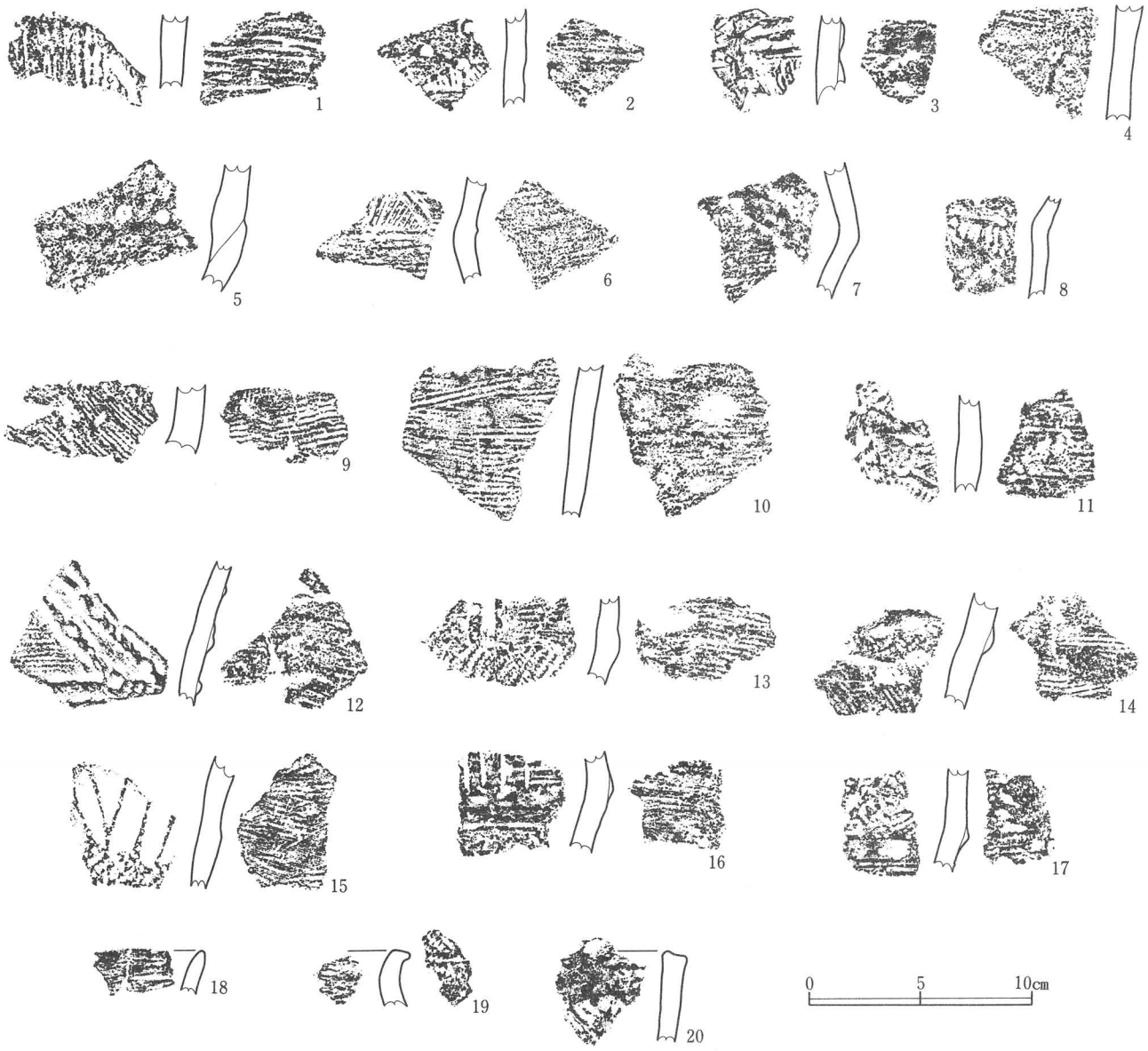
〈遺構外出土遺物〉

各区の１～４層出土の遺物及び表採遺物である。縄文土器、土師器、須恵器、石器、石製品がある。図示したものは縄文土器、剝片石器である。縄文土器は大部分が摩小片であり、全体の器形や文様を復元できるものはなく、特徴的な破片の拓本資料を示した。石器には石鏃、尖頭器、石錐、石匙、ヘラ状石器、スクレイパー、磨製石斧等がある。



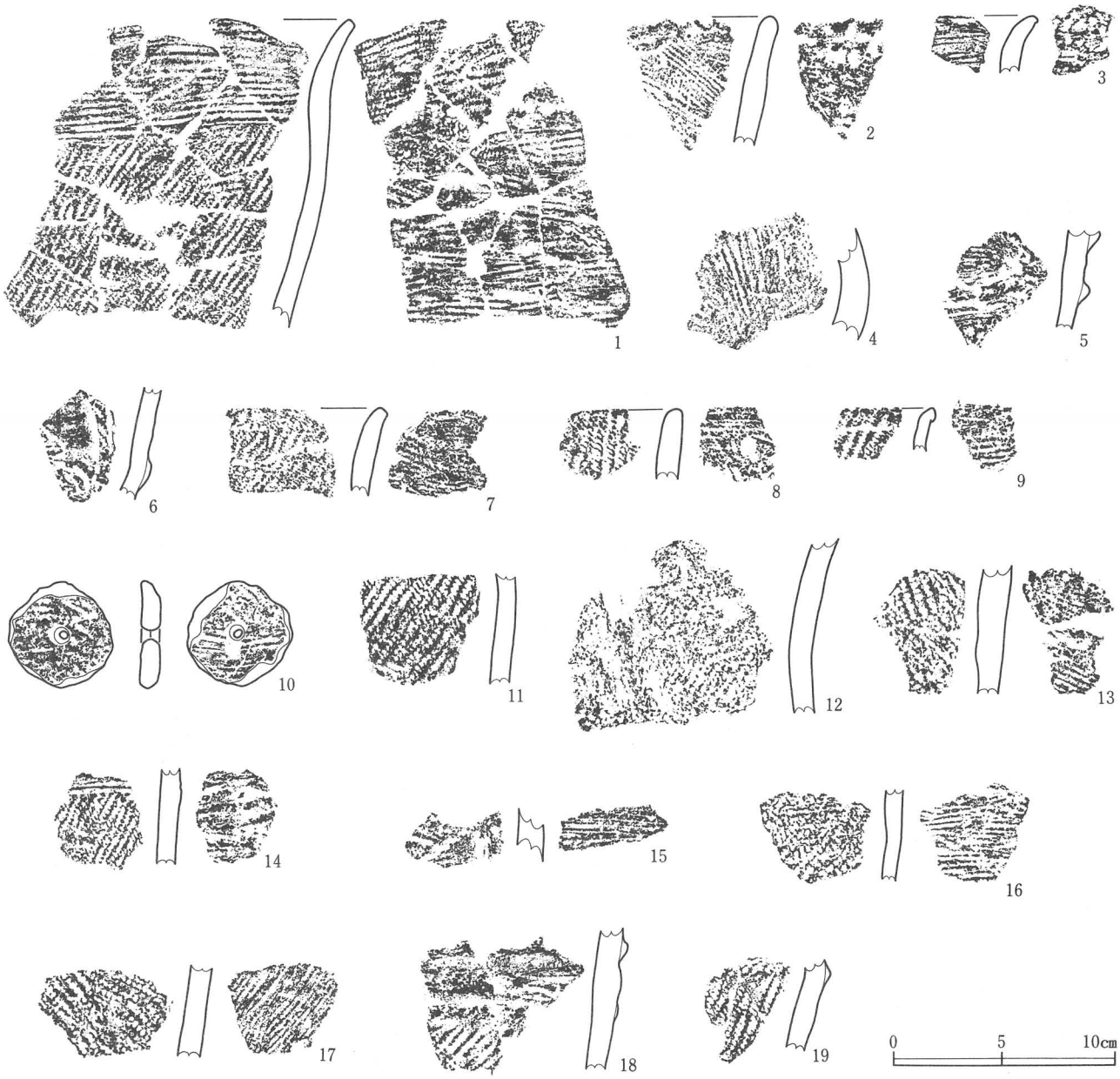
No.	出土位置	層位	種別	外面	内面	備考	
1	I-AD-31,32	不明	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入	図版67－5
2	I・II-AJ、AK-35,36	4	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入	図版67－8
3	I・II-AJ、AK-35,36	4	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入	
4	I-AJ-26	倒木痕	縄文土器	沈線文、刺突文	条痕文	胎土中に植物繊維混入	
5	I	表土	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入	図版67－7
6	I	表土	縄文土器	条痕文、隆線文、押圧文。口唇部に不明縄文	条痕文	胎土中に植物繊維混入。大粒の石英粒含む	
7	I	表土	縄文土器	条痕文	条痕文、不明縄文	胎土中に植物繊維混入	図版67－9
8	I	表土	縄文土器	マメツ	条痕文	胎土中に植物繊維混入	
9	I	表土	縄文土器	刺突文	マメツ	胎土中に植物繊維混入。砂粒多い	
10	II	西トレンチ	縄文土器	条痕文、隆線文、沈線文、刺突文	条痕文	胎土中に植物繊維混入。小粒の砂粒多い	
11	I-AG-30	倒木痕	縄文土器	条痕文、隆線文	条痕文	胎土中に植物繊維混入	
12	I、II-AJ,AK-35,36	4	縄文土器	条痕文、隆線文、沈線文、刺突文	条痕文	胎土中に植物繊維混入	図版67－10
13	I、II-AJ,AK-35,36	4	縄文土器	条痕文、隆線文、押圧文	条痕文	胎土中に植物繊維混入	図版67－11
14	I-AL-31	不明	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入	
15	I	表土	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入	
16	I	表土	縄文土器	マメツ	条痕文	胎土中に植物繊維混入	図版67－12
17	I	表土	縄文土器	条痕文、隆線文、沈線文、刺突文	条痕文	胎土中に植物繊維混入。大粒の砂粒多い	図版67－13
18	I	表土	縄文土器	条痕文、隆線文、沈線文、刺突文、ナデ	条痕文	胎土中に植物繊維混入	

第23図　遺構外出土土器(1)



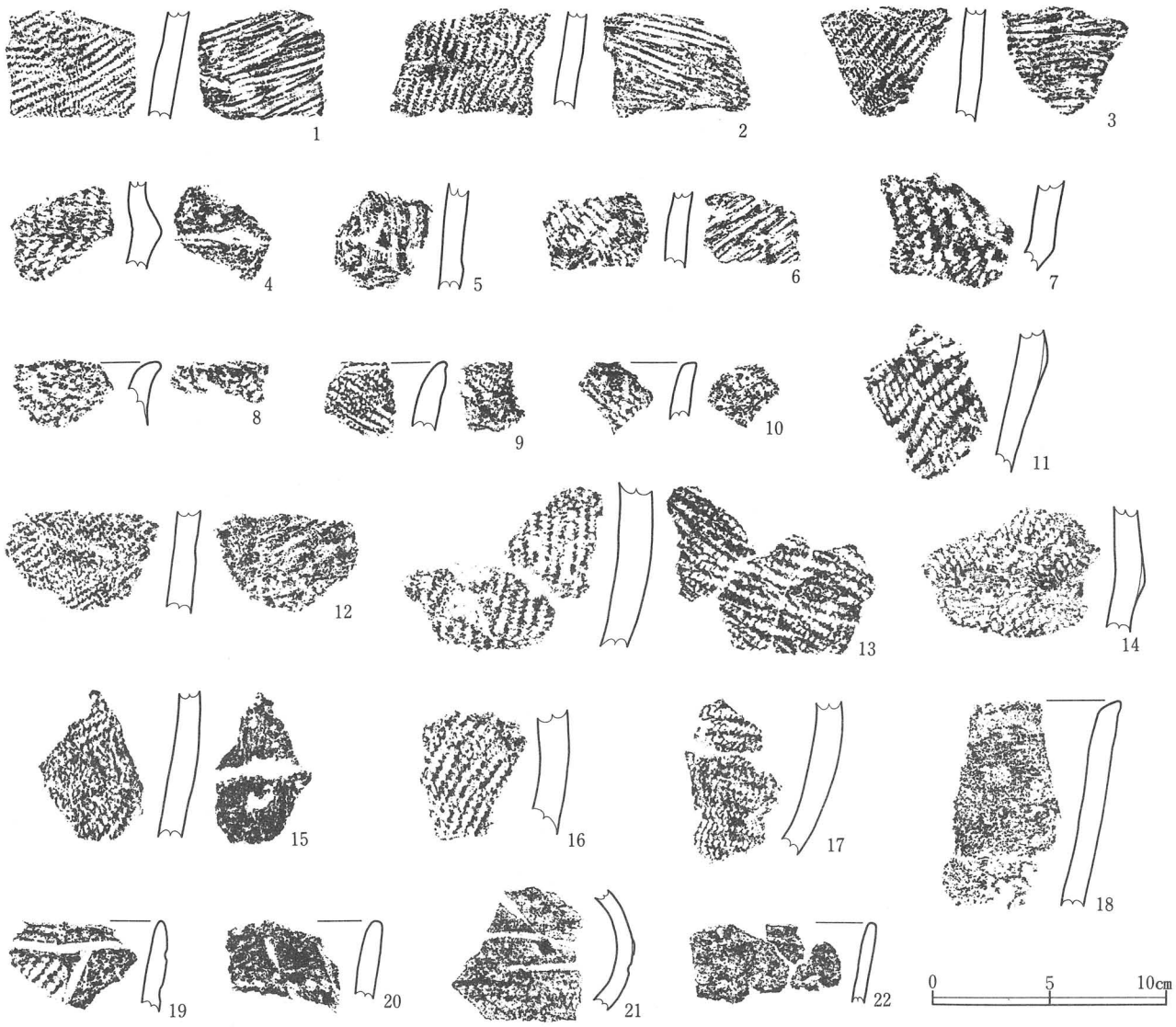
No.	出土位置	層位	種別	外面	内面	備考
1	Ⅰ	表土	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
2	Ⅰ	表土	縄文土器	条痕文、沈線文、刺突文	条痕文	胎土中に植物繊維混入。砂粒多い
3	Ⅰ	表土	縄文土器	条痕文、隆線文、貝殻頂部押圧	条痕文	胎土中に植物繊維混入　図版67－15
4	Ⅰ	表土	縄文土器	条痕文、隆線文、刺突文、	マメツ	胎土中に植物繊維混入。砂粒多い
5	Ⅰ	表土	縄文土器	条痕文、隆線文、刺突文	マメツ	胎土中に植物繊維混入。砂粒多い
6	Ⅰ	4	縄文土器	条痕文、隆線文、沈線文、刺突文	条痕文	胎土中に植物繊維混入　図版67－16
7	Ⅰ	不明	縄文土器	条痕文、刺突文	条痕文	胎土中に植物繊維混入。砂粒多い
8	Ⅱ	西トレンチ	縄文土器	条痕文、隆線文、沈線文、刺突文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
9	Ⅰ	不明	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
10	Ⅱ－BA－29	倒木痕	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入。砂粒多い　図版67－14
11	Ⅱ	表土	縄文土器	条痕文、隆線文、沈線文、刺突文、	条痕文	胎土中に植物繊維混入。砂粒、金雲母多い
12	Ⅲ－AM－45	倒木痕	縄文土器	条痕文、縄文LR、隆線文	条痕文	胎土中に植物繊維混入　図版67－17
13	Ⅲ	4	縄文土器	条痕文、縄文LR、隆線文	条痕文	胎土中に植物繊維混入。砂粒多い　図版67－18
14	Ⅲ	4	縄文土器	条痕文、縄文LR、隆線文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
15	Ⅲ	表土	縄文土器	縄文LR、隆線文、ナデ	条痕文	胎土中に植物繊維混入　図版67－19
16		不明	縄文土器	条痕文、隆線文、沈線文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
17		不明	縄文土器	条痕文、隆線文、沈線文、刺突文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
18	Ⅰ－AⅠ－34	4	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
19	Ⅰ－AD－32	4	縄文土器	条痕文。口唇部に縄文RL	縄文RL	胎土中に植物繊維混入
20	Ⅰ、Ⅱ－AJ.AK－35,36	4	縄文土器	沈線文、刺突文。突起頂部肥厚	条痕文	胎土中に植物繊維混入

第24図　遺構外出土土器(2)



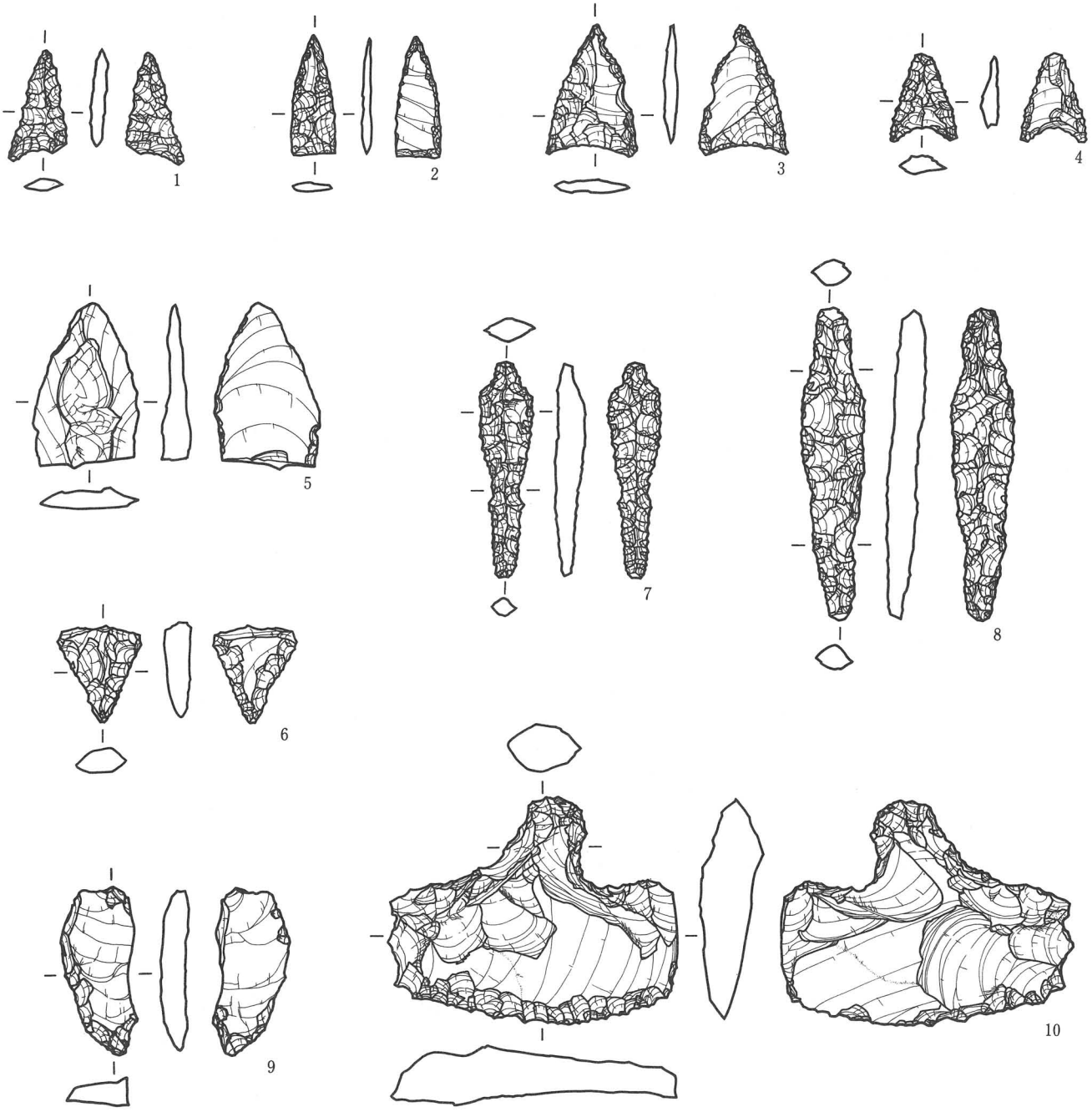
No.	出土位置	層位	種別	外面	内面	備考
1	Ⅲ-AD-45	倒木痕	縄文土器	条痕文、縄文LR	条痕文、縄文LR	胎土中に植物繊維混入　図版67－21
2		不明	縄文土器	条痕文。口唇部に刻目	マメツ	胎土中に植物繊維混入
3		不明	縄文土器	条痕文	不明縄文	胎土中に植物繊維混入
4	Ⅰ	表土	縄文土器	条痕文	マメツ	胎土中に植物繊維混入　図版67－20
5		不明	縄文土器	条痕文、隆線文	マメツ	胎土中に植物繊維混入
6		不明	縄文土器	条痕文、縄文LR、縄文L圧痕	ナデ	胎土中に植物繊維混入
7	Ⅰ	表土	縄文土器	縄文LR。口唇部に縄文LR	条痕文	胎土中に植物繊維混入　図版67－22
8	Ⅰ	表土	縄文土器	縄文LR	条痕文	胎土中に植物繊維混入
9	Ⅰ	4	縄文土器	縄文LR	条痕文	胎土中に植物繊維混入
10	Ⅰ-AⅠ-26	表土	縄文土器	縄文RL、穿孔	条痕文	胎土中に植物繊維混入。土製円板、18.4g　図版67－23
11	Ⅰ、Ⅱ-AJ,AK-35,36	4	縄文土器	縄文LR	条痕文	胎土中に植物繊維混入
12	Ⅰ-AL-31	表土	縄文土器	縄文LR、隆線文	条痕文	胎土中に植物繊維混入。大粒の砂粒多い
13	Ⅰ	表土	縄文土器	縄文RL	条痕文	胎土中に植物繊維混入
14	Ⅰ	表土	縄文土器	条痕文、縄文LR	条痕文	胎土中に植物繊維混入
15	Ⅰ	表土	縄文土器	縄文RL圧痕、隆線文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
16	Ⅰ	4	縄文土器	縄文LR	条痕文	胎土中に植物繊維混入。砂粒多い
17	Ⅰ	4	縄文土器	縄文RL	条痕文	胎土中に植物繊維混入
18	Ⅱ	西壁南端	縄文土器	条痕文、縄文LR、隆線文	条痕文	胎土中に植物繊維混入　図版67－24
19	Ⅲ-AM-45	木痕中	縄文土器	縄文LR、隆線文	条痕文	胎土中に植物繊維混入

第25図　遺構外出土土器(3)



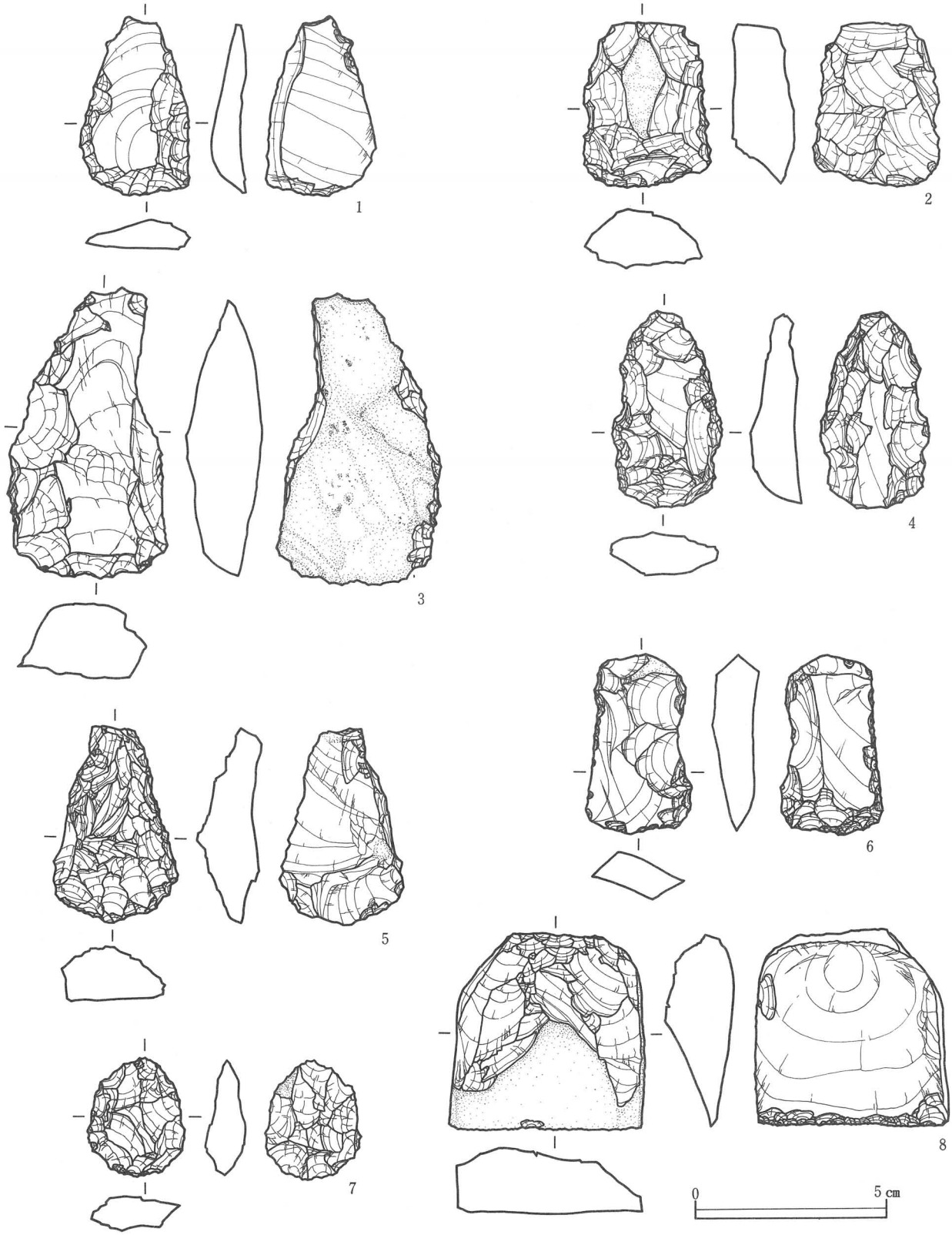
No.	出土位置	層位	種別	外面	内面	備考
1	Ⅲ-AP-45	倒木痕	縄文土器	縄文LR	条痕文	胎土中に植物繊維混入　図版67－25
2	Ⅲ	表土	縄文土器	縄文LR	条痕文	胎土中に植物繊維混入　図版68－1
3	Ⅲ	表土	縄文土器	縄文LR	条痕文	胎土中に植物繊維混入
4	Ⅲ	表土	縄文土器	縄文LR、隆線文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
5	Ⅳ-AG-41	倒木痕	縄文土器	隆線文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
6		不明	縄文土器	条痕文、縄文LR	条痕文	胎土中に植物繊維混入
7		不明	縄文土器	縄文RL、隆線文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
8	Ⅰ	表土	縄文土器	縄文RL	縄文RL	胎土中に植物繊維混入
9	Ⅰ	表土	縄文土器	縄文RL。口唇部に縄文RL	縄文RL	胎土中に植物繊維混入
10	Ⅰ	表土	縄文土器	縄文RL	マメツ	胎土中に植物繊維混入
11	Ⅰ-AC,AE-31,32	4	縄文土器	縄文LR、隆線文	マメツ	胎土中に植物繊維混入
12	Ⅰ	4	縄文土器	縄文LR	条痕文	胎土中に植物繊維混入。丹塗り
13	Ⅰ	表土	縄文土器	縄文LR	縄文LR	胎土中に植物繊維混入
14	Ⅰ	表土	縄文土器	縄文LR、隆線文	ナデ	胎土中に植物繊維混入　図版68－2
15	Ⅰ	表土	縄文土器	縄文LR	マメツ	胎土中に植物繊維混入
16	Ⅰ	表土	縄文土器	縄文LR	マメツ	胎土中に植物繊維混入
17	Ⅲ-AM-45	倒木痕	縄文土器	縄文LR	ナデ	胎土中に植物繊維混入
18	Ⅰ	不明	縄文土器	不明縄文、ミガキ	マメツ	砂粒多い
19	Ⅱ	表土	縄文土器	縄文LR、沈線文	ミガキ	大粒の砂粒多い　図版68－4
20	Ⅲ	表土	縄文土器	LR縄文原体圧痕	マメツ	砂粒多い　図版68－3
21	Ⅱ	4	縄文土器	沈線文、ミガキ、貼瘤	ナデ	
22	Ⅰ-AJ,AK-35	4	縄文土器	ミガキ	ミガキ	

第26図　遺構外出土土器(4)



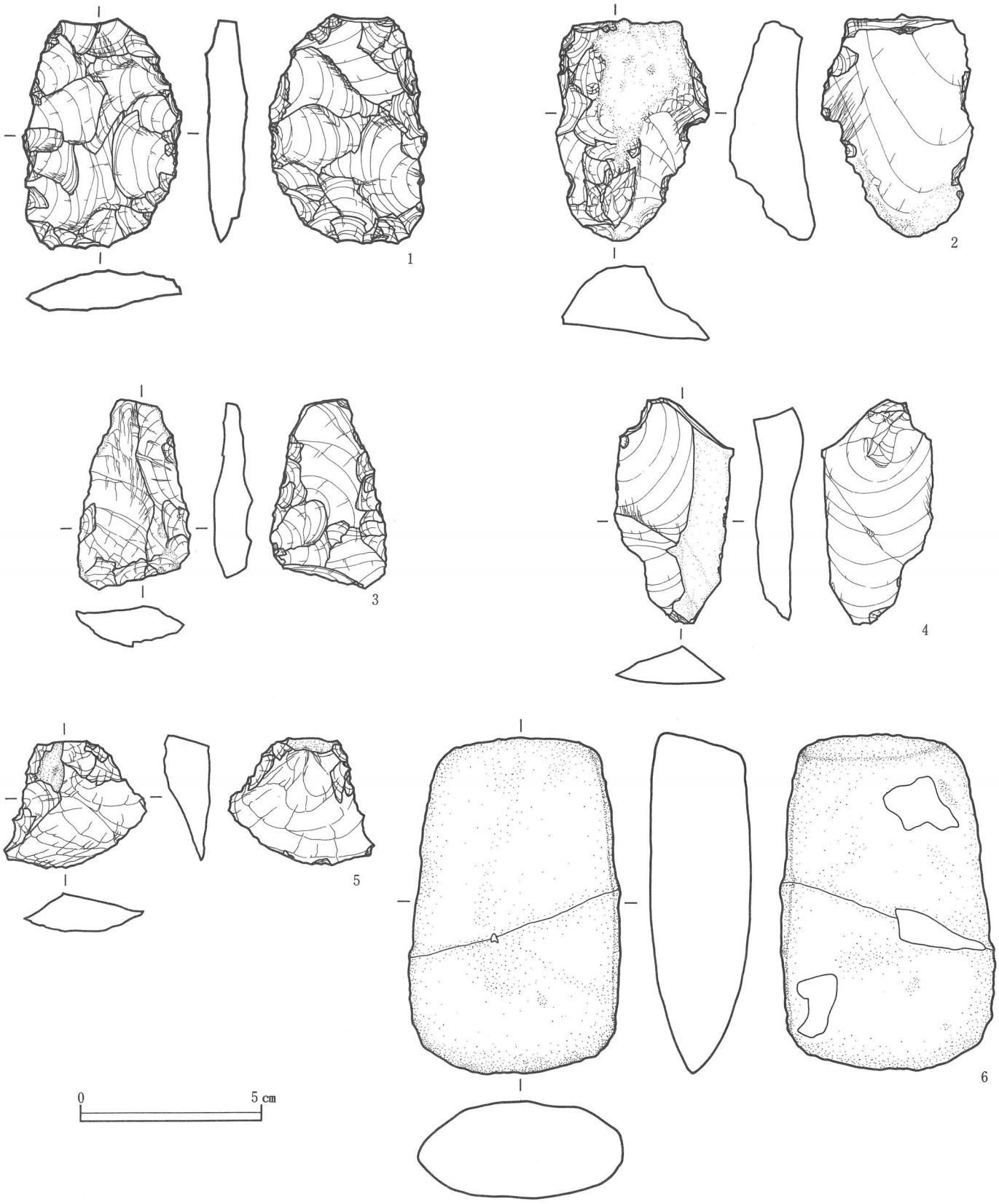
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅲ	−	石鏃	2.3×1.2×0.3	0.7	珪質頁岩	図版68−15
2	Ⅲ	−	石鏃	2.8×1.0×0.3	0.9	珪質頁岩	図版68−16
3	Ⅳ-AG-35	−	石鏃	2.9×2.0×0.3	1.4	凝灰岩	図版68−17
4		表採	石鏃	1.8×1.5×0.4	0.8	珪質頁岩	図版68−18
5		表採	尖頭器	3.8×2.4×0.7	4.8	凝灰岩	図版68−19
6	Ⅰ	4	石錐	2.3×1.9×0.6	2.5	珪質頁岩	図版68−20
7	Ⅲ	−	石錐	5.1×1.2×0.6	2.7	珪質頁岩	図版68−21
8		表採	石錐	7.4×1.4×0.7×	6.9	珪質頁岩	図版68−22
9		表採	石錐	3.9×1.7×0.6	4.0	凝灰岩	図版68−23
10	Ⅲ	−	石匙	5.3×6.7×1.4	41.2	珪質頁岩	図版68−24

第27図　遺構外出土石器(1)



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	I-AJ,AK-35,36	4	篦状石器	4.6×2.7×0.8	8.8	凝灰岩	図版68－25
2	I-AI-34	4	篦状石器	4.2×3.2×1.6	24.4	石英安山岩質凝灰岩	図版68－26
3	I	4	篦状石器	7.4×4.0×1.9	57.5	石英安山岩質凝灰岩	図版68－27
4		表採	篦状石器	5.0×2.8×1.1	17.8	珪質頁岩	図版68－28
5		表採	篦状石器	5.0×3.1×1.5	20.8	珪化凝灰岩	図版68－29
6		表採	篦状石器	4.6×2.1×1.1	16.2	珪質頁岩	図版68－30
7	I	4	スクレーパー	3.0×2.5×1.0	5.7	石英安山岩	図版68－31
8	I	表採	スクレーパー	4.9×5.0×2.0	52.5	珪質頁岩	図版68－32

第28図　遺構外出土石器(2)



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1		表採	スクレーパー	6.1×4.1×1.0	30.6	珪質頁岩	図版68－33
2	Ⅲ	－	スクレーパー	6.0×3.9×2.0	31.8	凝灰岩	図版68－34
3		表採	スクレーパー	5.0×3.0×1.1	12.6	石英安山岩質凝灰岩	図版68－34
4		表採	剥片	5.8×3.0×1.3	19.6	珪質頁岩	微細剥離痕有り
5	Ⅰ	4	剥片	3.5×3.4×1.2	11.4	凝灰岩	
6	Ⅰ	4	磨製石斧	9.1×5.7×2.7	220.8	石英安山岩	図版68－36

第29図　遺構外出土石器(3)

〈Ⅰ区5層〉

層中から遺物が出土している。土器片及び石器が出土している。土器片は全て摩小片であり、器形や文様が判別できる資料はないが、胎土中に植物繊維を多量に含んだものが大部分である。石器は346点出土している。そのうち69点は木根の撹乱及び倒木痕の5層レベルから出土したものである。ほぼ調査区の全域から出土しているが、特に調査区中央から北半部にかけて多く出土している。

層上面の傾斜は西部が高く、東に向かって徐々に低くなる緩い尾根状の傾斜を示しており、傾斜のより緩やかな部分に遺物は多く出土している。中でもAI－27・28、AF•AG－28・29、AF•AG－31・32、AD－31・32の4ヶ所のグリッド付近を中心に遺物が集中して出土する部分が認められる。

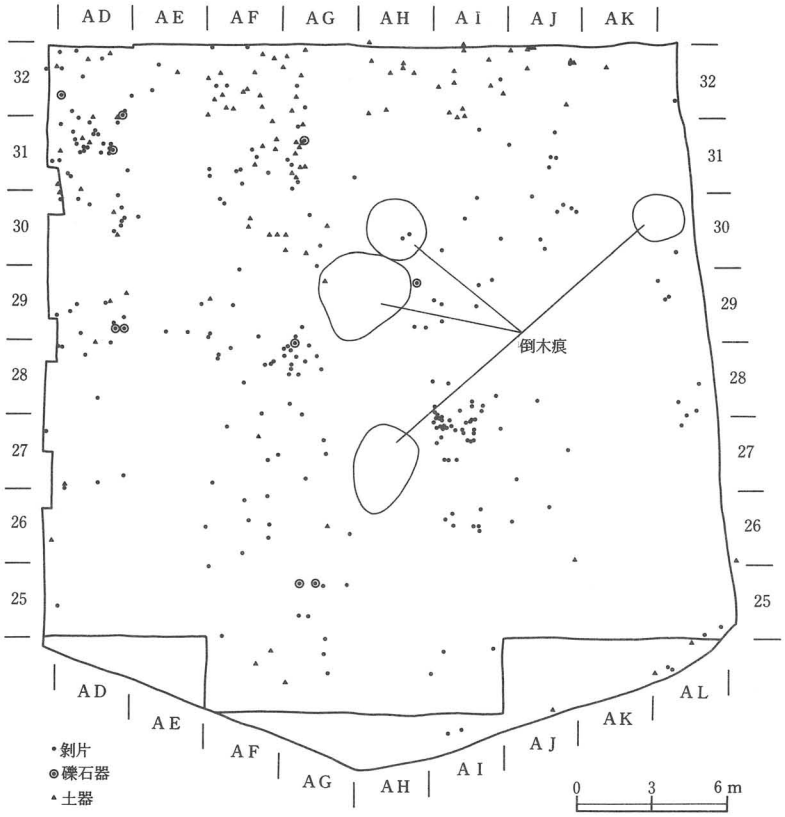
AI－27・28グリッドの遺物集中出土部分では、半径約2mの範囲内に39点の石器が出土している。全て剝片である（第36図8、第37図6、第38図1）。同一母岩と考えられる資料もみられ、中には折れた部分で接合する剝片もある（第37図6、第38図1）。

AF•AG－28・29グリッドの遺物集中出土部分では、半径約1.5mの範囲内に19点の石器が出土している。剝片石器18点と礫石器1点である。剝片石器は石核1点の他は全て剝片であり、同一母岩と考えられる資料もみられるが、接合関係はない。

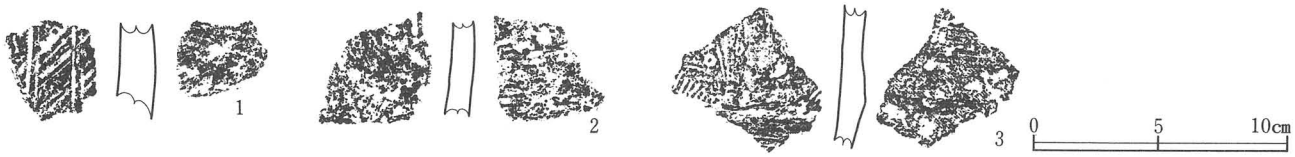
AF•AG－31・32グリッドの遺物集中出土部分では、約6×4mの範囲内に土器が37点、石器が17点出土している。土器は全て摩小片であり、器形、文様の復元できるものはないが、胎土中に多量の植物繊維が含まれているものが多い。石器にはヘラ状石器が1点（第33図4）あり、その他は剝片である。同一母岩と考えられる資料はみられない。

AD－31・32グリッドの遺物集中部分では、約6×3mの範囲内に土器が12点、石器が42点出土している。遺物は調査区外の西側に広がっているものと考えられる。土器は全て摩小片であり、器形、文様の復元できるものはないが、胎土中に多量の植物繊維が含まれているものが多い。石器にはスクレイパー2点（図示は第35図3のみ）、礫石器2点（第41図3、4）があり、その他は剝片（図示は第37図4のみ）である。同一母岩と考えられる資料もあるが接合関係はない。

また、Ⅰ区中央部AGラインに設けた幅1mの土層観察ベルトの28グリッド以北の5層土壌を水洗選別した結果、チップ及び剝片が検出された。

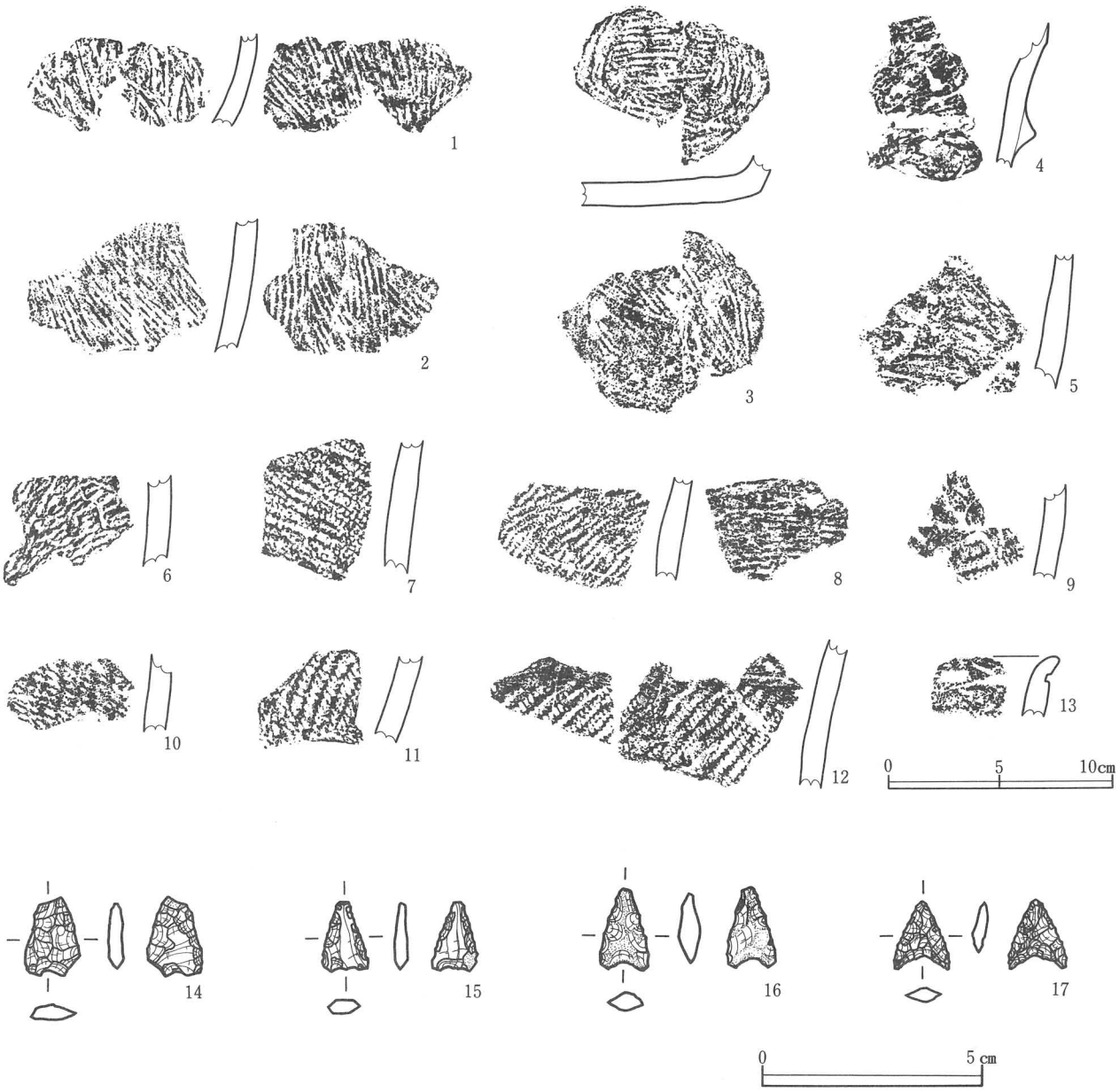


第30図　Ⅰ区5層遺物出土状況



No.	出土位置	層位	種別	外面	内面	備考
1	I-AD-32	5	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
2	I-AF-30	5	縄文土器	隆線文、刺突文	条痕文	胎土中に植物繊維混入
3	I-AF-31	5	縄文土器	条痕文、隆線文、沈線文、刺突文	条痕文	胎土中に植物繊維混入

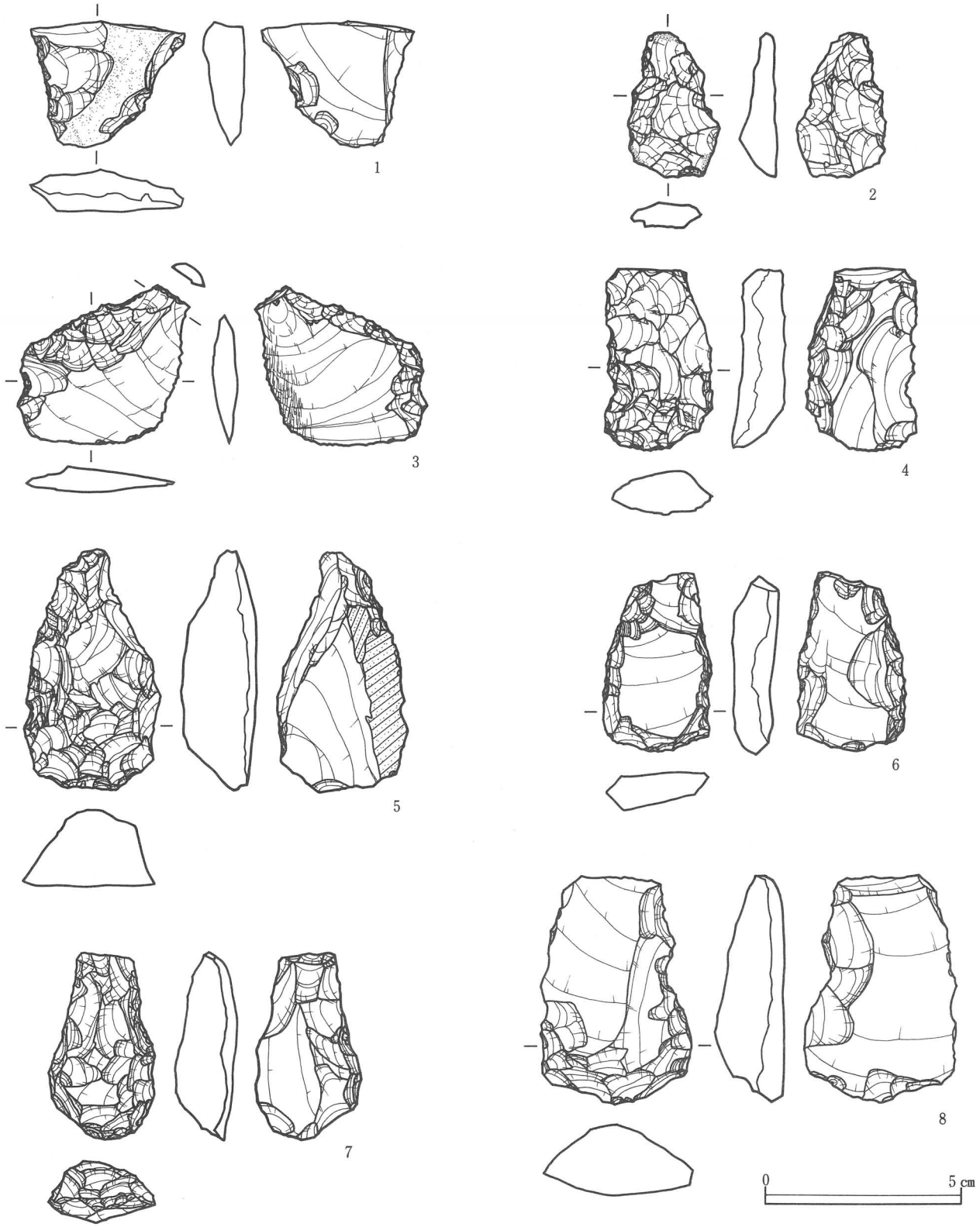
第31図　Ⅰ区5層出土遺物(1)



No.	出土位置	層位	種別	外面	内面	備考
1	I-AF-31	5	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入　図版68－5
2	I-AI-26	5上	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入　図版68－6
3	I-AI-26 I-AJ-26	5 5	縄文土器	条痕文	条痕文	胎土中に植物繊維混入　図版68－7
4	I-AD-31,32	5上	縄文土器	条痕文、隆線文	ナデ	胎土中に植物繊維混入
5	I-AF-32	5上	縄文土器	条痕文	マメツ	胎土中に植物繊維混入。大粒の砂粒多い
6	I-AG-26	5	縄文土器	縄文L	条痕文	胎土中に植物繊維混入
7	I-AJ-32	5	縄文土器	縄文RL	条痕文	胎土中に植物繊維混入
8	II-AD-31	5上	縄文土器	縄文LR	条痕文	胎土中に植物繊維混入
9	I-AD-31	5	縄文土器	縄文LR	ナデ	胎土中に植物繊維混入
10	I-AD-32	5	縄文土器	縄文LR	ナデ	胎土中に植物繊維混入
11	I-AG-30	5	縄文土器	縄文LR	ナデ	胎土中に植物繊維混入
12	N-AH-45	5	縄文土器	縄文LR	ナデ	胎土中に植物繊維混入。砂粒多い
13	I-AL-28	5上	縄文土器	不明縄文、刺突文	ミガキ	

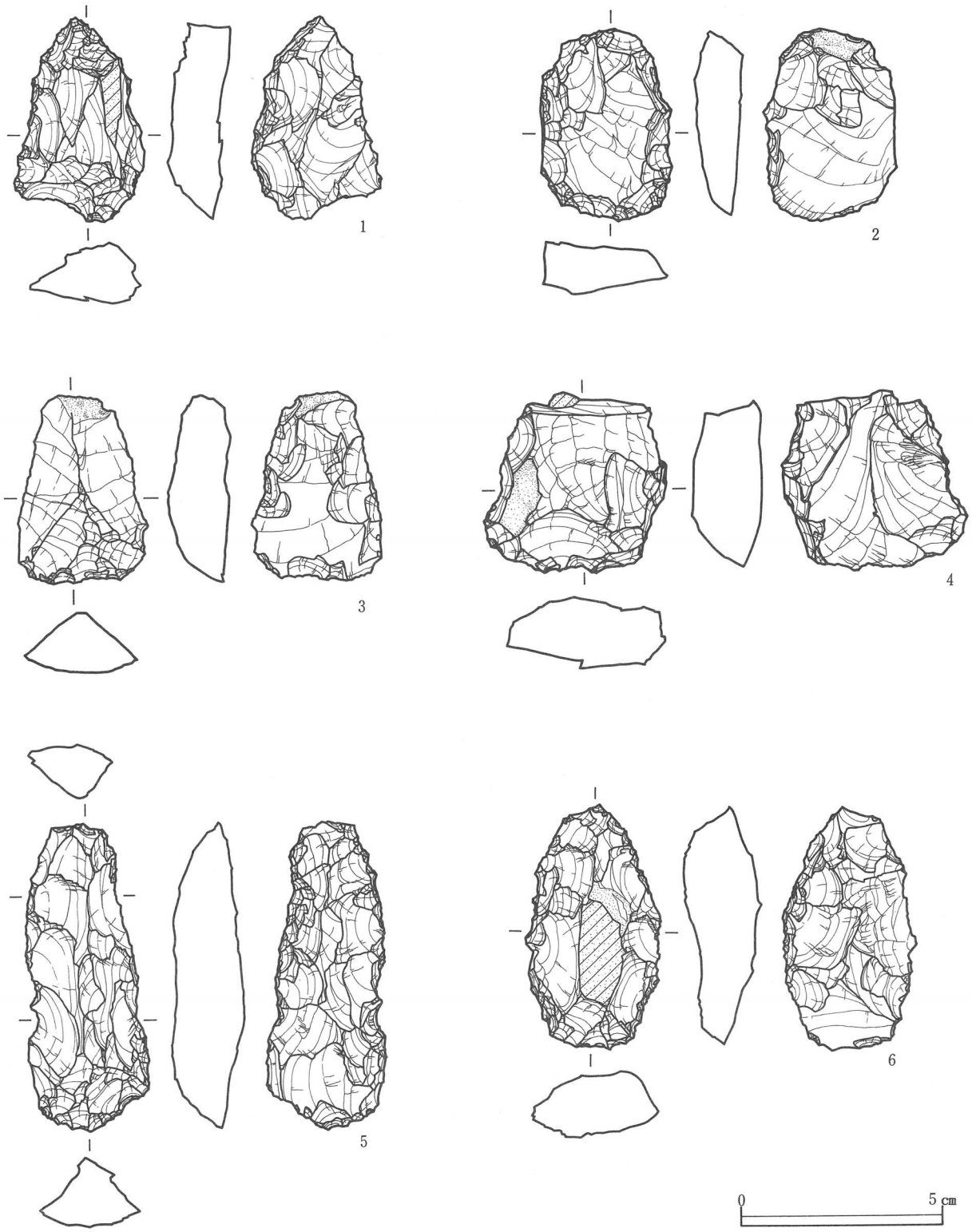
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
14	I-AH-33	5	石鏃	1.7×1.2×0.3	0.6	石英安山岩質凝灰岩	図版68－37
15	I	5	石鏃	1.5×1.0×0.3	0.3	凝灰岩	図版68－38
16	III	5	石鏃	1.6×1.1×0.5	0.4	凝灰岩	図版68－39
17	II	5	石鏃	1.2×1.2×0.3	0.3	珪質頁岩	図版68－40

第32図　I区5層出土遺物(2)



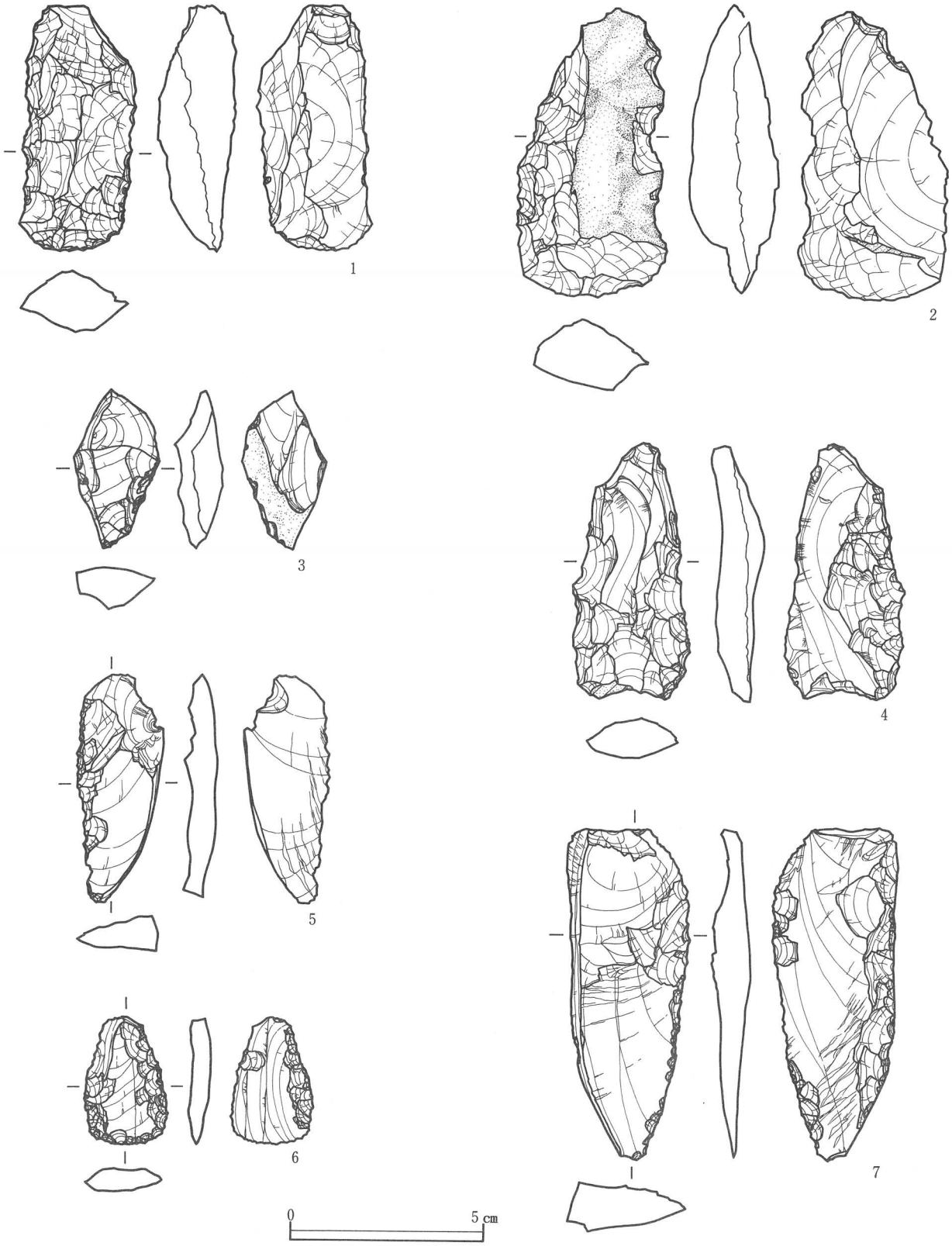
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	I-AJ-28	5	尖頭器	3.2×3.9×1.0	11.6	珪質頁岩	図版68－41
2	I	5	尖頭器	3.6×2.3×0.9	4.7	石英安山岩質凝灰岩	図版68－42
3	I	5	石匙	3.9×3.5×0.7	9.6	珪質頁岩	図版68－43
4	I-AF-31	5	篦状石器	4.6×2.6×1.1	17.4	珪質頁岩	図版68－44
5	I-AG-30	5	篦状石器	6.1×3.3×1.9	37.4	珪化凝灰岩（一部玉髄化）	図版69－1
6	I-AG-30	5	篦状石器	4.5×2.2×1.1	16.4	珪化凝灰岩	図版69－2
7	I-AGベルト	5	篦状石器	4.8×2.7×1.4	17.4	凝灰岩	
8	I-AL-29	5	篦状石器	5.8×3.2×1.8	32.4	珪化凝灰岩（角礫を含む）	図版69－3

第33図　I区5層出土遺物(3)



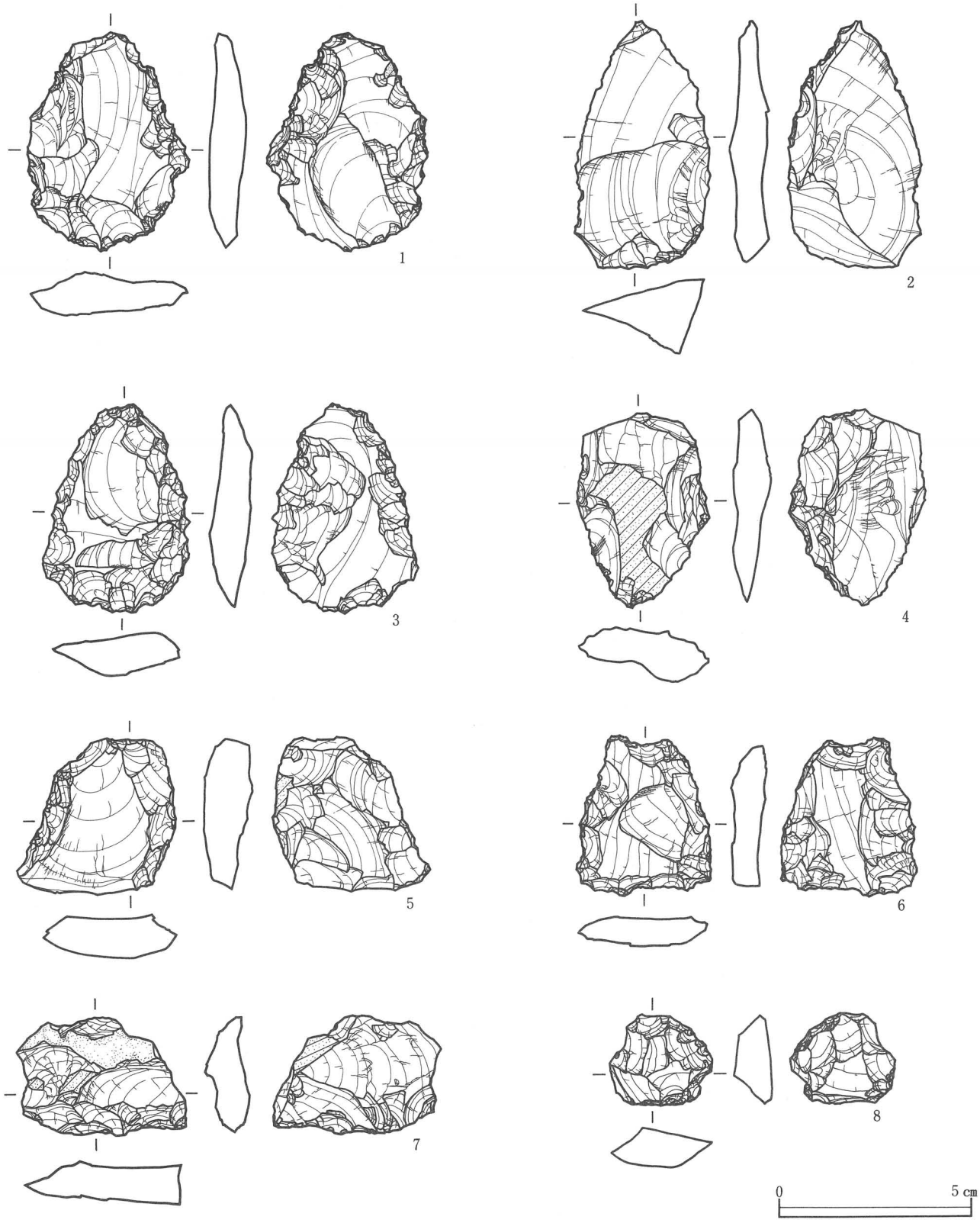
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	I	5	篦状石器	4.9×3.1×1.4	22.2	珪質頁岩	図版69－4
2	I	5	篦状石器	4.7×3.1×1.3	23.6	珪化凝灰岩	図版69－5
3	I	5	篦状石器	4.7×3.7×1.5	20.6	珪化凝灰岩	図版69－6
4	I	5	篦状石器	4.4×4.0×1.7	38.4	石英安山岩	図版69－7
5	I	5	篦状石器	7.6×2.9×1.7	37.8	珪質頁岩	図版69－8
6	I	5	篦状石器	6.0×3.2×1.8	33.0	珪化凝灰岩	図版69－9

第34図　I区5層出土遺物(4)



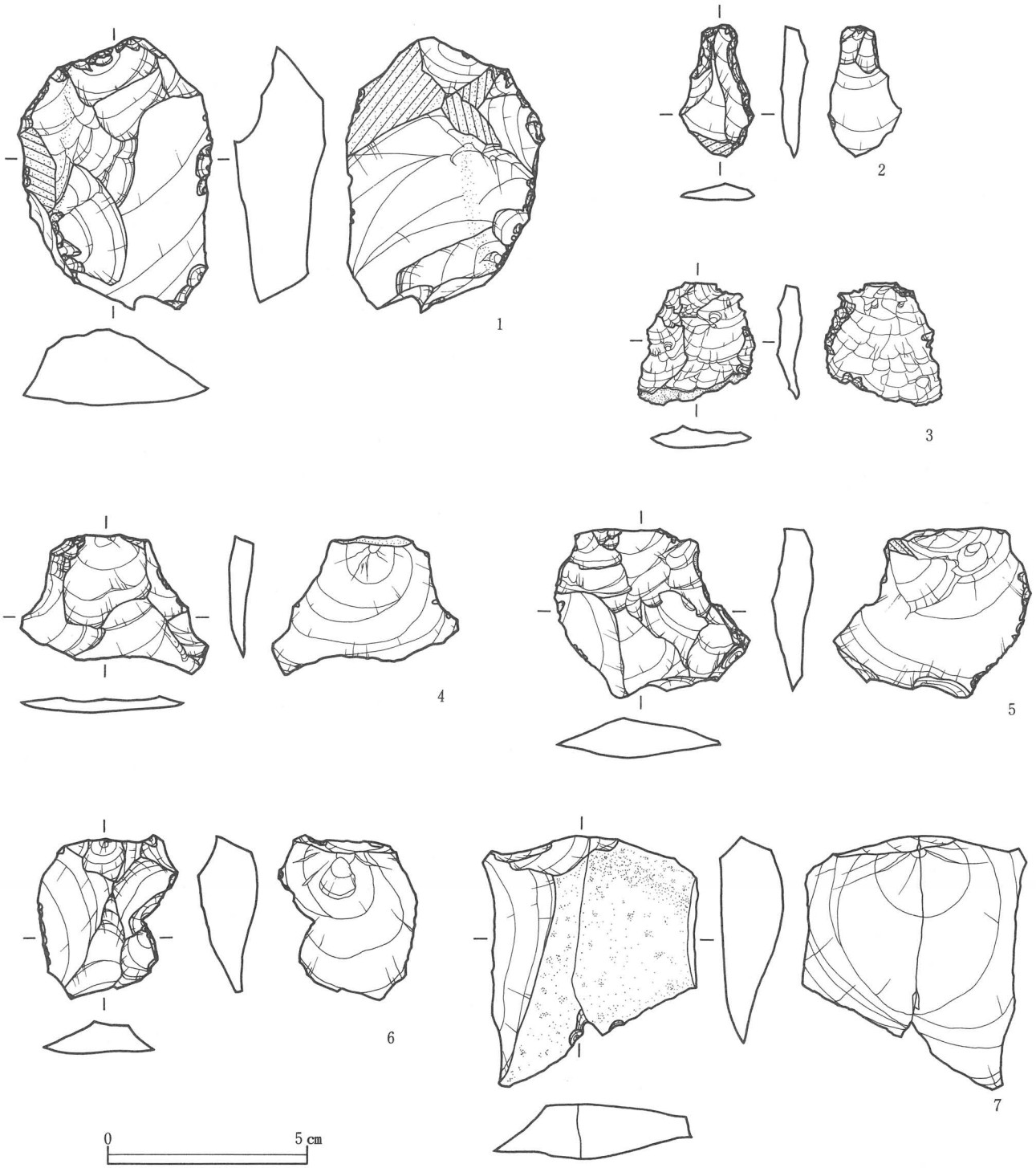
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	I-AD-30	倒木痕	篦状石器	6.2×2.7×1.8	32.2	珪化凝灰岩（角礫含む）	図版69－10
2	I-AG-25	倒木痕	篦状石器	7.3×3.7×1.8	46.0	珪化凝灰岩	図版69－11
3	I-AD-32	5	スクレーパー	4.0×2.1×1.0	6.6	珪化凝灰岩	図版69－12
4	I-AJ-31	5	スクレーパー	6.3×2.9×0.9	18.4	凝灰岩	図版69－14
5	I-AI-26	5	スクレーパー	5.6×2.1×0.9	10.8	珪質頁岩	図版69－15
6	I	5	スクレーパー	3.2×2.1×0.6	4.2	珪質頁岩	図版69－13
7	I	5	スクレーパー	8.4×3.0×1.2	29.2	珪質頁岩	図版69－16

第35図　I区5層出土遺物(5)



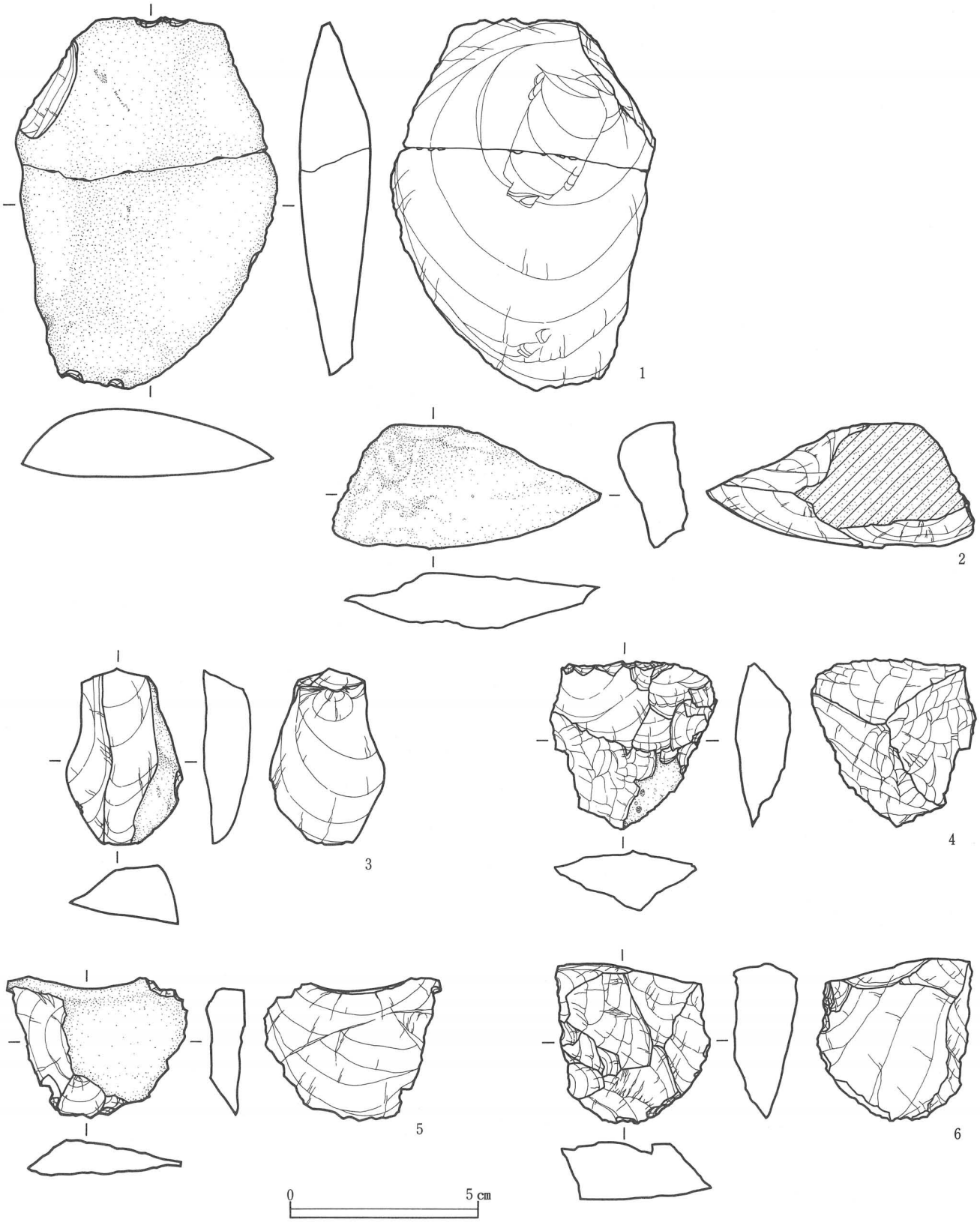
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	I	5	スクレーパー	5.6×4.0×1.1	23.0	珪質頁岩	図版69－17
2	I	5	スクレーパー	6.4×3.4×1.9	25.0	珪化凝灰岩（ややへき玉化進む）	図版69－18
3	I	5	スクレーパー	5.4×3.7×1.0	19.2	珪質頁岩	図版69－19
4	I	5	スクレーパー	4.9×3.3×1.3	17.0	珪質頁岩	図版69－20
5	II	5	スクレーパー	4.0×3.5×1.2	13.2	凝灰岩	図版69－21
6	I	5	エビスエスキーユ	4.1×3.4×0.8	12.8	凝灰岩	図版69－22
7	I－AJ－30	5　上	二次加工剥片	3.0×4.2×1.1	15.6	珪化凝灰岩	
8	I－AI－28	5	二次加工剥片	2.3×2.1×0.9	5.0	珪質頁岩	図版69－23

第36図　I区5層出土遺物(6)



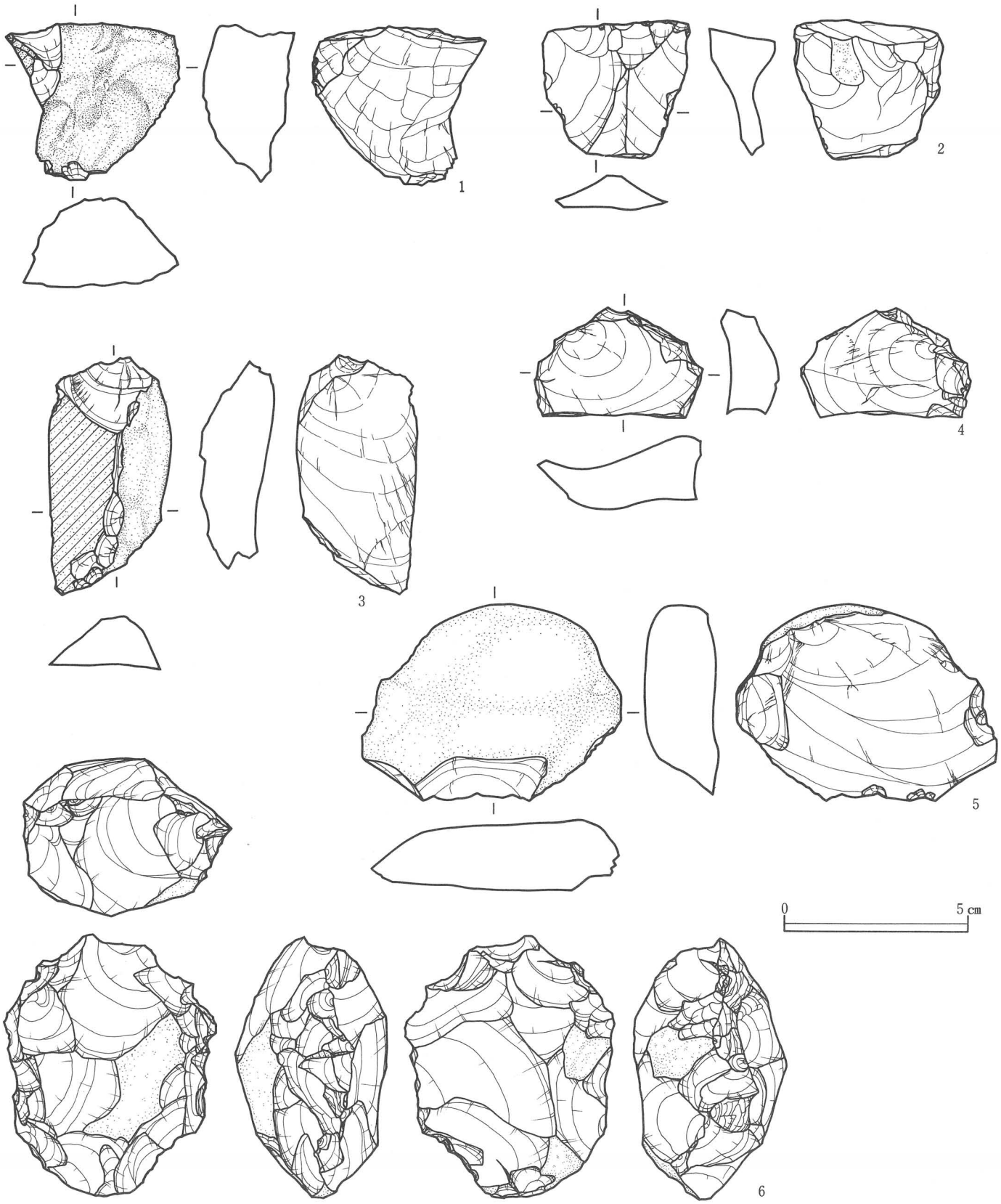
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	I-AL-28	5	二次加工剝片	6.7×4.8×2.1	56.0	珪化凝灰岩	
2	I-AL-24	5	二次加工剝片	3.2×1.8×0.5	2.2	珪質頁岩	
3	I	5	二次加工剝片	2.9×2.6×0.6	3.9	黒曜石	図版69－24
4	I-AD-32	5	剝片	3.4×4.0×0.5	6.2	珪質頁岩	微細剝離痕有り
5	I-AJ-30	5	剝片	4.1×4.2×0.9	15.8	珪化凝灰岩	微細剝離痕有り
6	I	5	剝片	4.0×3.3×1.3	12.6	珪質頁岩	微細剝離痕有り 図版69－25
7	I-AI-28	5	剝片	5.7×5.1×1.2	36.8	凝灰岩	接合資料 図版69－26

第37図　I区5層出土遺物(7)



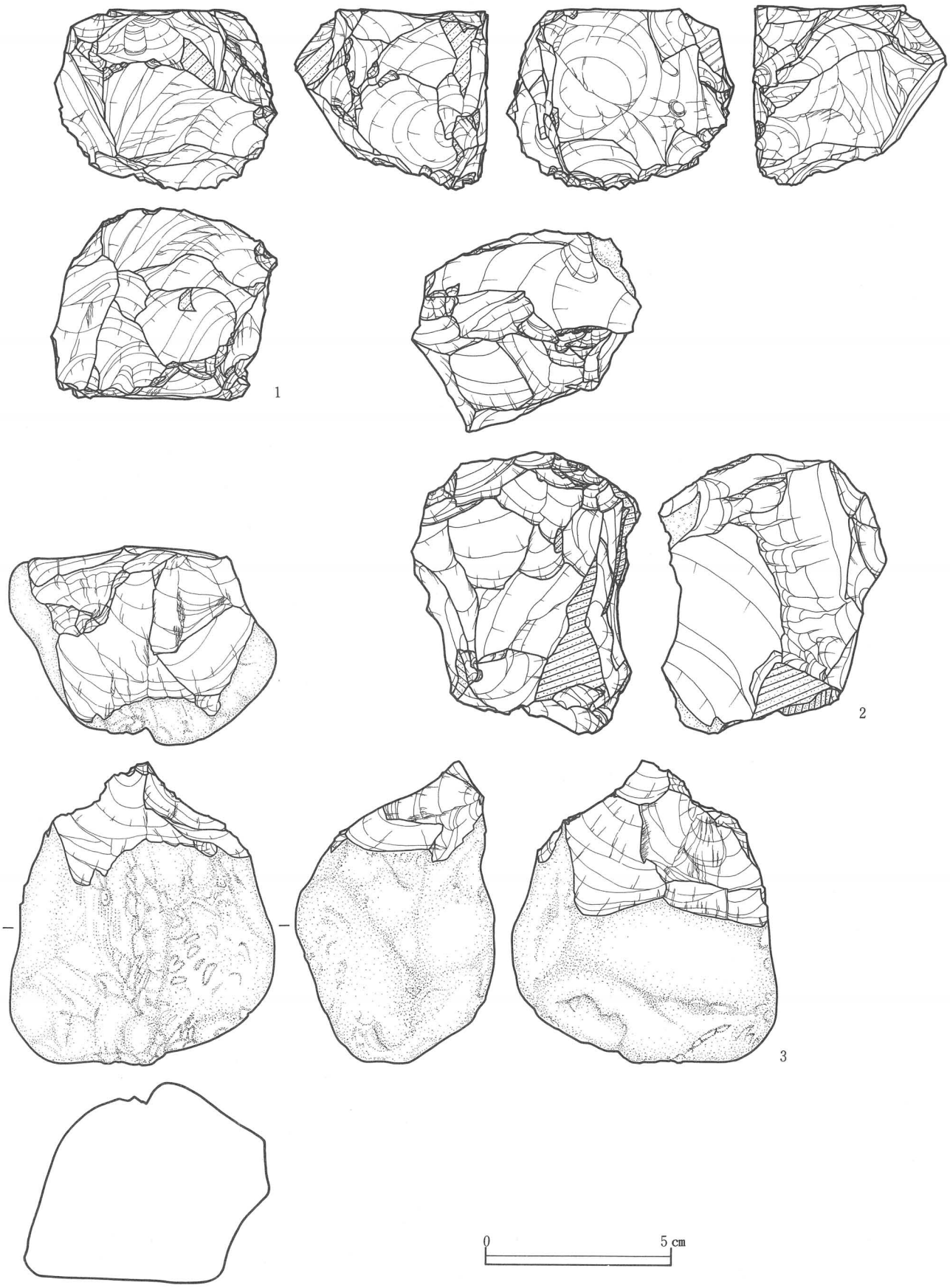
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	I-AI-27,28	5	剝片	9.8×6.6×1.8	109.7	凝灰岩	接合資料　図版69－27
2	I-AL-28	5	剝片	3.2×6.7×1.5	31.8	珪質頁岩	
3	I-AJ-26	5	剝片	4.6×3.0×1.4	17.2	凝灰岩	
4	I-AK-33	5	剝片	4.4×4.1×1.6	22.8	石英安山岩質凝灰岩	
5	I-AL-24	5	剝片	3.4×4.3×1.0	16.2	凝灰岩	
6	I	5	剝片	4.2×3.9×1.6	24.8	石英安山岩質凝灰岩	

第38図　I区5層出土遺物(8)



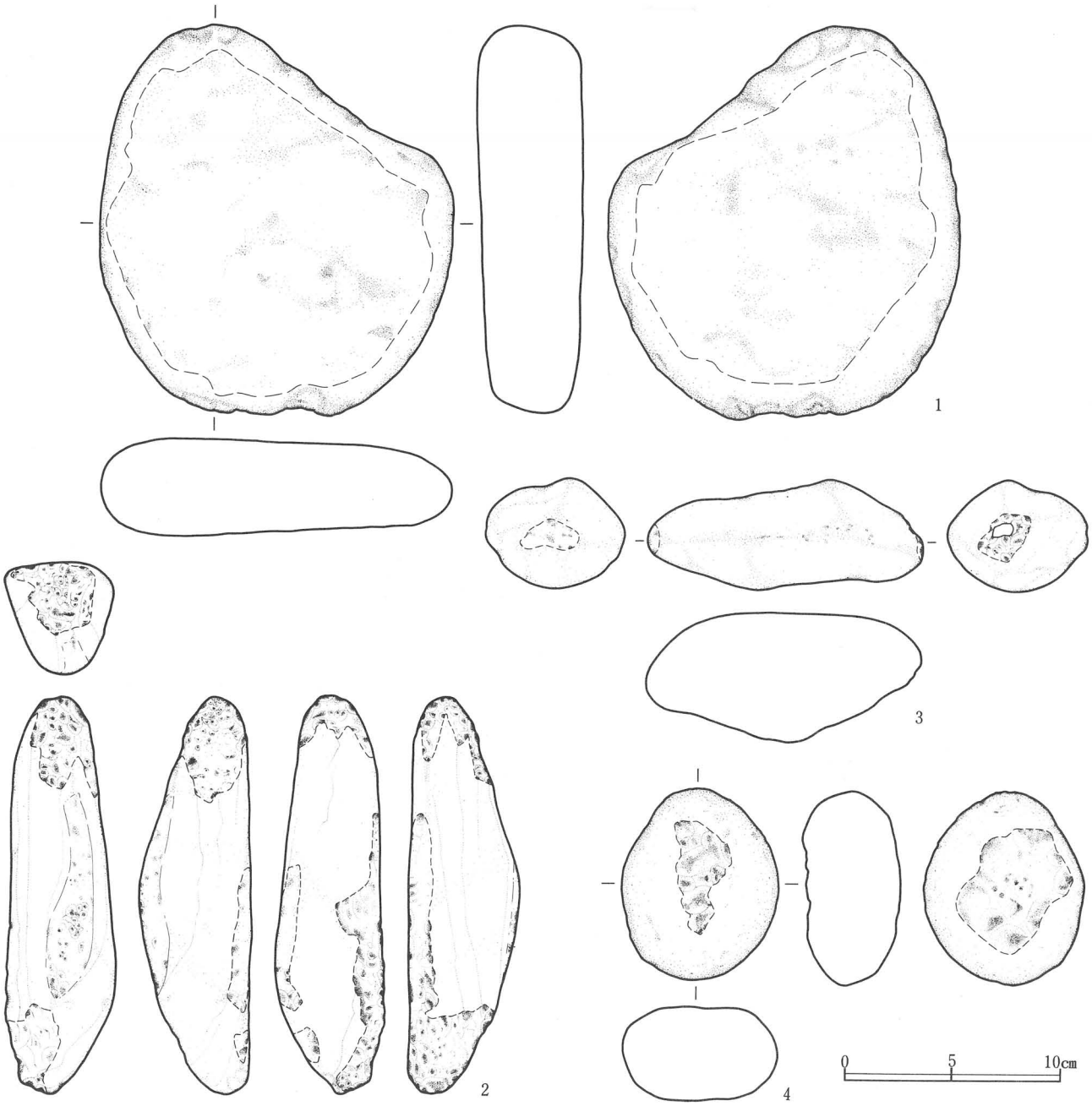
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	I	5	剝片	4.3×4.4×2.3	44.8	石英安山岩質凝灰岩	
2	I	5	剝片	3.7×3.9×1.7	19.4	凝灰岩	
3	I	5	剝片	5.9×3.2×2.0	40.2	珪質頁岩	
4	I-AJ-31	倒木痕	剝片	2.9×4.4×1.7	23.2	珪質頁岩	
5	I	倒木痕	剝片	5.3×6.6×2.1	87.0	珪質頁岩	
6	I	倒木痕	石核	7.2×5.7.4.2	珪質頁岩	図版69－28	

第39図　I区5層出土遺物(9)



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	I	5	石核	4.8×5.7×5.0	174.5	メノウ	図版69－29
2	I-AL-32	5	石核	7.5×6.0×4.9	250.7	凝灰岩	図版69－31
3	I-AJ-27	5	石核	8.1×6.9×5.4	300.4	珪質頁岩	図版69－30

第40図　I区5層出土遺物(10)



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	I-AI-26	5	礫石器	18.3×16.5×4.9	2316.0	石英安山岩	磨－両面　図版69－32
2	I	5	礫石器	18.7×5.2×5.1	584.7	凝灰岩（緑色化）	敲－両端、側面　図版69－33
3	I-AD-31	倒木痕	礫石器	12.9×4.8×6.4	450.5	石英安山岩	敲－両端　図版69－34
4	I-AD-32	倒木痕	礫石器	9.1×7.4×4.5	402.6	石英安山岩	凹－両面　図版69－35

第41図　I区5層出土遺物(11)

〈I区6層〉

層上面及び層中から遺物が出土している。石器が125点出土している。そのうち18点は木根の撹乱や倒木痕跡の6層レベルから出土したものである。石器は調査区の中央から北半部にかけて多く出土している。

層の傾斜は北西部が最も高く、東側に徐々に下がっている。石器は傾斜がとくに緩くなっている部分に多く出土している。中でもAF•AG－28・29、AI－24・25、AI－27・28、AJ－30の4ケ所のグリッドを中心とした4ケ所に遺物が集中して出土する部分が認められる。

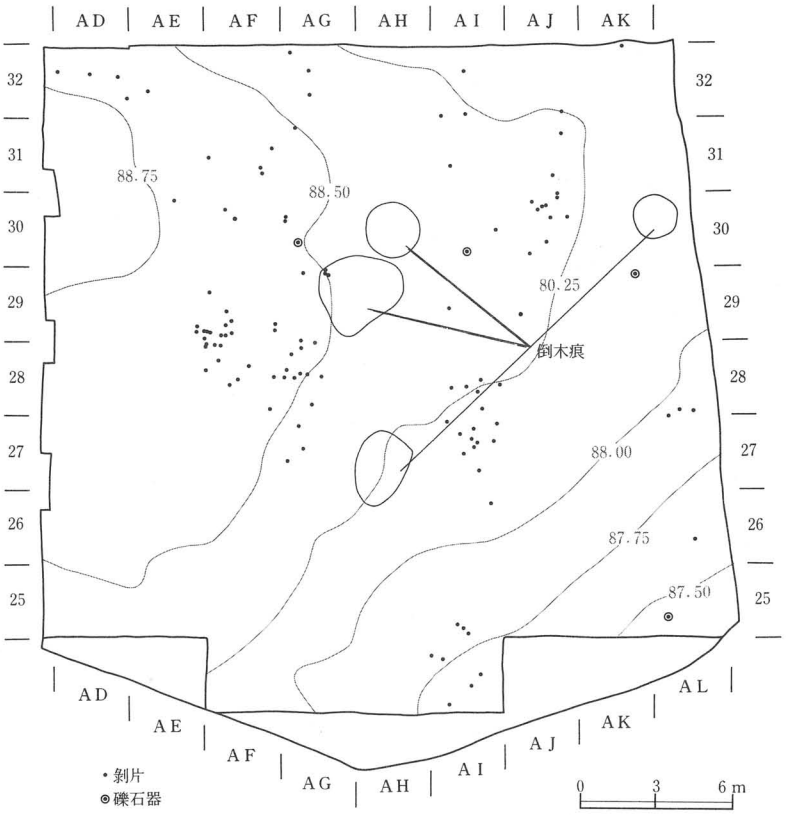
AF•AG－28・29グリッドの遺物集中出土部分では、約８×５ｍの範囲内に39点の石器が出土している。石器はヘラ状石器１点（第43図３）、ナイフ形石器１点（同２）の他は全て剥片である。剥片には接合関係はないが、同一母岩と考えられる資料がいくつかみられる。石材は流紋岩である。

AI－24・25グリッドの遺物集中出土部分では、約４×２ｍの範囲内に８点の石器が出土している。全て剥片であり、同一母岩と考えられる資料はみられない。

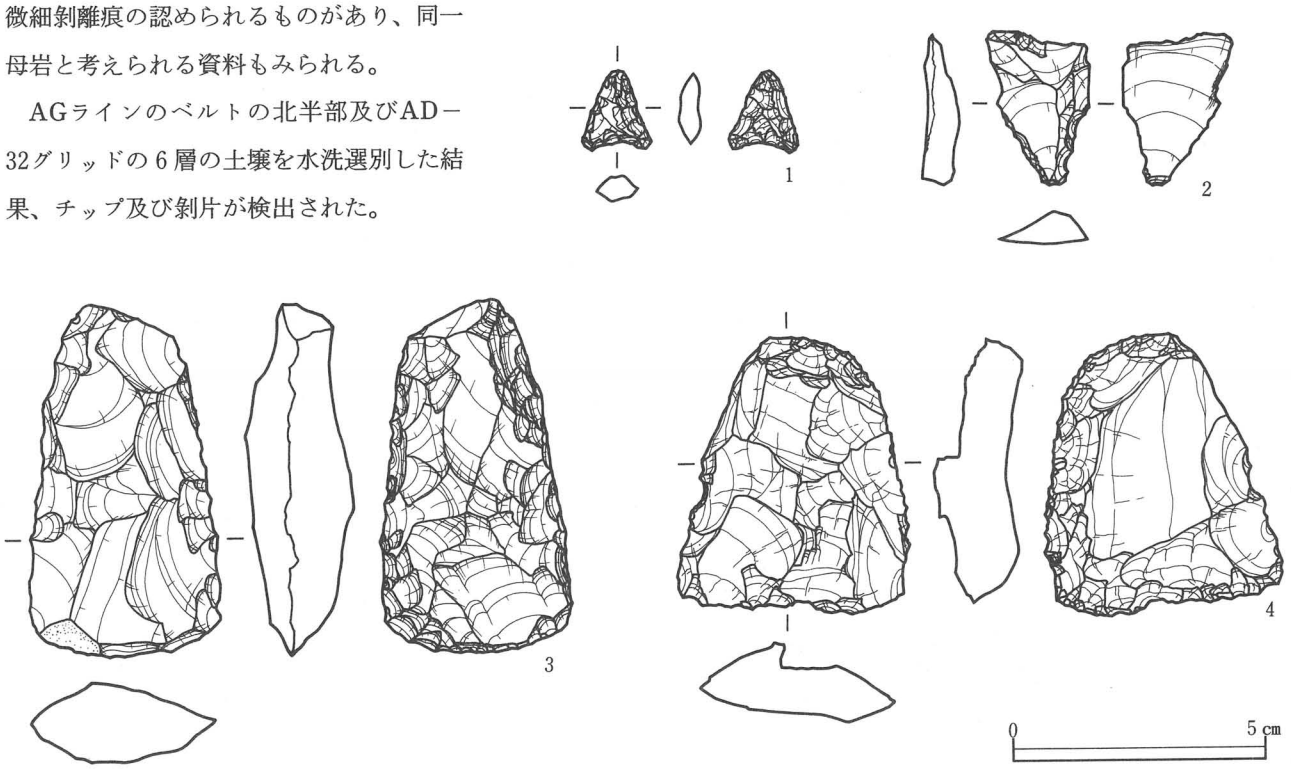
AI－27・28グリッドの遺物集中出土部分では、約4.5×2.5mの範囲内に15点の石器が出土している。全て剥片であり、接合関係はないが、同一母岩と考えられる資料もみられる。

AJ－30グリッドを中心とした遺物集中出土部分では、約３×３ｍの範囲内に12点の石器が出土している。全て剥片である。微細剥離痕の認められるものがあり、同一母岩と考えられる資料もみられる。

AGラインのベルトの北半部及びAD－32グリッドの６層の土壌を水洗選別した結果、チップ及び剥片が検出された。



第42図　Ⅰ区６層石器出土状況



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	I-AD-32	6	石鏃	1.5×1.3×0.5	0.5	珪化凝灰岩（角礫含む）	
2	I-AE-29	6	ナイフ	2.9×2.8×0.6	2.4	凝灰岩	図版70－1
3	I-AG-29	6	篦状石器	6.9×3.7×1.9	48.6	凝灰岩	図版70－3
4	I	6	篦状石器	5.3×4.4×1.5	35.2	玉髄	図版70－4

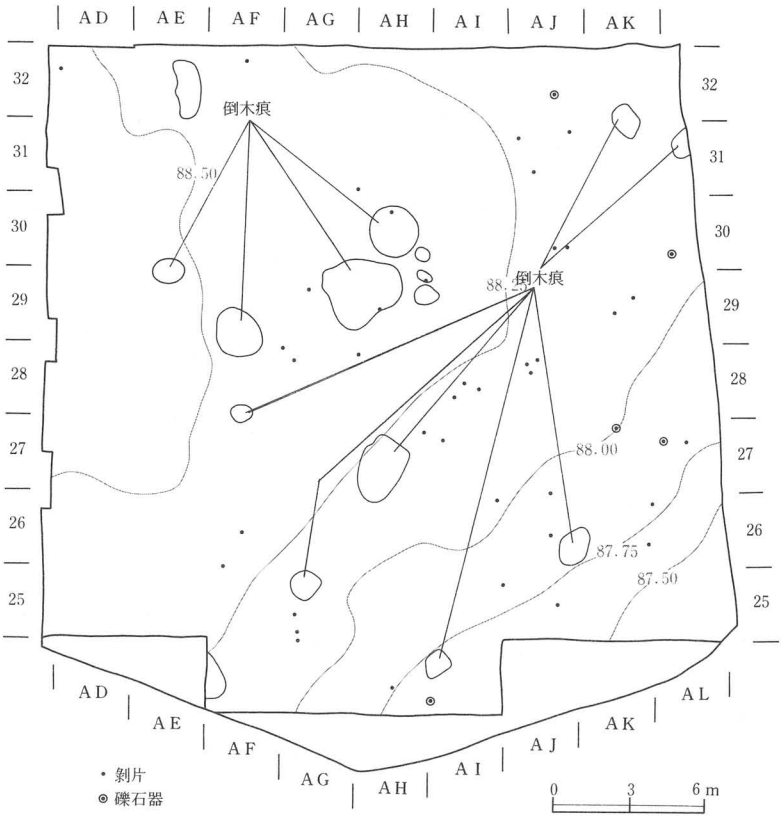
第43図　Ⅰ区６層出土石器

〈Ⅰ区7層〉

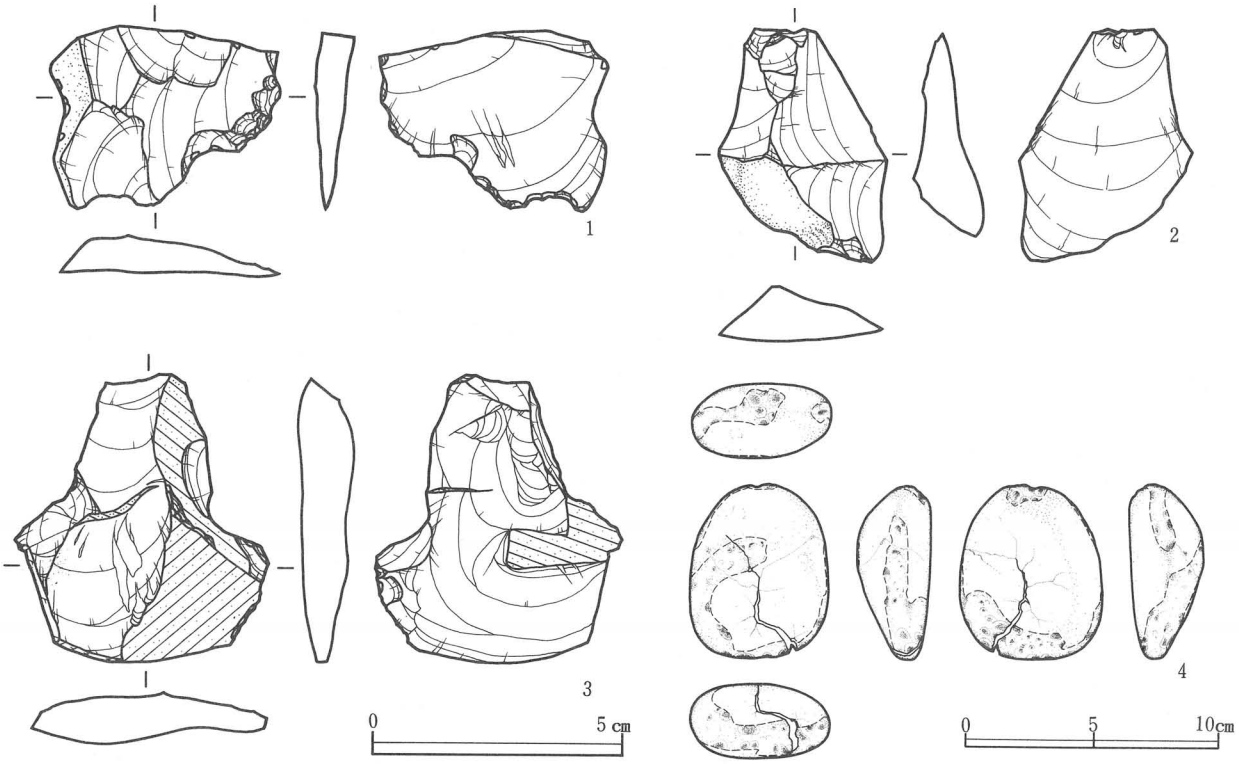
層上面及び層中から遺物が出土している。石器が42点出土している。そのうち4点は木根の撹乱や倒木痕中の7層レベルから出土したものである。石器は調査区の東半部に多く出土している。

層の傾斜は西側が最も高く、南東に向かって徐々に低くなっているが、上位の層よりさらに傾斜は緩くなっている。より傾斜の緩い平場状の部分に石器の出土は多くなっている。中ではAG－24・25、AI－28グリッドで3点ずつ近接して出土している部分はあるが、集中して出土している部分はなく、全体に散在している状況である。石器は剥片石器37点と礫石器5点あり、剥片石器は全て剥片で二次加工の認められるものもある。

AGラインのベルトの北半部及びAJ－29、AK－27グリッドの7層の土壌を水洗選別した結果、若干のチップが検出された。



第44図　Ⅰ区7層石器出土状況



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅰ-AH-31	7	二次加工剥片	3.6×4.5×0.8	11.2	凝灰岩	
2	Ⅰ-AI-28	7	剥片	4.3×3.4×1.1	12.2	凝灰岩	
3	Ⅰ-AJ-28	7	剥片	5.7×4.9×1.1	24.2	珪化凝灰岩（ややへき玉化進む）	
4	Ⅰ-AJ-32	7	礫石器	70×5.5×2.9	155.4	石英安山岩	敲－両端　図版70－2

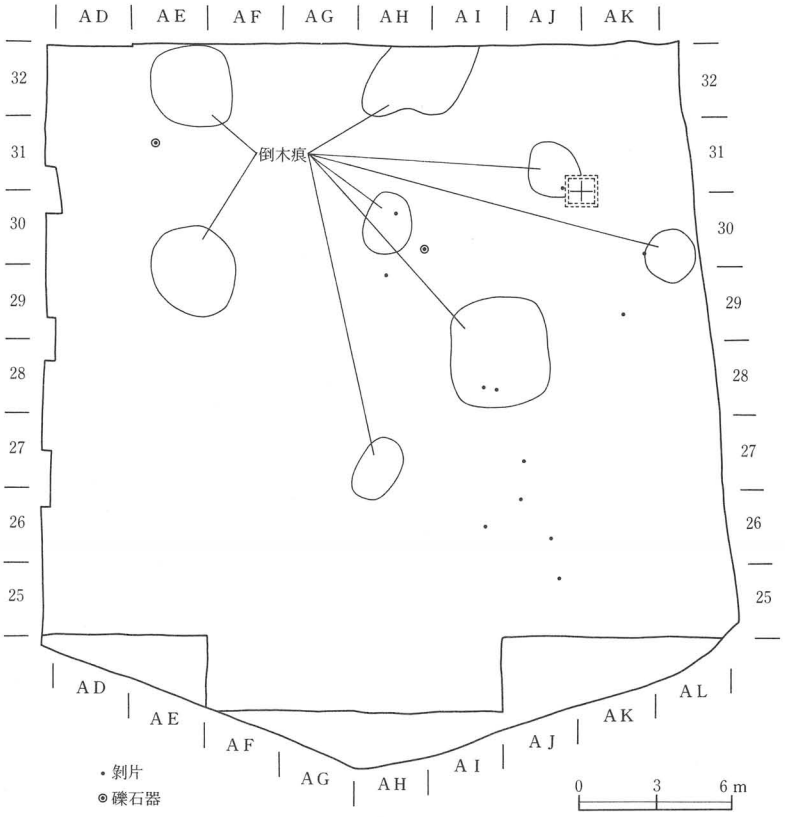
第45図　Ⅰ区7層出土石器

〈Ⅰ区8層〉

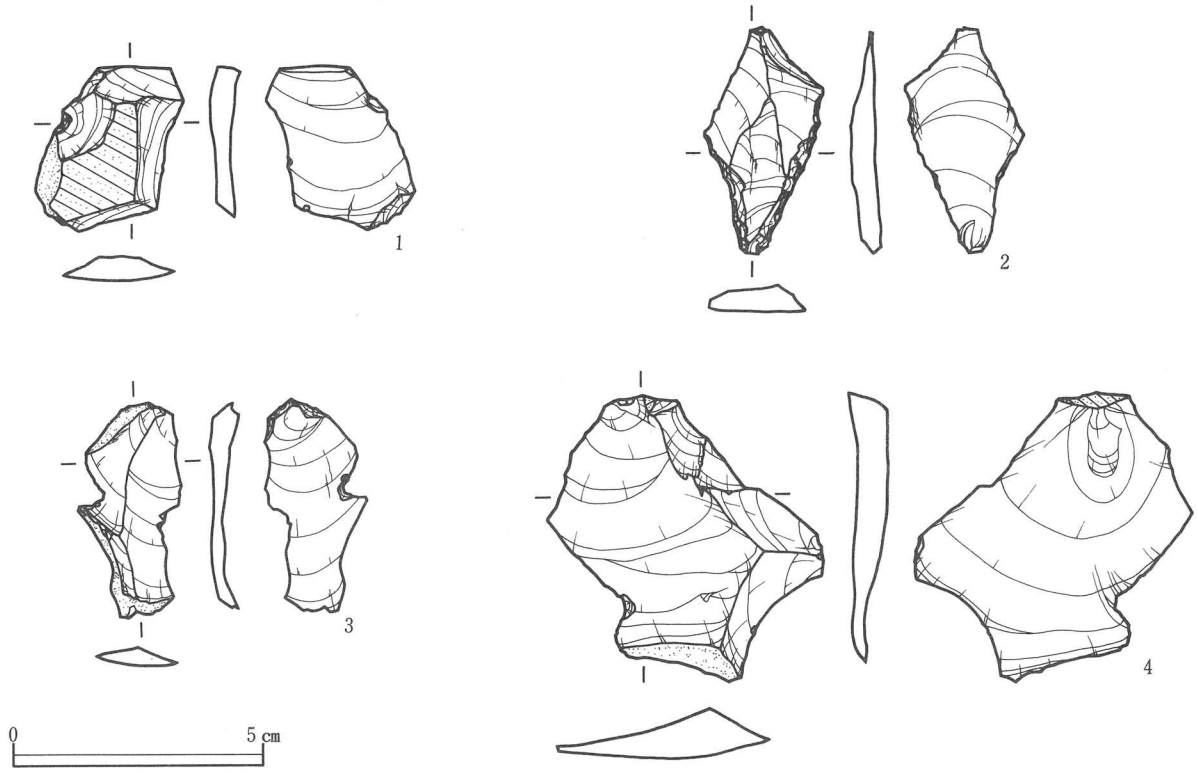
層中から遺物が出土している。石器が14点出土している。そのうち3点は木根の攪乱及び倒木痕中の8層レベルから出土したものである。

層の傾斜は上層と同様に西側から南東方向に徐々に下がっており、層の傾斜に沿って石器が出土している。石器は調査区中に散在しており、まとまった出土状況はみられない。石器は剥片石器13点、礫石器1点である。剥片石器は全て剥片である。微細剥離痕が観察されるものがあるが、同一母岩のものはみられない。

AGラインのベルト北半部の8層の土壌を水洗選別した結果、チップが検出された。AI•AJ－28グリッドの土壌水洗も行ない、チップ・剥片が若干検出されているが、倒木痕にかかっており、8層以外のものが混在しているものと考えられる。

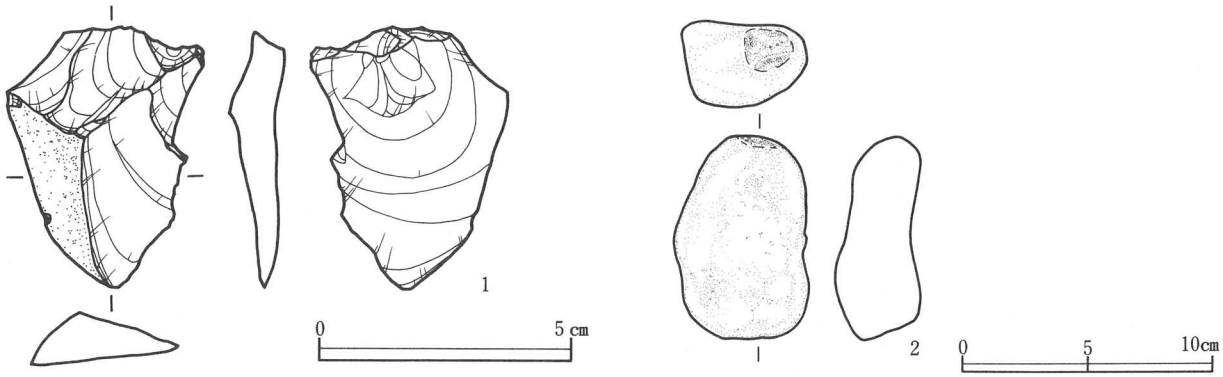


第46図　Ⅰ区8層石器出土状況



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅰ-AH-30	8	剥片	3.2×2.8×0.7	4.6	珪化凝灰岩	
2	Ⅰ-AⅠ-29	倒木痕	ナイフ	4.9×2.1×0.6	4.3	玉髄	第8層上面検出の倒木痕中の10層レベル　図版70－5
3	Ⅰ-AⅠ-28	倒木痕	剥片	4.2×2.0×0.4	2.6	珪化凝灰岩	第8層上面検出の倒木痕中の10層レベル
4	Ⅰ-AⅠ-28	倒木痕	剥片	5.7×5.4×1.2	21.4	凝灰岩	第8層上面検出の倒木痕中の10層レベル

第47図　Ⅰ区8層出土石器(1)



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	I-AI-28	倒木痕	剝片	5.2×3.5×1.1	18.2	珪質頁岩	第8層上面検出の倒木痕中の10層レベル
2	I-AE-31	8	礫石器	8.1×5.4×3.4	185.4	石英安山岩	敲－端部　図版70－6

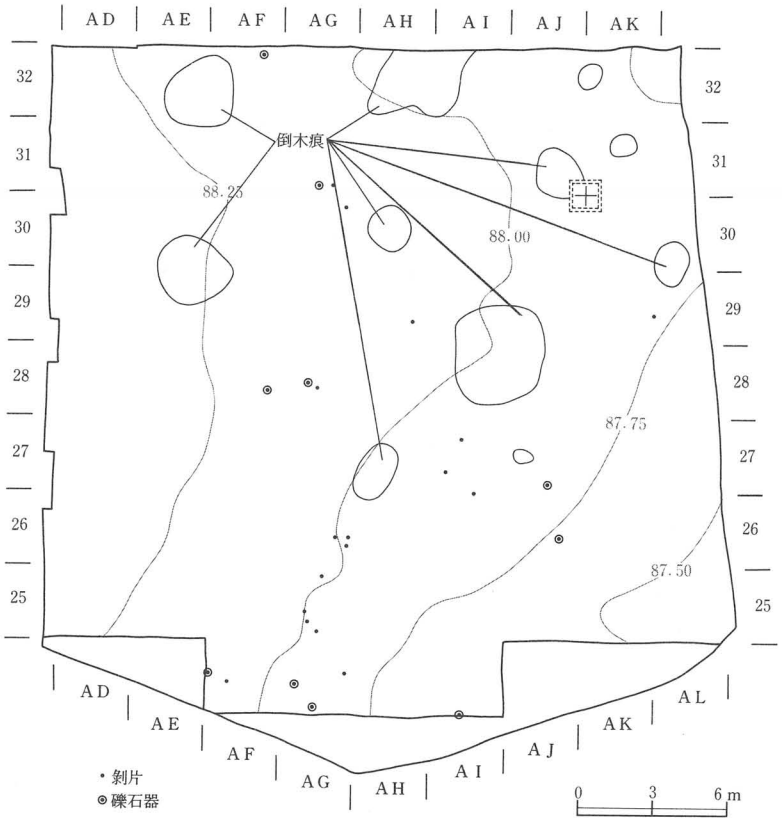
第48図　I区8層出土石器(2)

〈I区9層〉

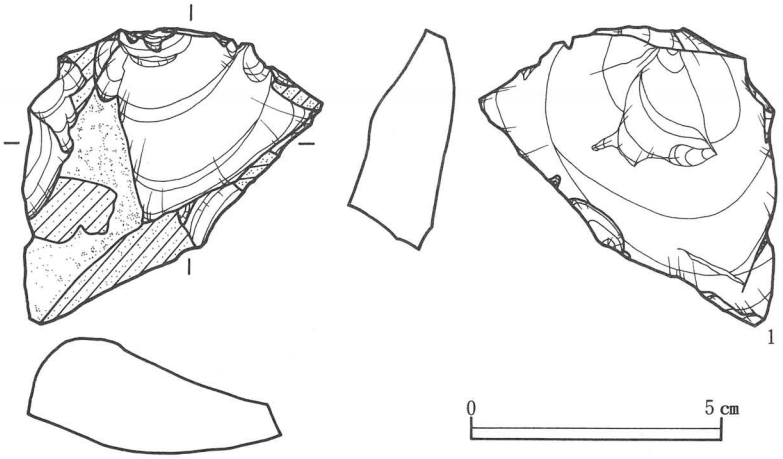
層中から遺物が出土している。石器が27点出土している。そのうち木根の撹乱の9層レベルから2点出土している。

層の傾斜は、西側が高く東に向かって徐々に低くなり、南東側への傾斜がやや急になっている。傾斜の最も緩い部分から南東側がやや急になる変換部を中心に石器が出土しており、調査区中央部に多い。出土状況はAG－25、26、30、31グリッドで各々3点ずつ近接して出土しているが、集中して出土している部分はなく、全体に散在している状況である。石器は16点の剝片石器と11点の礫石器がある。剝片石器は全て剝片で二次加工の認められるものもある。礫石器は表面が摩滅しているが、敲打痕及び磨面の認められるものがある。

AG－25グリッドの9層の土壌を水洗したが、チップ、剝片はほとんど検出されなかった。AI－28・29グリッドの土壌水洗選別を行ない、チップ、剝片が若干検出されているが、倒木痕にかかっており、9層以外のものが混在しているものと思われる。

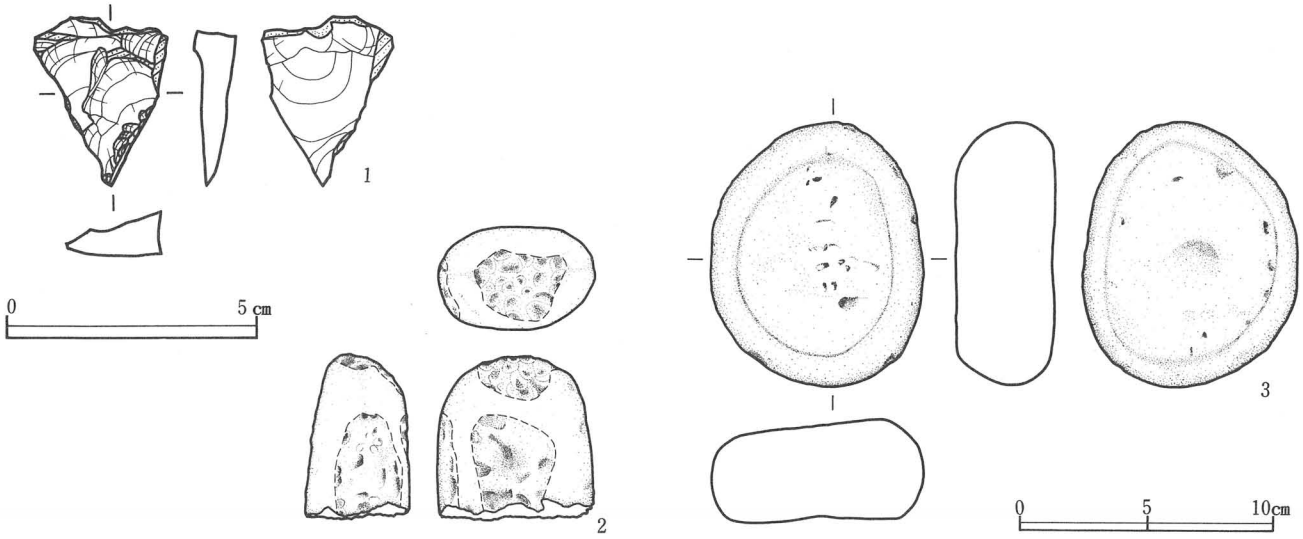


第49図　I区9層石器出土状況



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	I-AG-25	9	剝片	5.9×5.8×2.1	57.0	珪質頁岩	

第50図　I区9層出土石器(1)



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考	
1	I-AG-24	9	石錐	3.3×2.5×1.1	6.4	珪質頁岩		図版70－7
2	I-AJ-26	9	礫石器	6.4×6.1×3.9	249.5	花崗岩	敲－端部、側面	図版70－8
3	I-AI-24	9	礫石器	10.6×8.4×3.9	549.2	石英安山岩	磨－両面	図版70－9

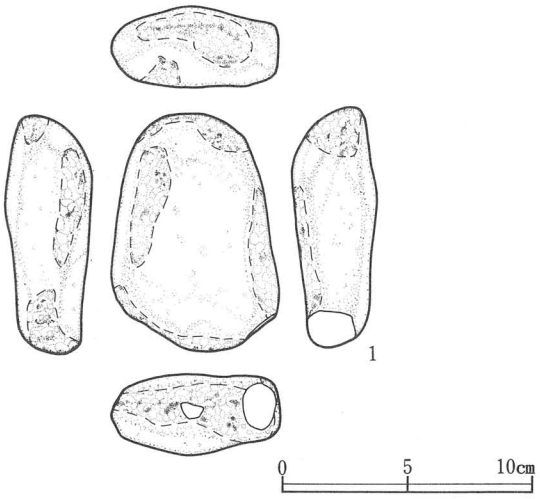
第51図　I区9層出土石器(2)

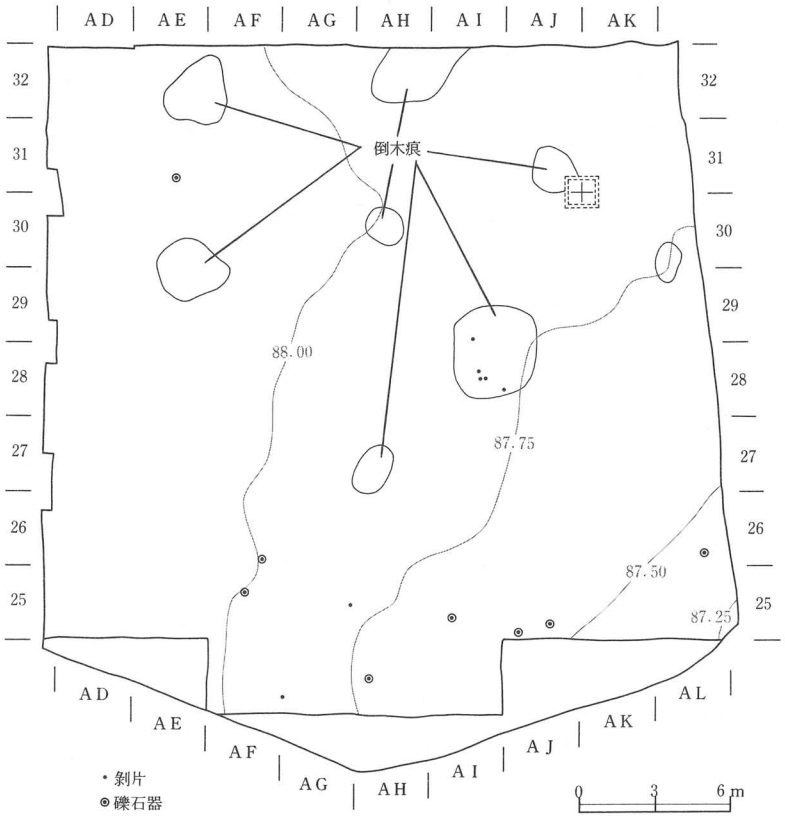
〈I区10層〉

層上面から遺物が出土している。石器が45点出土している。

層の傾斜は西側が最も高く、南東隅に向かって徐々に下がっている。石器はやや傾斜が急になる傾斜の変換部近く、調査区の南部に集中して出土している。石器は剥片石器が33点、礫石器が12点出土している。剥片石器は全て剥片である。礫石器は摩滅が著しいが敲打痕がみられる。

また、上層（8層）で検出された倒木痕中の10層レベル以下で29点の石器が出土している。剥片石器26点、礫石器3点である。剥片石器はナイフ形石器1点(第47図－2)の他は全て剥片である。これらは8層の遺物の頃に示した。

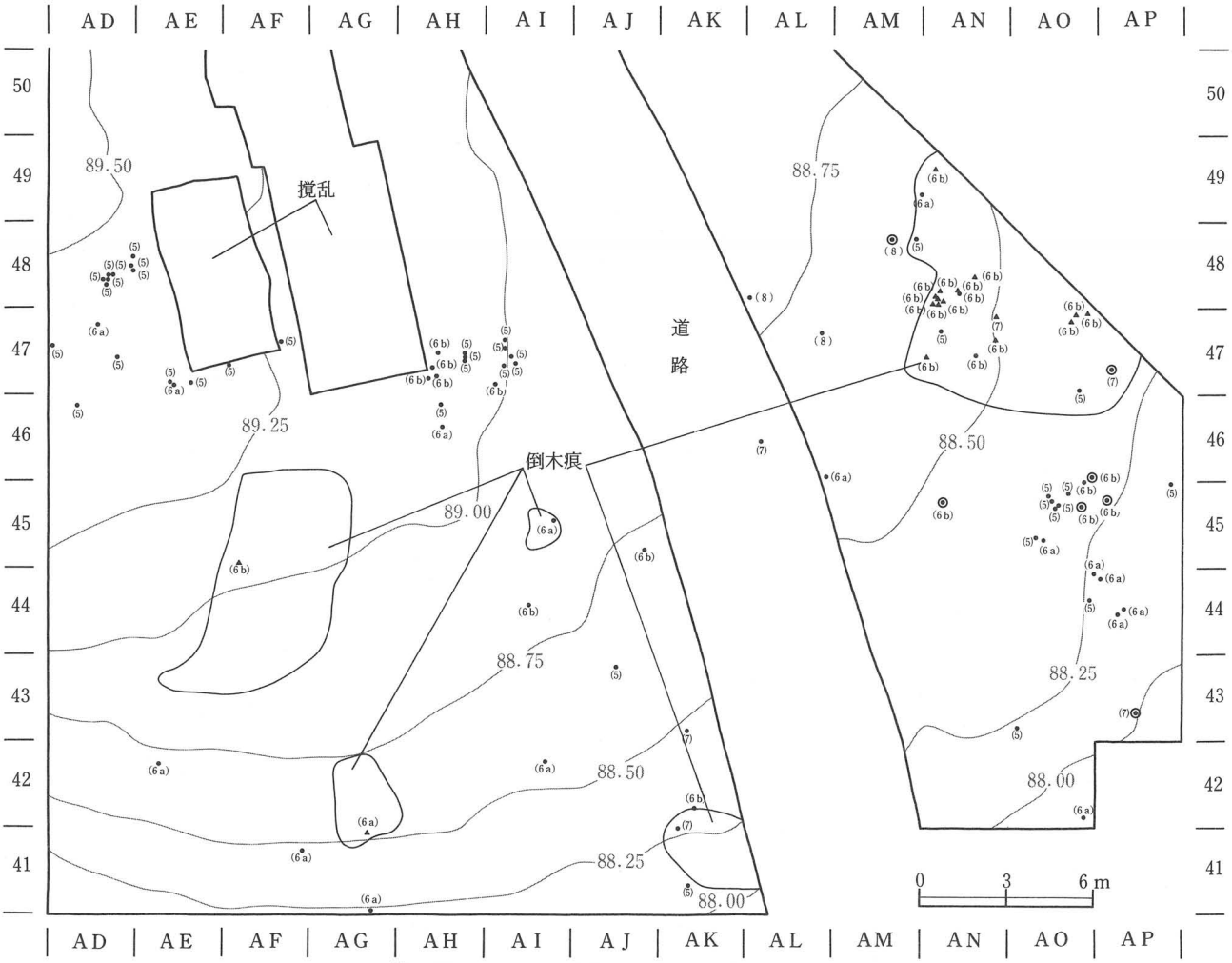




第52図　I区10層石器出土状況

No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考	
1	I-AE-31	10	礫石器	9.6×6.1×3.1	236.4	石英安山岩	敲－両端、側面	図版70－10

第53図　I区10層出土石器



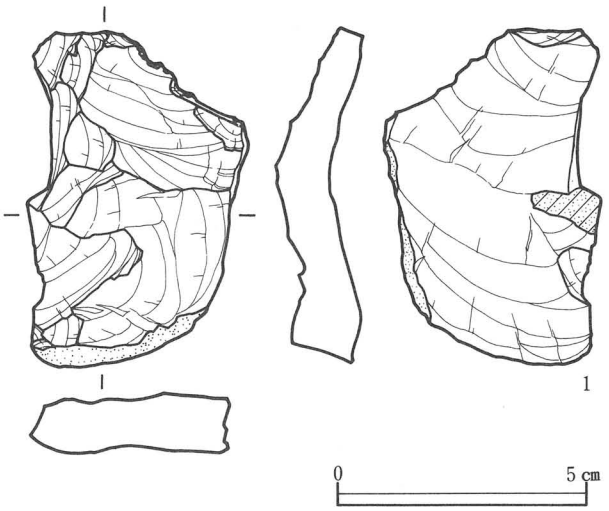
第54図　Ⅲ・Ⅳ区遺物出土状況（　）内は層位

〈Ⅲ区５層〉

層中から遺物が出土している。石器が12点出土している。そのうち５点は倒木痕、木根跡の５層レベルから出土したものである。石器は調査区の南東寄りに多く出土している。

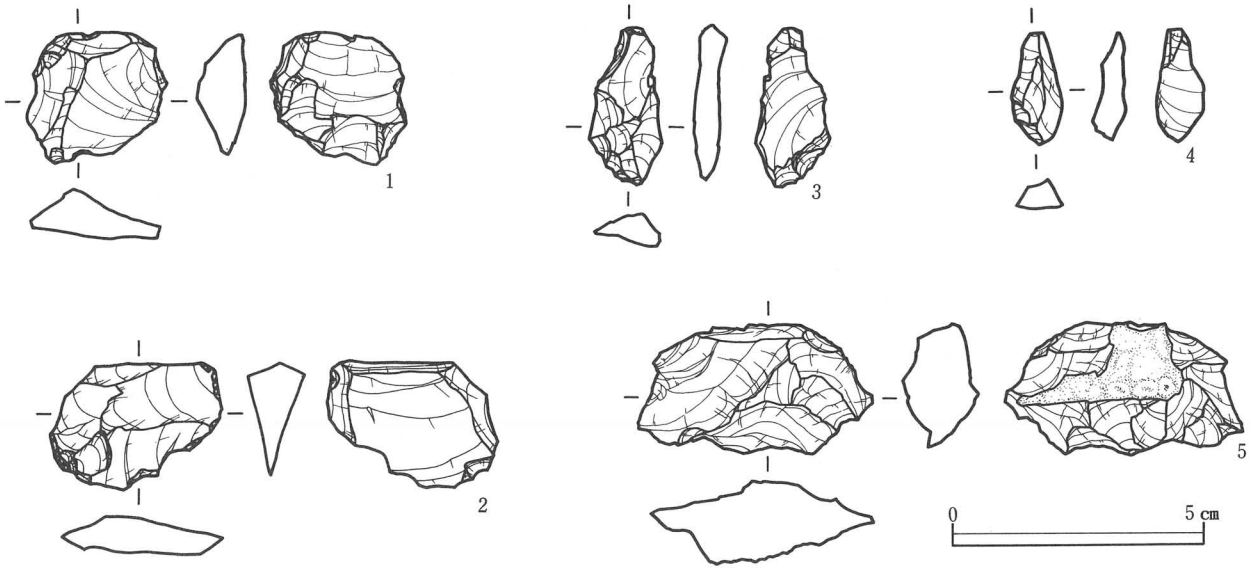
層の傾斜は北西部が最も高く、南東側に徐々に下がっており、南端近くで傾斜がやや急になっている。その傾斜の変換部分を中心に石器が出土している。出土状況はAO－45グリッドで集中して出土する部分が認められるが、他は調査区の南半部に散在している状況である。

AO－45グリッドの遺物集中出土部分では約１×１ｍの範囲内に５点の石器が出土している。うち２点は木根跡からの出土であるが、５点ともに同一母岩のものと考えられ、本来５層中のものであると考えられる。全て剝片である。



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅲ-AO-45	5	スクレーパー	6.6×4.0×1.4	33.4	石英安山岩	図版70－11

第55図　Ⅲ区５層出土石器(1)



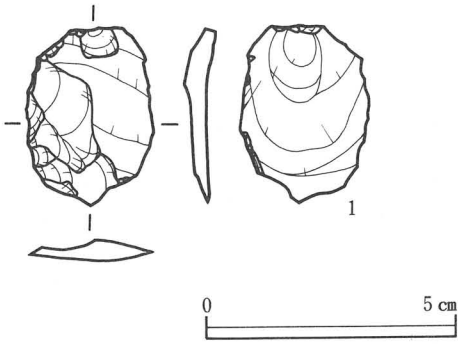
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅲ-AO-45	5	剝片	2.5×2.5×0.9	4.8	石英安山岩質凝灰岩	
2	Ⅲ-AO-45	5	剝片	2.5×3.3×1.2	6.1	石英安山岩質凝灰岩	
3	Ⅲ-AO-45	5	剝片	3.1×1.4×0.6	2.0	石英安山岩質凝灰岩	
4	Ⅲ-AO-45	倒木痕	剝片	2.2×0.9×0.6	0.8	石英安山岩質凝灰岩	
5	Ⅲ-AN-47	倒木痕	剝片	2.5×4.4×1.6	16.0	石英安山岩質凝灰岩	

第56図　Ⅲ区5層出土石器(2)

〈Ⅲ区の6ａ層〉

層上面及び層中から遺物が出土している。石器が8点出土している。そのうち4点は倒木痕、木根跡の6ａ層レベルから出土したものである。

層の傾斜は北西部が最も高く、南東側に徐々に下がっているが、上層よりやや傾斜が緩やかである。遺物は調査区の南半部に散在しており、集中して出土する部分は認められない。石器は全て剝片であるが、同一母岩と考えられるものはない。



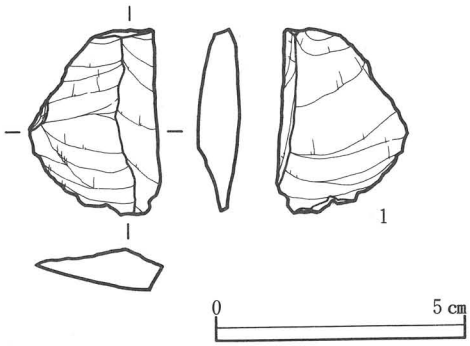
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅲ-AO-45	倒木痕	剝片	3.5×2.4×0.5	2.9	珪質頁岩	

第57図　Ⅲ区6ａ層出土石器

〈Ⅲ区6ｂ層〉

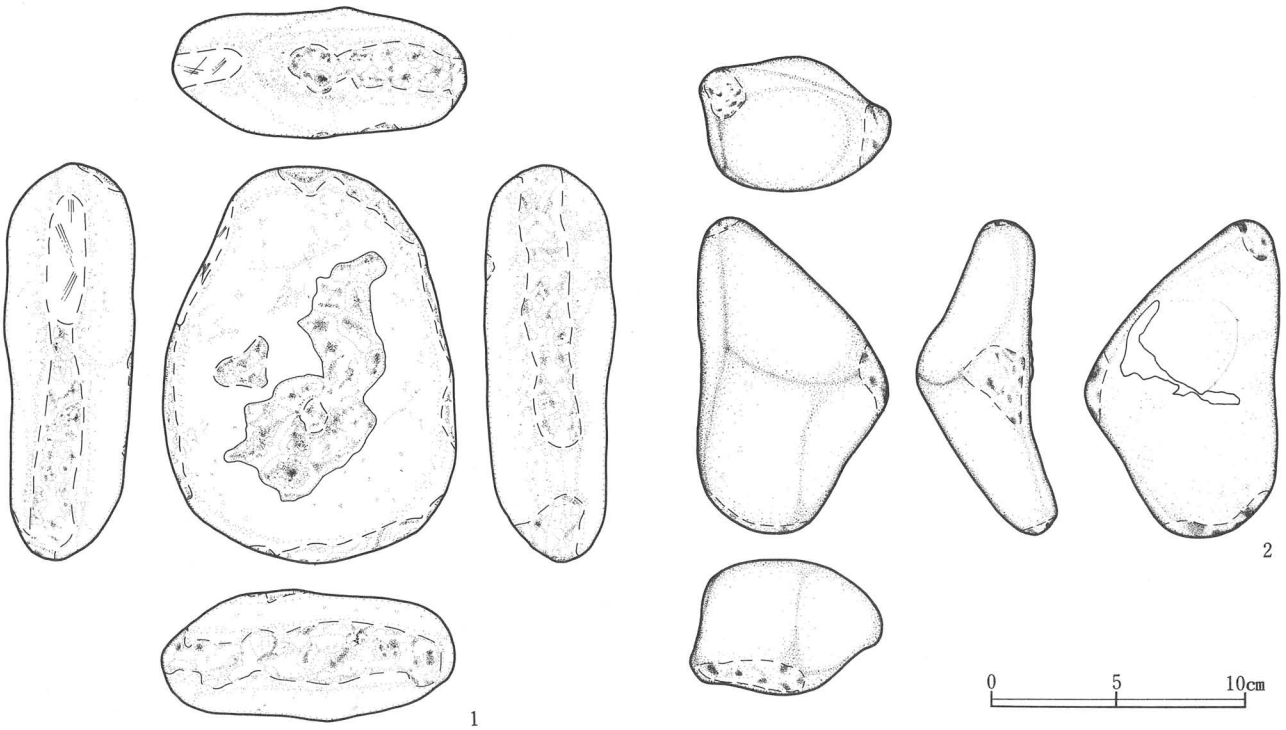
層中から遺物が出土している。石器が7点、土器が14点出土している。そのうち石器5点と全ての土器は、倒木痕、木根跡の6ｂ層レベルから出土したものである。土器は全て胎土中に植物繊維を含んでいるが、器形、文様等が判明するようなものはみられない。石器は剝片石器が3点、礫石器が4点である。剝片石器は全て剝片であり、同一母岩と考えられるものはない。礫石器には磨面及び敲打痕が認められる。

AO－45グリッドの6ｂ層の土壌を水洗したが、剝片が1点検出されたのみである。



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅲ-AO-46	倒木痕	剝片	3.6×2.5×0.8	5.1	石英安山岩	

第58図　Ⅲ区6ｂ層出土石器(1)



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅲ-AP-45	倒木痕	礫石器	16.0×11.6×5.2	1341.0	石英安山岩	敲－側面、凹－片面　図版70－12
2	Ⅲ-AP-47	倒木痕	礫石器	12.2×7.4×4.2	427.7	凝灰岩（緑色化）	敲－端部　図版70－13

第59図　Ⅲ区6b層出土石器(2)

〈Ⅳ区5層〉

層中より遺物が出土している。石器が32点出土している。

層の傾斜は西側が高く、南東及び南側に徐々に下がっており、斜面上部の傾斜が緩やかで、等高線が南北方向から東西方向に変わる部分を中心に石器が出土している。出土状況はAD－48、AH•AI－47グリッドで集中して出土する部分が認められるが、その他のものは2ヶ所の遺物集中部の間に散在している状況である。

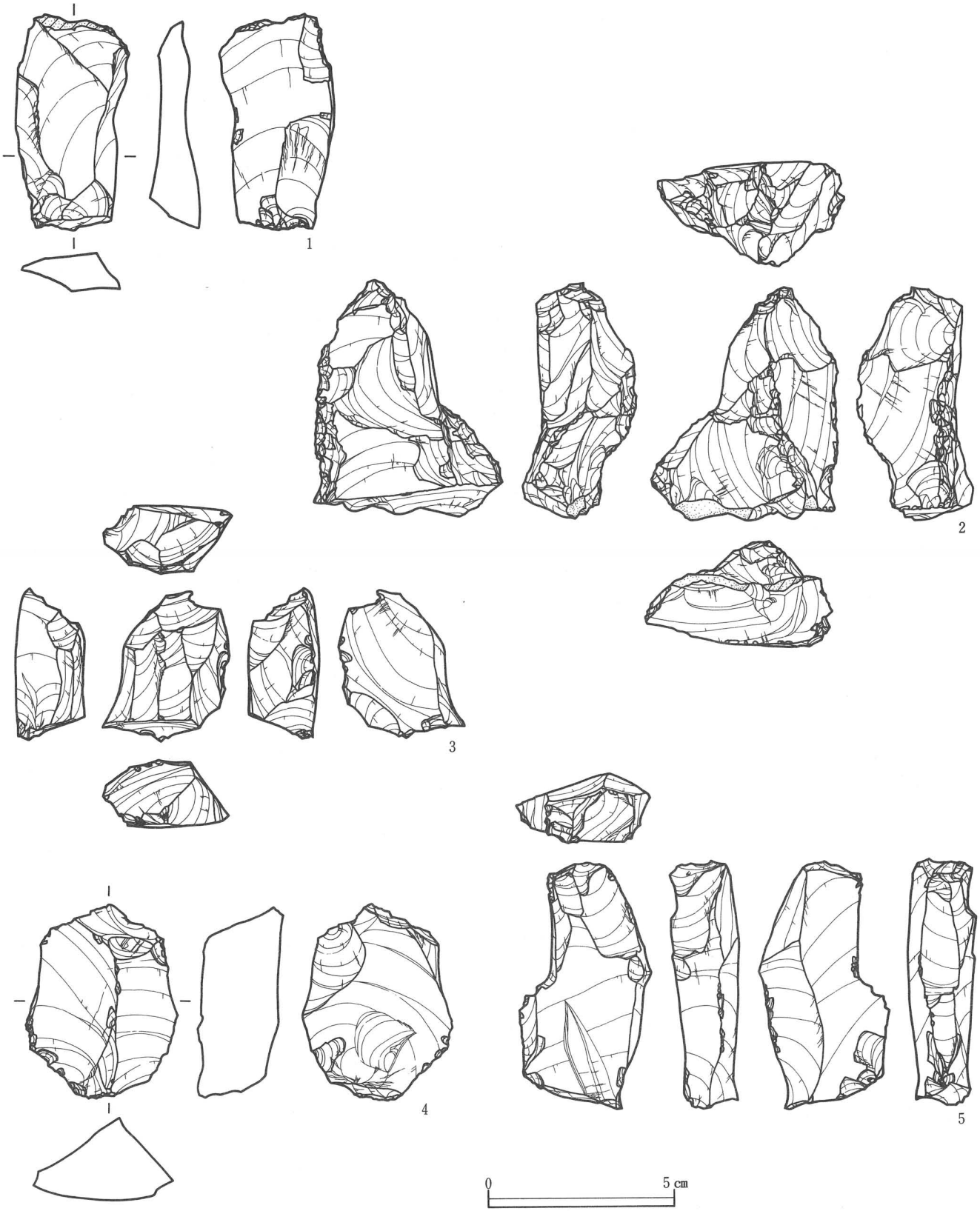
AD－48グリッドの遺物集中部分では、約1.5×0.5mの範囲内に8点の石器が出土している。石器には彫刻刀形石器2点、スクレーパー4点、ノッチ1点、剥片1点があり、全て珪質頁岩である。

AH•AI－47グリッドの遺物集中部分では、約2×1mの範囲内に8点の石器が出土している。石器には彫刻刀形石器2点、スクレーパー1点、彫刻刀スポール1点、剥片2点、チップ2点があり、剥片1点が玉髄である他は全て珪質頁岩である。

47ラインを中心に石器が出土した付近の土壌を水洗選別した結果、チップ、剥片が検出された。

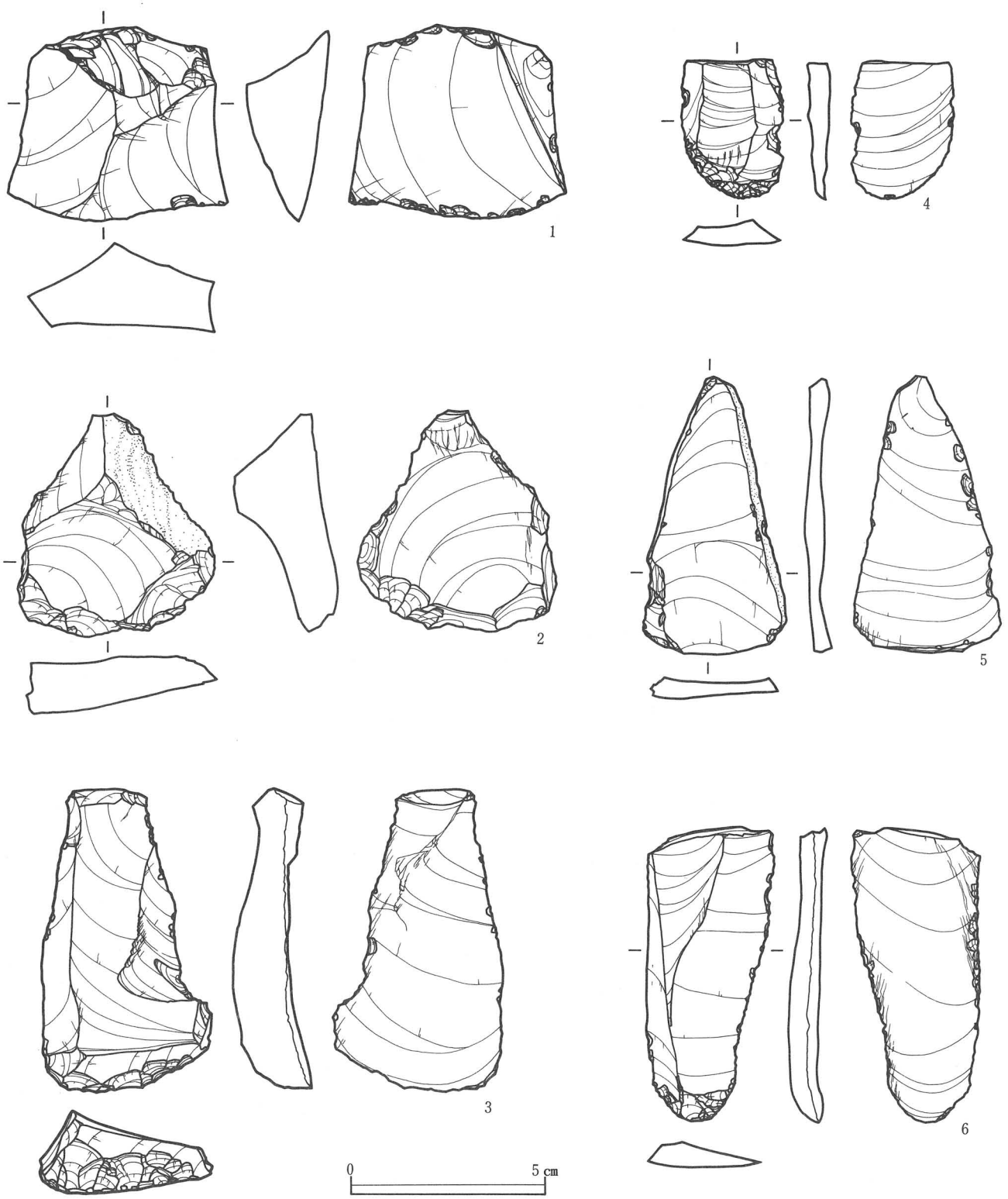
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅳ-AD-51	5上	石鏃	1.9×1.6×0.3	0.9	珪質頁岩	図版70－14
2	Ⅳ-AE-47	5	ナイフ	8.3×2.2×0.9	15.4	珪質頁岩	図版70－15

第60図　Ⅳ区5層出土石器



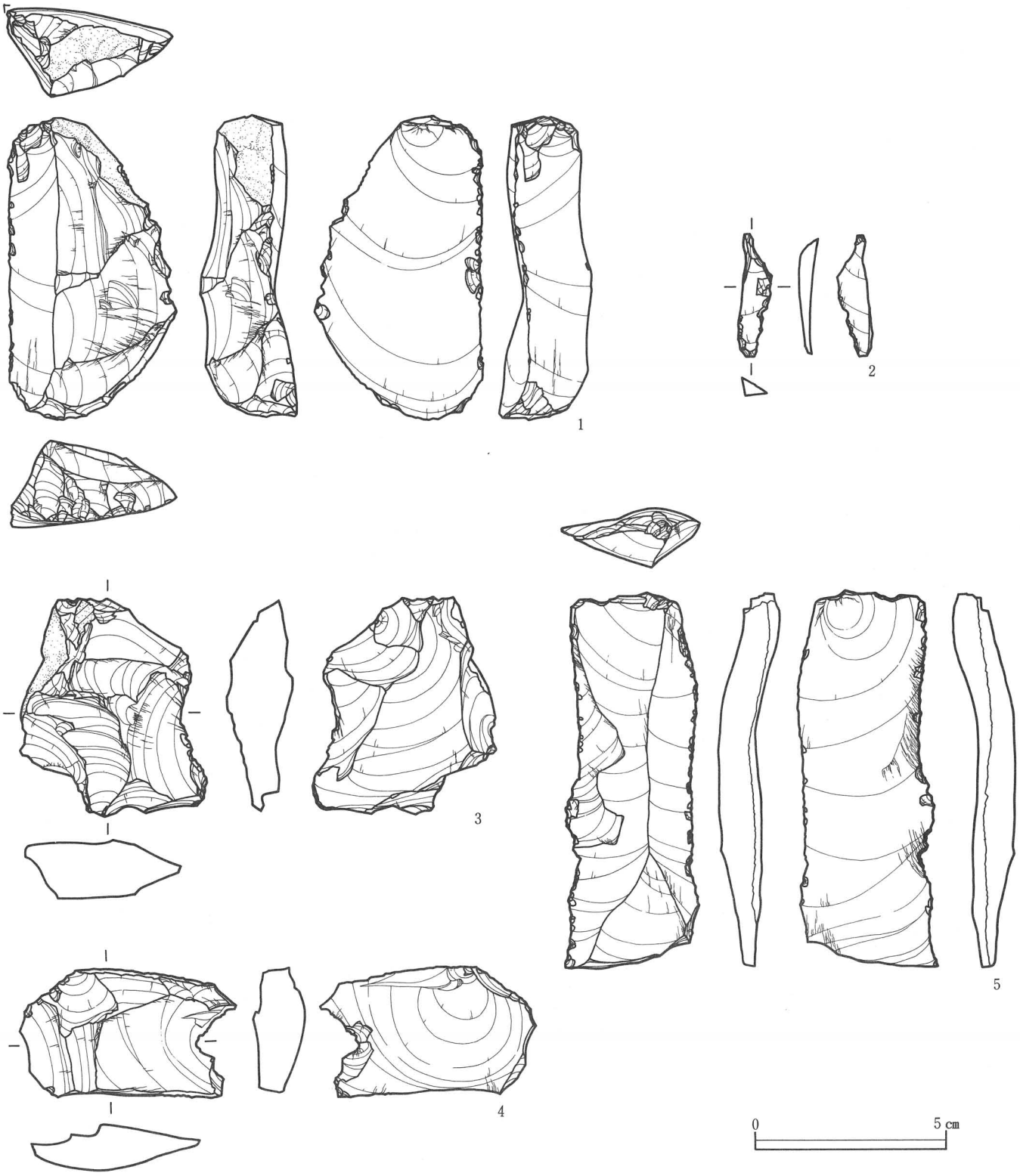
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅳ-AD-48	5	彫刻刀	5.7×2.9×1.3	20.0	珪質頁岩	図版70－16
2	Ⅳ-AD-48	5	彫刻刀	6.0×4.8×2.5	63.0	珪質頁岩	図版70－17
3	Ⅳ-AH-46	5	彫刻刀	3.7×2.8×1.7	24.2	珪質頁岩	図版70－18
4	Ⅳ-AH-47	5	彫刻刀	5.1×3.9×2.1	39.6	珪質頁岩	図版70－19
5	Ⅳ-AH-47	5	彫刻刀	6.3×3.2×1.7	38.8	珪質頁岩	図版70－20

第61図　Ⅳ区5層出土石器(2)



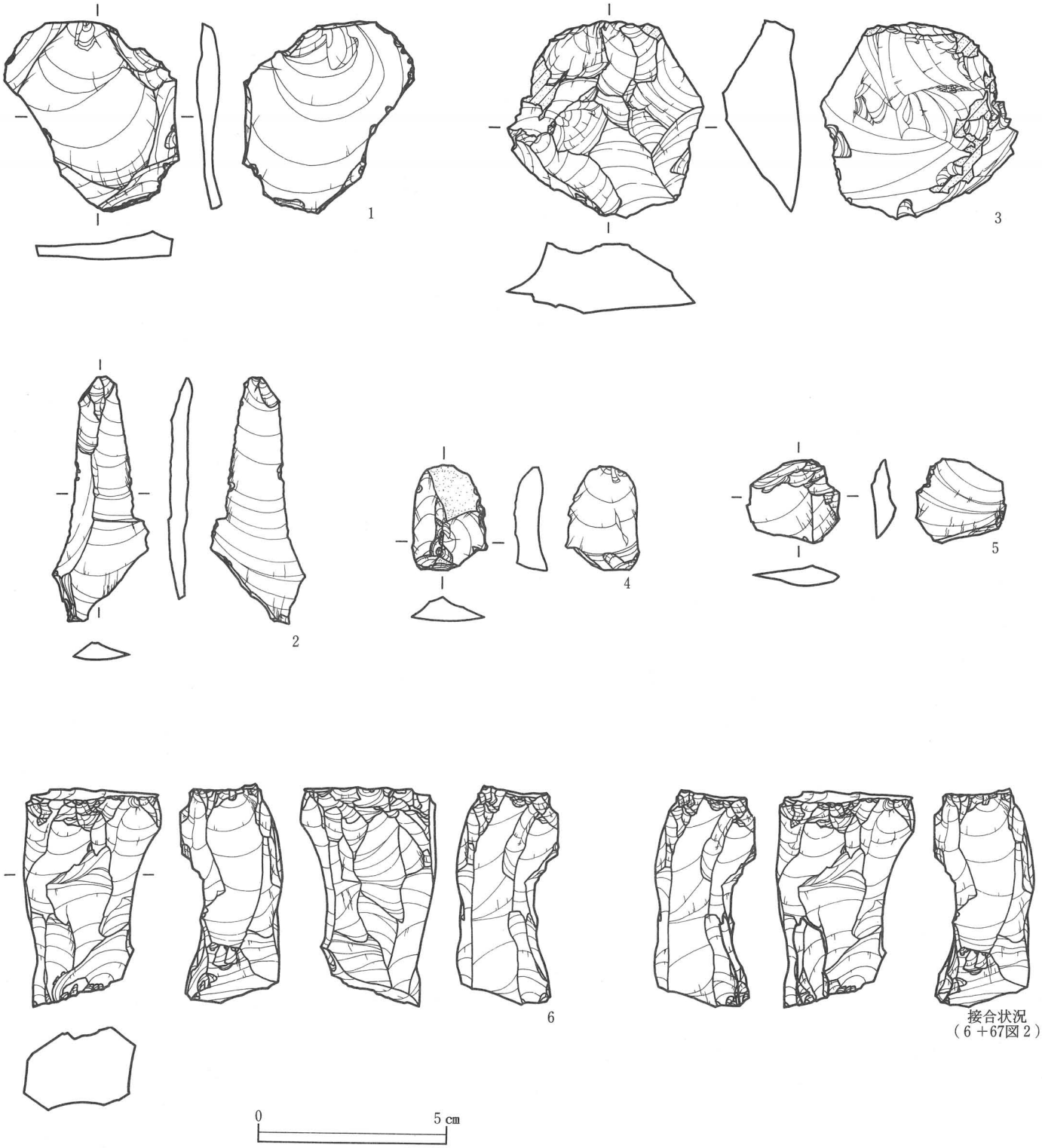
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅳ-AD-47	5 上	スクレーパー	5.0×5.5×2.2	52.5	珪質頁岩	図版70－21
2	Ⅳ-AD-45	5	スクレーパー	5.6×4.8×2.1	40.2	流紋岩	図版70－23
3	Ⅳ-AD-48	5	スクレーパー	7.8×4.2×1.4	42.4	珪質頁岩	図版70－24
4	Ⅳ-AF-47	5	スクレーパー	3.5×2.0×0.6	6.2	珪質頁岩	図版70－22
5	Ⅳ-AH-47	5	スクレーパー	7.1×3.6×0.7	15.8	珪質頁岩	図版70－25
6	Ⅳ-AD-48	5	スクレーパー	7.4×3.2×0.7	17.6	珪質頁岩	図版70－26

第62図　Ⅳ区5層出土石器(3)



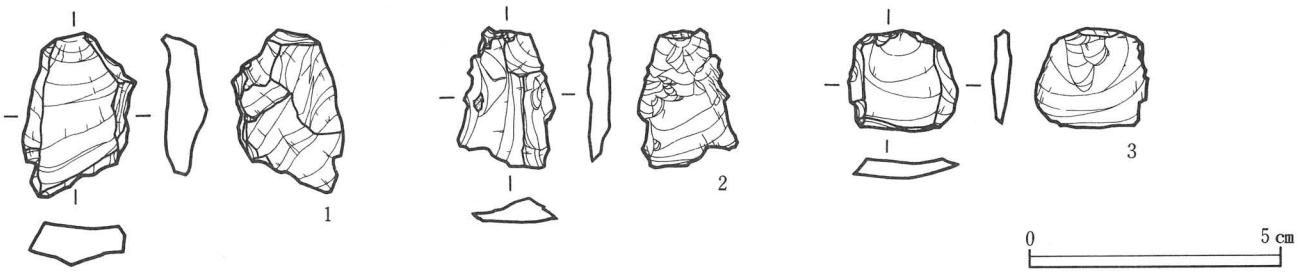
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅳ-AD-48	5	スクレーパー	7.9×4.3×1.8	44.4	珪質頁岩	図版70－27
2	Ⅳ-AH-47	5	彫刻刀スポール	3.2×0.7×0.4	0.8	珪質頁岩	図版70－29
3	Ⅳ-AD-47	5	ノッチ	5.7×4.4×1.9	42.0	珪質頁岩	図版70－30
4	Ⅳ-AD-48	5	ノッチ	3.2×5.4×1.3	22.8	珪質頁岩	図版70－28
5	Ⅳ-AD-48	5	石刃	9.6×3.3×1.0	36.0	珪質頁岩	図版70－31

第63図　Ⅳ区5層出土石器(4)



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅳ-AD-48	5	剝片	5.0×4.5×0.7	12.7	珪質頁岩	微細剝離痕有り
2	Ⅳ-AD-46	5	剝片	6.0×2.1×0.5	5.0	珪質頁岩	微細剝離痕有り　図版70－32
3	Ⅳ-AH-47	5	剝片	5.1×5.0×1.9	42.6	玉髄	図版70－33
4	Ⅳ-AE-47	5	剝片	2.7×1.9×0.8	3.4	黒曜石	図版70－34
5	Ⅳ-AH-46	5	剝片	2.2×2.3×0.6	2.6	珪質頁岩	
6	Ⅳ-AF-47	5	石核	5.5×3.5×2.3	54.0	珪質頁岩	67図No.2と接合　図版70－35,36

第64図　Ⅳ区5層出土石器(5)



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅳ-AF-41	倒木痕	剝片	2.8×2.1×0.8	4.4	石英安山岩質凝灰岩	
2	Ⅳ-AK-42	倒木痕	剝片	2.6×1.7×0.5	1.9	珪化凝灰岩（ややへき玉化進む）	
3	Ⅳ-AK-42	倒木痕	剝片	2.0×2.1×0.3	1.7	珪化凝灰岩	

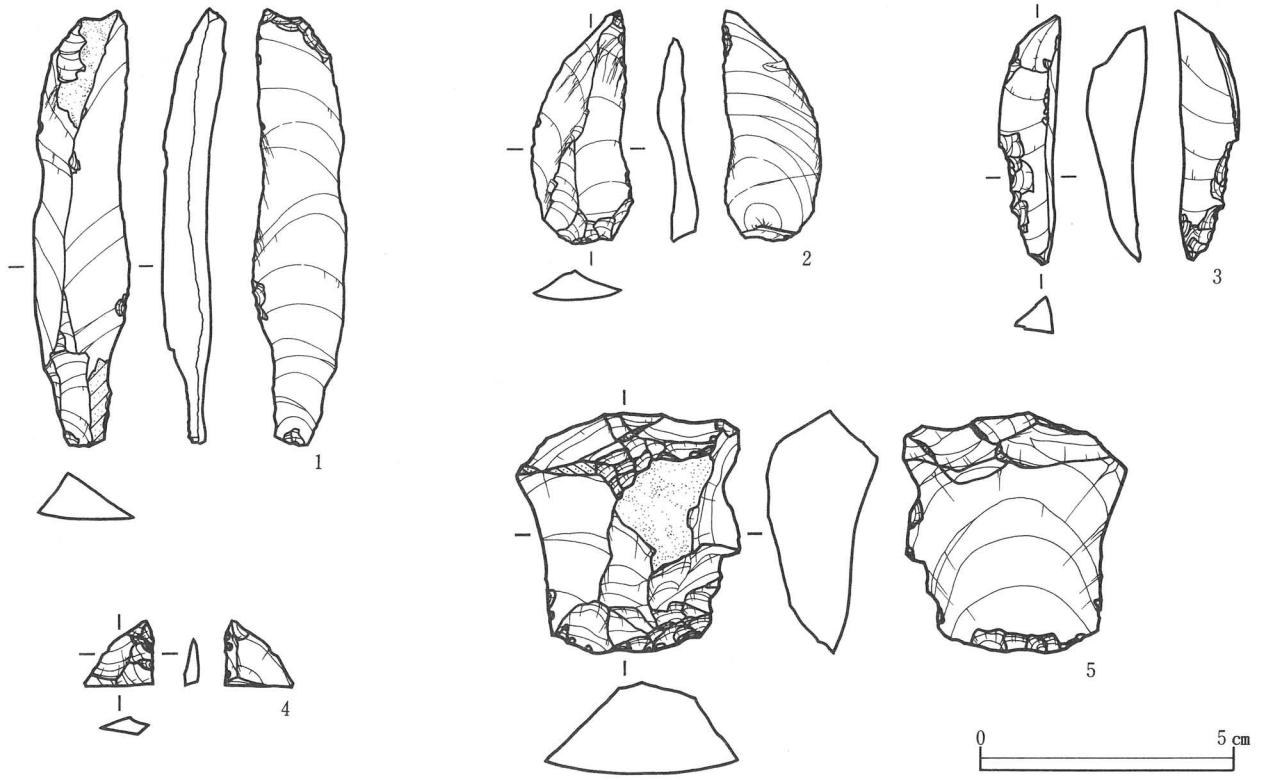
第65図　Ⅳ区5層倒木痕出土石器

〈Ⅳ区6ａ層〉

層中から遺物が出土している。土器が7点、石器が8点出土しているが、土器7点は倒木痕の6ａ層レベルから出土したものである。

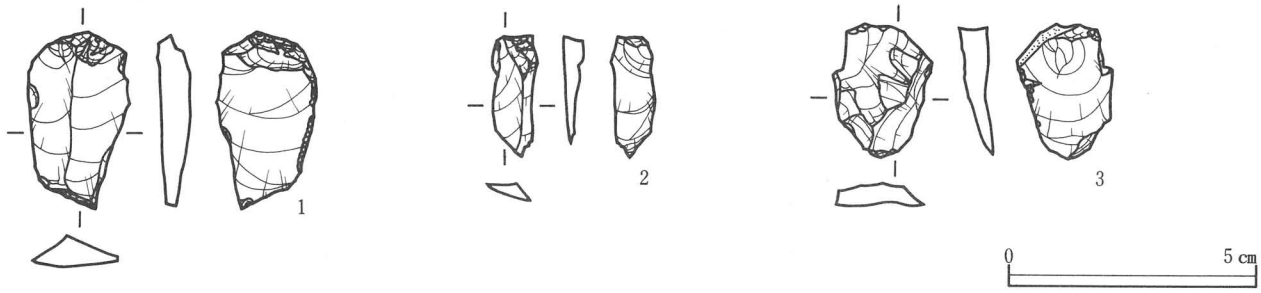
層の傾斜は西側が最も高く、南東から南側に徐々に下がっている。石器は調査区内に散在しておりまとまった出土状況はみられない。石器にはナイフ形石器2点、彫刻刀スポール1点、尖頭器1点、剝片4点があり、剝片には二次加工の認められるもの、5層出土の石核と接合するものがある。

47ラインを中心に石器が出土した付近の土壌を水洗選別した結果、チップ・剝が検出された。



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅳ-AH-46	6 a	ナイフ	8.4×1.8×0.9	12.4	珪質頁岩	図版70－37
2	Ⅳ-AD-44	6 a 上	ナイフ	4.5×1.8×0.5	4.1	珪質頁岩	図版70－38
3	Ⅳ-AI-45	6 a	彫刻刀スポール	4.7×1.1×1.2	5.4	珪質頁岩	図版70－39
4	Ⅳ-AE-42	6 a	尖頭器	1.2×1.3×0.3	0.3	珪化凝灰岩（白色化、細粒）	図版70－40
5	Ⅳ-AG-41	6 a	スクレーパー	4.8×4.0×2.1	37.0	石英安山岩質凝灰岩	図版70－42

第66図　Ⅳ6ａ層出土石器(1)



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅳ-AD-47	6 a	剝片	3.5×2.0×0.6	3.6	珪質頁岩	微細剝離痕有り　図版70－41
2	Ⅳ-AE-47	6 a	剝片	2.5×0.8×0.4	0.6	珪質頁岩	64図No.6と接合　図版70－43
3	Ⅳ-AJ-42	6 a	剝片	2.5×1.8×0.6	2.4	玉髓	

第67図　Ⅳ区6ａ層出土石器(2)

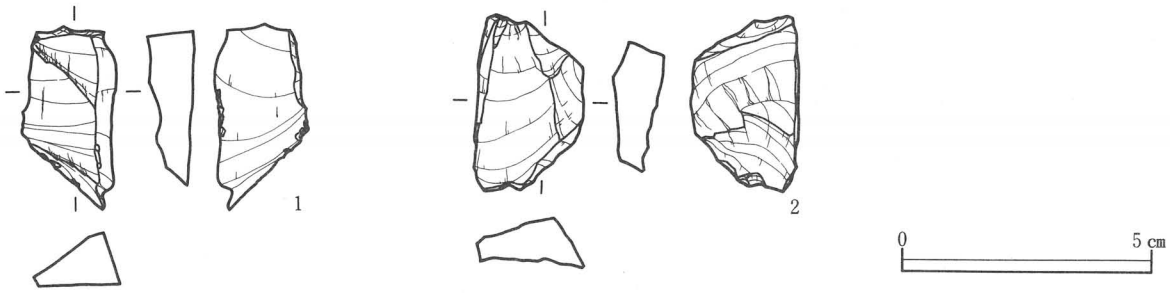
〈Ⅳ区6ｂ層〉

層中から遺物が出土している。土器2点、石器9点出土しているが、土器2点と石器2点は倒木痕の6ｂ層レベルから出土したものである。

層の傾斜は上層と同様に西側が最も高く、南東から南側に向かって徐々に下がっており、特に南側の傾斜が急になっている。石器は調査区の南東側の緩斜面から出土しており、傾斜の最も緩い部分、AH－47グリッドに集中して出土する部分が認められる。その他は南東斜面に散在している状況である。

AH－47グリッドの遺物集中出土部分では、約1×0.4mの範囲内に並ぶように4点、さらに約2m離れて1点の石器が出土している。石器は全て剝片及びチップである。その他の石器は剝片及び礫石器である。

AH－47・48グリッドを中心に石器が出土した付近の土壌を水洗した結果、チップ、剝片が検出された。



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅳ-AI-47	6 b	彫刻刀スポール	3.5×1.7×1.1	6.6	珪質頁岩	図版70－44
2	Ⅳ-AI-44	6 b	剝片	3.5×2.1×0.9	6.3	石英安山岩質擬灰岩	

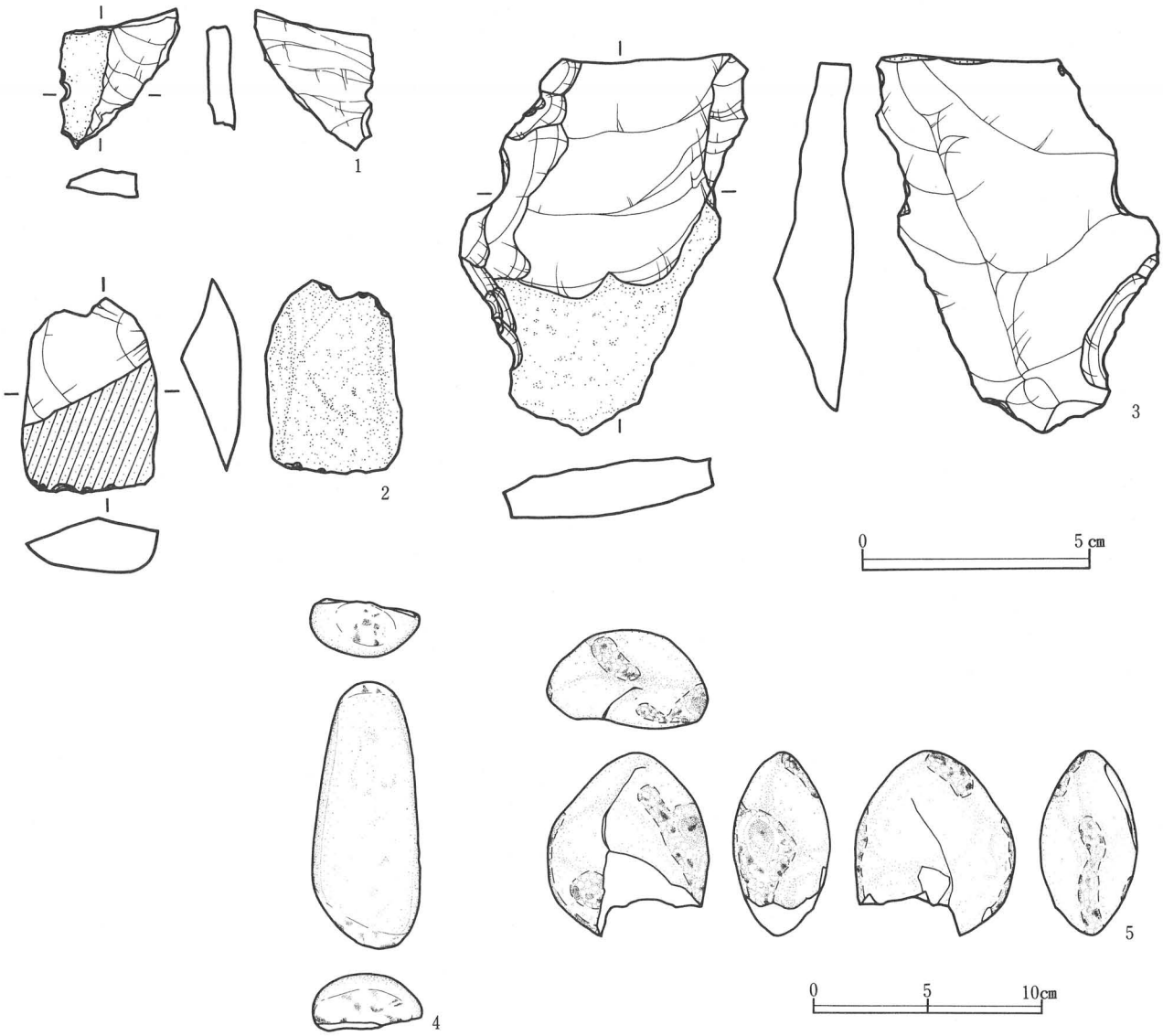
第68図　Ⅳ区6ｂ層出土石器

〈Ⅲ・Ⅳ区7～8層〉

7層では、Ⅲ区で土器1点、石器2点、Ⅳ区では7層の下部から石器3点が出土している。8層ではⅢ区で石器が3点出土している。以下の層では遺物は出土していない。Ⅲ区の7層出土の土器と石器の各1点は、倒木痕の7層レベルで出土したものである。

7・8層ともに西側から南東および南側に向かって徐々に下っており、南側がやや急傾斜で南東側は緩やかな傾斜になっている。石器は傾斜の緩やかな部分に散在している。

7層の石器はⅢ区が礫石器、Ⅳ区が剝片石器、8層の石器は剝片石器1点、礫石器1点である。剝片石器は全て剝片であり、礫石器には敲打痕が認められる。



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	Ⅳ-AK-43	7	剝片	2.5×2.4×0.5	3.6	凝灰岩（緑色化）	
2	Ⅲ-AM-47	8	剝片	4.2×2.8×1.1	13.8	凝灰岩	
3	Ⅲ-AL-49	8	剝片	8.2×5.5×2.3	77.0	珪化凝灰岩（角礫を含む）	
4	Ⅲ-AP-43	7	礫石器	11.6×4.7×2.0	141.7	凝灰岩（緑色化）	敲－両端　図版70－45
5	Ⅲ-AM-48	8	礫石器	8.0×7.0×4.2	224.7	石英安山岩	敲－端部、側面　図版70－46

第69図　Ⅲ、Ⅳ区7～8層出土石器

第1表　土壌水洗により検出したチップ数

位置		層位	数量・重量（g）				
			3㎜未満	5㎜未満	1㎝未満	1㎝以上	剝片
Ⅰ区	ベルト北側	5	39・0.1	137・1.3	62・2.5	12・4.4	6・25.2
	〃 北半	6	14・0.1	30・0.2	20・1.1	2・1.0	4・8.6
	AD-32	6	12・0.03	38・0.3	29・1.6	4・0.9	3・20.0
	ベルト北半	7	2・0.01	5・0.01	6・0.3	2・0.1	
	AJ-29	7		1・0.1			
	AK-27	7		3・0.01			
	ベルト北側	8	5・0.01	37・0.7	45・2.6	3・0.5	
	AI-28	8	2・0.01	2・0.01	1・0.01		1・0.6
	AJ-28	8	9・0.05	14・0.1	7・0.3		1・1.2
	AG-25	9				1・0.2	
	AI-28	9	17・0.1	52・0.6	26・1.9	15・8.2	2・16.0
	AI-29	9		3・0.05		1・0.3	

位置		層位	数量・重量（g）				
			3㎜未満	5㎜未満	1㎝未満	1㎝以上	剝片
Ⅲ区	AN-45	6b中					1・12.4

位置		層位	数量・重量（g）				
			3㎜未満	5㎜未満	1㎝未満	1㎝以上	剝片
Ⅳ区	AC-47.48	5	9・0.05	37・0.7	12・1.0	2・1.1	
	AD.AE-46ベルト	5		4・0.01	3・0.2	2・0.4	1・0.5
	AD～AF-47.48	5		3・0.01	2・0.01	1・0.3	
	AH-46ベルト	5		13・0.3		1・0.2	
	AH-47	5	1・0.01	11・0.2	11・0.5	1・0.2	4・1.7
	AH-47.48ベルト	5	1・0.01	4・0.01	8・0.3	4・0.4	3・1.8
	AH-47.48	5	23・0.1	41・0.4	8・0.4		
	AC-47.48拡	6a	12・0.05	19・0.2	6・0.4	1・0.5	1・6.1
	AD-47	6a	2・0.01	7・0.1	6・0.3	1・0.1	
	AD.AE-46ベルト	6a	10・0.03	31・0.3	12・0.3		
	AE～AF-47.48	6a		1・0.01	2・0.1	1・0.3	
	AG.AH-46ベルト	6a	2・0.01	5・0.01			
	AH-46ベルト	6a	1・0.01	5・0.1	2・0.1		
	AH-47.48ベルト	6a	1・0.01	1・0.01	14・0.6	3・2.6	
	AH-47.48	6a	9・0.05	19・0.15	3・0.1		
	AD～AF-47.48	6b	10・0.05	65・0.9	46・2.7	4・1.0	1・0.3
	AH-46ベルト	6b		11・0.1	1・0.01	2・0.3	
	AH-46.47	6b	1・0.01	2・0.01		3・0.1	
	AH-47.48	6b	2・0.01	33・0.7	29・1.6	1・0.8	

第2表　出土剝片数　（　）＝倒木痕・木根痕より出土した点数

	長＼幅	1cm未満	2〃	3〃	4〃	5〃	6〃	7〃	8〃	9〃	10〃	11〃	12〃	13〃
I区5層	10cm未満											2		
	9〃													1
	8〃								1					
	7〃						1		2		1			
	6〃						3		5 (1)	2				
	5〃					10 (2)	13 (2)	9 (1)	2	2 (1)				
	4〃				13 (3)	24 (2)	11 (2)	4	2					
	3〃			20 (4)	29 (7)	16 (2)	3							
	2〃		18 (6)	39(13)	17 (2)	3	3							
	1〃		5 (1)	1										

	長＼幅	1cm未満	2〃	3〃	4〃	5〃	6〃	7〃	8〃	9〃	10〃	11〃	12〃	13〃
I区6層	6cm未満						2	3	1	1				
	5〃					1	2 (1)	1 (1)	1 (1)					
	4〃				5	10 (2)	4	1						
	3〃			11 (3)	14 (1)	7 (1)	1	1						
	2〃		8	21 (4)	6 (1)									
	1〃		5											

	長＼幅	1cm未満	2〃	3〃	4〃	5〃	6〃	7〃	8〃	9〃	10〃	11〃	12〃	13〃
I区7層	8cm未満											1		
	7〃										1			
	6〃													
	5〃						2	1	1					
	4〃					5	1							
	3〃			4 (1)	2 (1)	1 (1)								
	2〃		3	6 (1)	3	1								
	1〃		1		1									

	長＼幅	1cm未満	2〃	3〃	4〃	5〃	6〃	7〃	8〃	9〃	10〃	11〃	12〃	13〃
I区8層	6cm未満						1 (1)							
	5〃								1					
	4〃				1 (1)			1						
	3〃				1	1 (1)								
	2〃		2	4	1									
	1〃													

	長＼幅	1cm未満	2〃	3〃	4〃	5〃	6〃	7〃	8〃	9〃	10〃	11〃	12〃	13〃
I区9層	6cm未満						1							
	5〃													
	4〃							1						
	3〃				2	1		1						
	2〃		4	3	1		1							
	1〃													

	長＼幅	1cm未満	2〃	3〃	4〃	5〃	6〃	7〃	8〃	9〃	10〃	11〃	12〃	13〃
I区10層	5cm未満							1						
	4〃				2 (2)		1 (1)	2 (2)						
	3〃			6 (6)	4 (2)	2 (1)								
	2〃		3 (3)	6 (6)	3 (2)									
	1〃													

	長＼幅	1cm未満	2〃	3〃	4〃	5〃	6〃	7〃	8〃	9〃	10〃	11〃	12〃	13〃
III区5層	3cm未満			2	1 (1)	1								
	2〃		1	1 (1)	2									
	1〃			1										

	長＼幅	1cm未満	2〃	3〃	4〃	5〃	6〃	7〃	8〃	9〃	10〃	11〃	12〃	13〃
III区6層	3cm未満				1	1								
	2〃		1 (1)		1									
	1〃		1 (1)											

	長＼幅	1cm未満	2〃	3〃	4〃	5〃	6〃	7〃	8〃	9〃	10〃	11〃	12〃	13〃
IV区5層	6cm未満						1							
	5〃						1							
	4〃										1			
	3〃													
	2〃		1	1	1									
	1〃	1	2											

	長＼幅	1cm未満	2〃	3〃	4〃	5〃	6〃	7〃	8〃	9〃	10〃	11〃	12〃	13〃
IV区6層	3cm未満			1	3									
	2〃		1	2										
	1〃		3	1										

第3表　石器の石材　（　）＝層中での％　倒木痕出土の物を除く

区・種類	層	凝灰岩	凝灰岩（緑色化）	石炭安山岩質凝灰岩	珪化凝灰岩	珪化凝灰岩 角レキを含む	珪化凝灰岩 白色化・細花	珪化凝灰岩 ややへき玉化進む	珪化凝灰岩 一部玉ずい化	石英安山岩	珪質頁岩	頁岩	花コウ岩	玉ずい	へき玉	他
I区・剝片	表土・表採	15(13)	1(1)	32(27)	18(15)	7(6)		5(4)		10(8)	29(25)			1(1)		
	1～4	9(12)	3(4)	22(29)	15(20)	5(7)		3(4)		9(12)	8(11)			1(1)		
	5	70(26)	2(1)	61(22)	33(12)	8(3)	2(1)	9(3)	3(1)	7(2)	71(26)			3(1)		黒よう石3(1)×172(1)
	6	32(30)		39(37)	11(11)	4(4)		1(1)			11(11)	1(1)		2(2)	3(3)	
	7	14(40)		5(14)	2(6)	4(11)	1(3)	2(6)		1(3)	5(14)			1(3)		
	8	3(30)		1(10)	3(30)	1(10)		1(10)			1(10)					
	9	7(41)		3(17)	1(6)		1(6)				2(12)			2(12)	1(6)	
	10	6(86)				1(14)										
I区・礫	表土・表採									3(100)						
	1～4	1(50)								1(50)						
	5		1(20)	1(20)						2(40)	1(20)					
	6									4(100)						
	7									5(100)						
	8									1(100)						
	9	1(11)								6(67)			1(11)			凝灰角礫岩1(11)
	10	1(14)								6(86)						
II区・剝片	表土・表採	2(25)		2(25)				1(13)			3(37)					
	1～4					1(33)				2(67)						
	5	2(29)									5(71)					
	10									1(100)						
III区・剝片	1～4	1(20)									4(80)					
	5			3(75)						1(25)						
	6a				1(100)											
	8	1(50)				1(50)										
III区・礫	6b	1(50)								1(50)						
	7		1(100)													
	8									1(100)						
IV区・剝片	表土・表採	2(40)		2(40)							1(20)					
	1～4	1(100)														
	5							1(3)			26(88)			1(3)		黒よう石1(3) 流紋岩1(3)
	6a			1(14)			1(14)				4(58)			1(14)		
	6b			1(17)							5(83)					
	7	1(50)	1(50)													
IV区・礫	5									1(100)						

Ⅵ．まとめ

1．古代の遺構と遺物について

古代の遺構として竪穴住居跡1軒が検出された。出土した古代の土器は土師器坏、甕、須恵器坏がある。土師器はいずれも成形に際してロクロを使用しているものである。土師器坏は底部を欠いており、底部の切離し技法は不明である。内面にミガキ及び黒色処理が施されている。甕は長胴形のもので外面の体部下半にケズリが施されている。これらは表杉ノ入式（氏家：1957）に属するものと考えられ、平安時代のものと考えられる。須恵器坏は底部の切り離し技法が回転ヘラ切りで、切り離し後の調整は見られない。土師器と同様の年代が考えられる。竪穴住居跡は遺構の遺存状況が悪く、カマドは遺存せず、周溝、柱穴、その他の施設についても不明であるが、遺物の年代から平安時代のものであると考えられる。

2．縄文時代の遺構と遺物について

縄文時代の遺構として竪穴住居跡2軒、土坑31基が検出された。出土した縄文時代の遺物は、土器と石器である。土器については大部分が胎土中に植物繊維を含んだものである。全て破片であり、全体の器形を復元できる資料はない。文様については、土器の内・外面に貝殻条痕文が施されたもの、外面に縄文、内面に貝殻条痕文が施文されたもの、内・外面に縄文が施文されたもの、外面に縄文のみが施文されたものなどがある。なかには体部の中央に刻目文あるいは貝殻頂部を押圧した隆線文や隆帯が巡っているもの、細い粘土紐を貼り付けた隆線文によって幾何学的な文様を描き、内部に短い沈線文や刺突文が施文されたものや、外面の体部に縄文、口縁部近くに貝殻条痕文、内面の体部に貝殻条痕文、口縁部近くに縄文が施文され、縄文が付けられた隆線文が巡るものなどがある。また、外面に縄文のみが施され、内面に条痕文が見られないものについては、羽状縄文がほとんどみられず、斜行縄文のものが大部分である。これらの土器の出土状況は遺構内堆積土中及び基本層各層中から混在して出土しており、層位的に一括性や規則性はみられなかった。以上のことから胎土中に植物繊維を含んだ土器については所謂条痕文土器及び縄文条痕土器が中心となっていると考えられ、柴田町上川名貝塚の下層（加藤：1951）や小牛田町素山貝塚の上層（伊東：1940）から出土した土器に類似しているもの、石巻市梨木畑貝塚（林：1964）、七ヶ宿町小梁川遺跡（真山他：1987）、塩釜市船入島貝塚の下層（加藤：1954）から出土した土器に類似したものが認められ、早期後葉から末葉にかけてのものであると考えられる。この中には外面、内面ともに貝殻条痕文が認められないものがあり、それについては若干時期が新しくなることも考えられるが、羽状縄文がほとんど見られず、貝殻条痕文が施文されていなかったものかどうかは不明であり、縄文条痕土器の盛行以前のものか以降のものかは層位的な関係からも明らかにはできず、前期初頭まで時期の下るものが混在していることも考えられる。

竪穴住居跡は遺存状況が悪く、柱穴、炉、その他の施設についても不明であるが、出土した土器が胎土中に植物繊維を含むもののみであることから、早期後葉から前期初頭のものであると考えられる。土坑については平面形が長方形及び隅丸長方形、楕円形のものと長楕円形の所謂葉巻形のものが認められる。前者には底面にピットが認められるものがある。また、長楕円形のものには両端部がオーバーハング状になっているものがる。これらの土坑は、形態から陥穴、落し穴と呼称されている遺構であると考えられる。配置関係は等高線に対して平行なものが多く、特に緩やかな尾根状になっている部分に多くなっており、長楕円形のものは全てこの部分に配置されていたことが考えられるが、茂庭けんとう城（金森：1990）のような2個で1対をなして配置するような例はみられなかった。また、長楕円形のSK 5と長方形のSK 2が重複関係にあり、SK 2がSK 5を切っていることからSK 2が新しいことが分かるが、その他のものは長楕円形のものとそれ以外のものの時期的な関係は不明である。遺構の性格から遺物を出土した土坑は少なく、遺物の量も少ないため詳細は不明であるが、出土した土器には胎土中に植物繊維を含んだ早期後半～前期初頭と考えられるものが多い。中には後期前半と考えられる土器を出土するものもある。このことから土坑の時期は早期後半から前期初頭を中心として後期にかけてのものがあると考えられる。

3．旧石器時代の遺構と遺物について

旧石器時代の遺物包含層がⅠ区及びⅢ・Ⅳ区で検出された。Ⅰ区では第6層から第10層上面までの5枚が遺物包含層である。Ⅲ区では第5層から第8層までの5枚が遺物包含層であり、Ⅳ区では第5層から第7層までの4枚が遺物包含層となっている。Ⅰ区の第5層においても旧石器時代に属すると考えられる石器が出土しているが、同層中より縄文時代に属すると考えられる土器や石器が混在して出土しており、純粋な旧石器時代の遺物包含層ではなく、二次的な包含層であると考えられる。Ⅳ区の第7層の上部（7a層）は「川崎スコリア層」を含む固結部に相当するものと考えられ、Ⅰ・Ⅲ区の第7層には、同様のスコリアが含まれている。このことからⅠ区の第7～10層上面及びⅢ・Ⅳ区の第7・8層は、約3万年前の年代を示すスコリア層より下位の層序を示し、前期旧石器時代のものであると考えられる。

後期旧石器時代の石器については、Ⅰ・Ⅲ区から出土した石器は、剝片石器と礫石器がある。剝片石器は大部分が剝片であり、Toolはほとんど見られない。同一の石材、同一母岩と考えられる剝片が多い。特にⅠ区では石核も出土しており、接合関係もみられることから石器の製作に関係する場所であったことが推定される。それに対してⅣ区の場合は第5層においてナイフ形石器、スクレーパー、彫刻刀形石器、ノッチ、尖頭器などのToolが多い。石材については、第3表に掲げたとおりである。Ⅰ・Ⅲ区では凝灰岩、石英安山岩質凝灰岩、珪化凝灰岩が多く、頁岩、珪質頁岩は極く少ないという比率を示すが、Ⅳ区では多くが珪質頁岩であり、その他の石材は少ないという比率を示している。これはToolの数の違いによるところが大きいものと考えられる。頁岩は山形方面から持ち込まれたものであると考えられる。その他の石材については地元で産する石材が多く、特にⅠ区では多くの石核、剝片が凝灰岩、石英安山岩質凝灰岩、珪化凝灰岩である。礫石器には端部や側面に敲打痕や磨痕が認められるものがある。

前期旧石器時代の石器についても同様に剝片石器と礫石器があるが、剝片石器は大部分が剝片であり、ToolはⅠ区の第8層で検出された倒木痕中より出土したペン先形ナイフ等があるのみである。石材については凝灰岩、珪化凝灰岩が多い。石器の組成については出土数が少なく、規則性、まとまりも見られず詳細は不明である。また、Ⅳ区の第7層上面で溝状の土坑が1基検出されたが、人工的なものか、自然営力によるものかは不明である。

今回の報告では検出遺構と出土遺物の掲載のみで、個々の遺物の分析、検討については十分に行い得なかった。多量の剝片資料、接合資料などの詳細な分析と検討、石材の産地の特定などによって遺跡の性格や位置付けが明確になるものと思われる。

引用・参考文献

荒井　格他（1985）：「山田上ノ台遺跡－昭和59年度発掘調査報告書－」『仙台市文化財調査報告書第77集』仙台市教育委員会

氏家　和典（1957）：「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史第14輯』東北史学会

加藤　孝（1951）：「宮城県上川名貝塚の研究」『宮城学院女子大学研究論文集Ⅰ』宮城学院女子大学

金森　安孝他（1990）：「茂庭けんとう城・東館跡発掘調査報告書」『仙台市文化財調査報告書第137集』仙台市教育委員会

菅原　弘樹（1988）：「西前・町田遺跡－国道286号線（茂庭工区）道路改良工事関係報告書－」『宮城県文化財調査報告書第128集』宮城県教育委員会

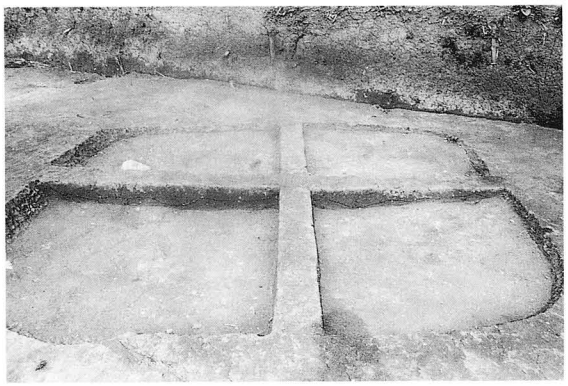
柳沢みどり他（1981）：「山田上ノ台遺跡－発掘調査概報－」『仙台市文化財調査報告書第30集』

山内　清男（1929）：「関東北に於ける繊維土器」『史前学雑第1巻2号』史前学会

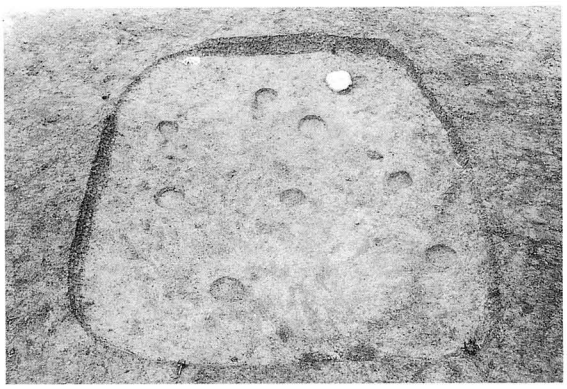
写　真　図　版

図版１　遺跡全景（上空南より）

図版２　段状部分（南東より）



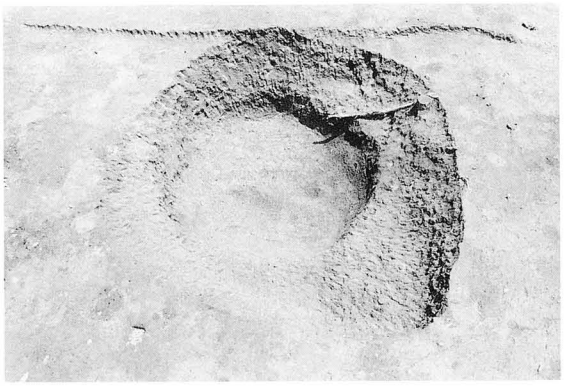
図版３　ＳＩ－１　住居跡土層断面（西より）



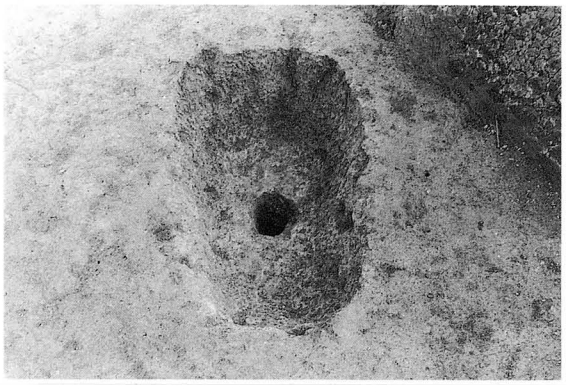
図版４　ＳＩ－１　住居跡（南東より）

図版５　ＳＩ－２　住居跡（北西より）

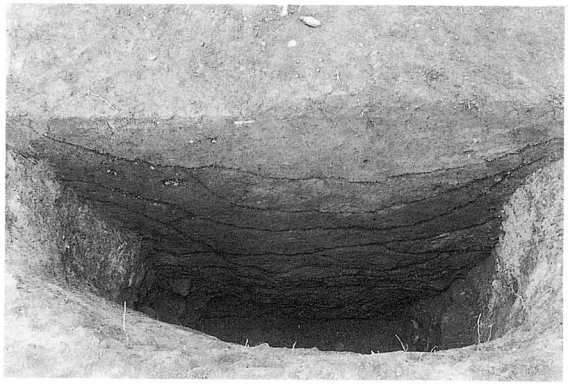
図版６　ＳＩ－３　住居跡（西より）



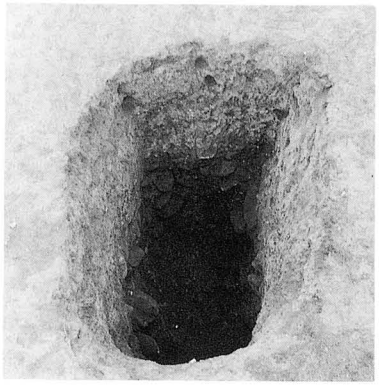
図版７　ＳＩ－３　住居跡ピット１（西より）



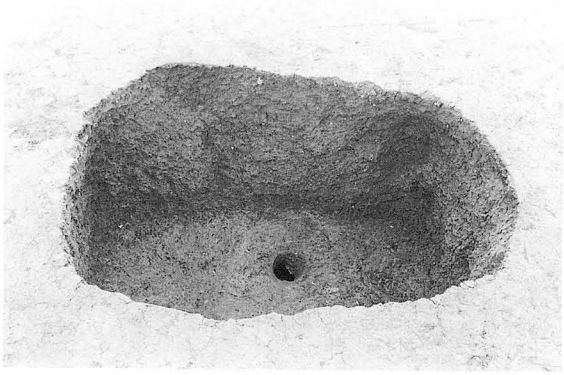
図版８　ＳＫ－１土坑（北東より）



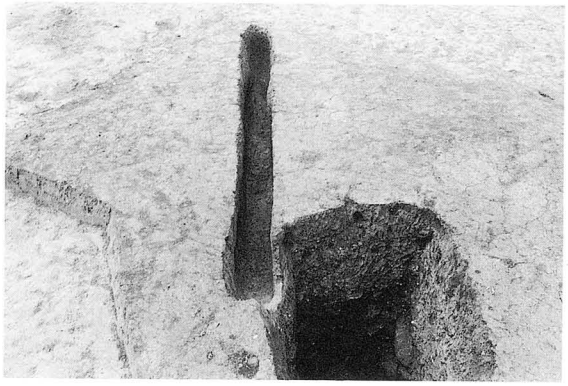
図版９　ＳＫ－２土坑土層断面（南西より）



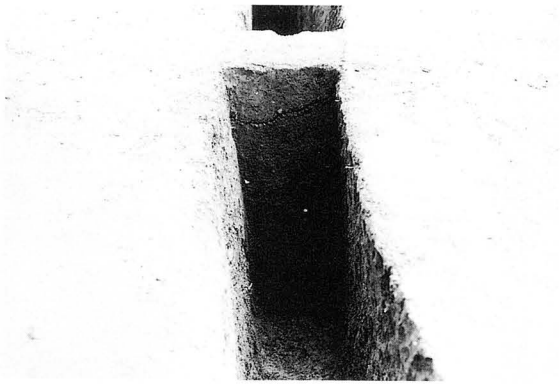
図版10　ＳＫ－２土坑（北西より）



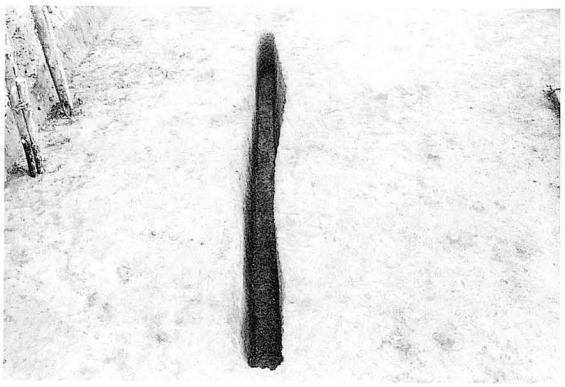
図版11　ＳＫ－３土坑（東より）



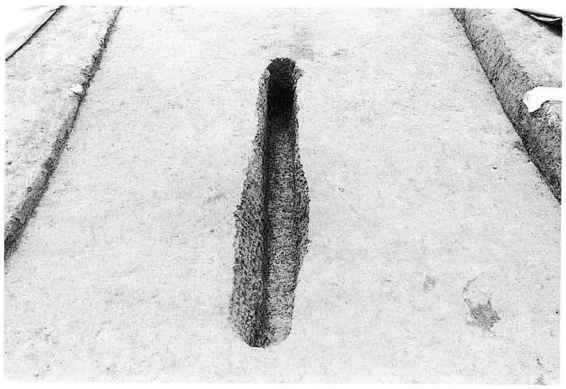
図版12　ＳＫ－５土坑（南東より）



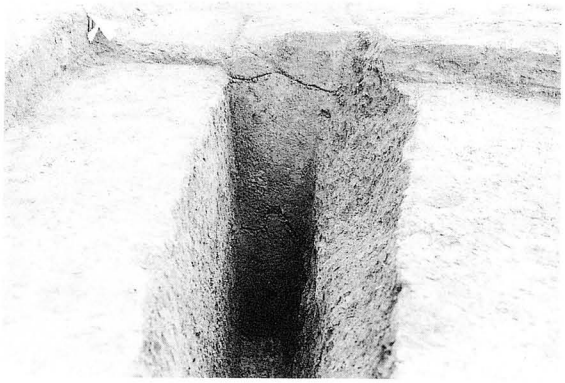
図版13　ＳＫ－８土坑土層断面（北より）



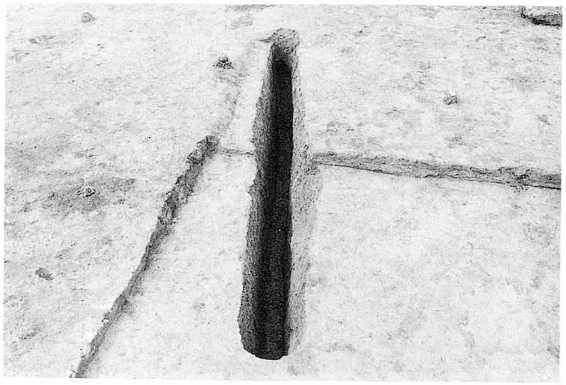
図版14　ＳＫ－８土坑（北より）



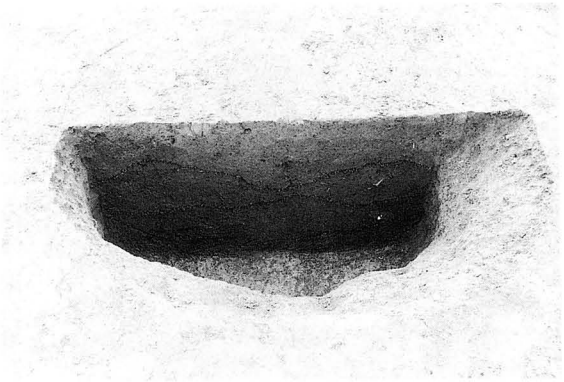
図版15　ＳＫ－９土坑（北より）



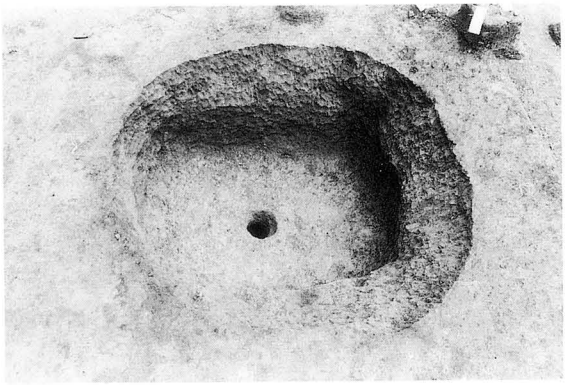
図版16　ＳＫ－10土坑土層断面（南より）



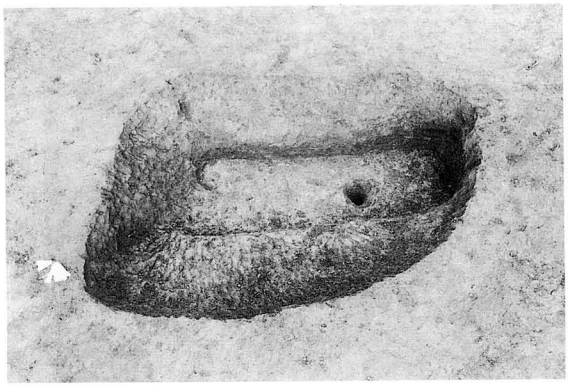
図版17　ＳＫ－10土坑（南より）



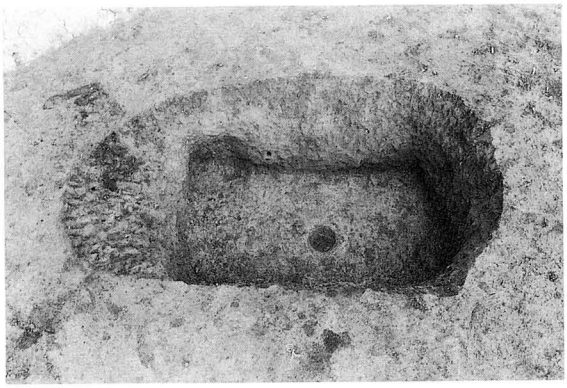
図版18　ＳＫ－12土坑土層断面（北西より）



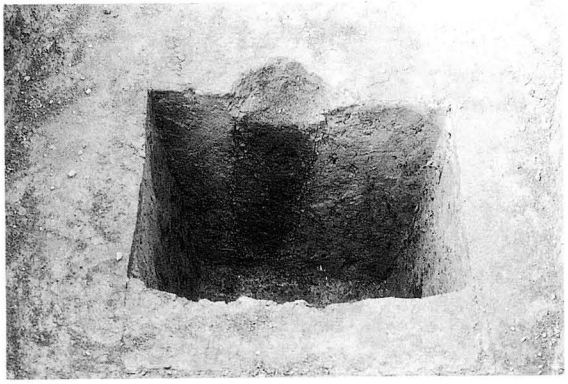
図版19　ＳＫ－12土坑（西より）



図版20　ＳＫ－13土坑（北西より）

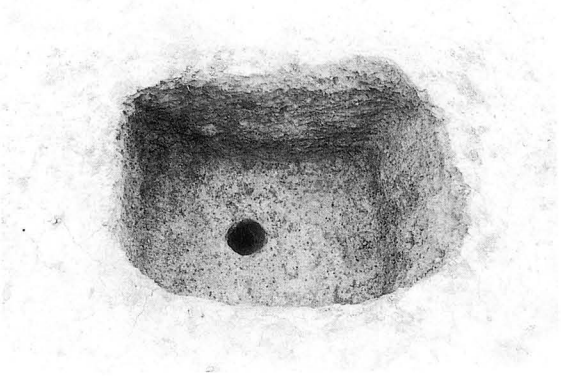


図版21　ＳＫ－14土坑（北西より）

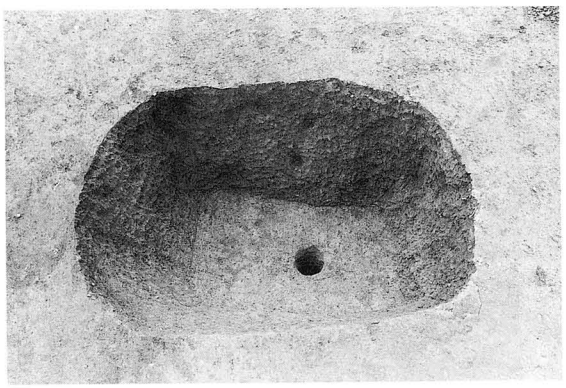


図版22　ＳＫ－14土坑ピット断ち割り状況

図版23　ＳＫ－17土坑土層断面（東より）

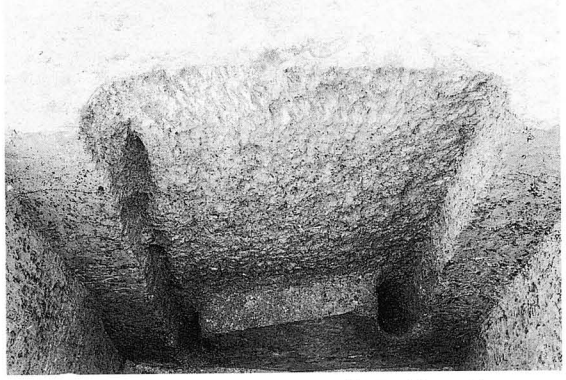


図版24　ＳＫ－17土坑（東より）

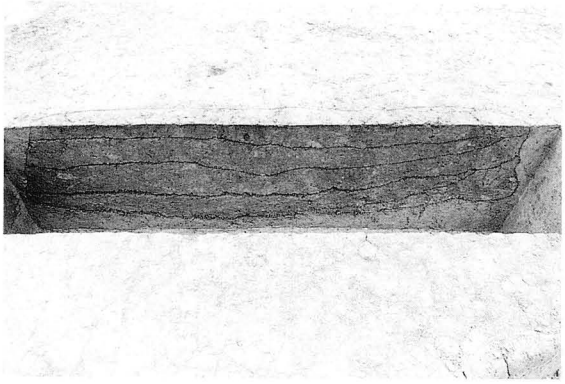


図版25　ＳＫ－18土坑（北東より）

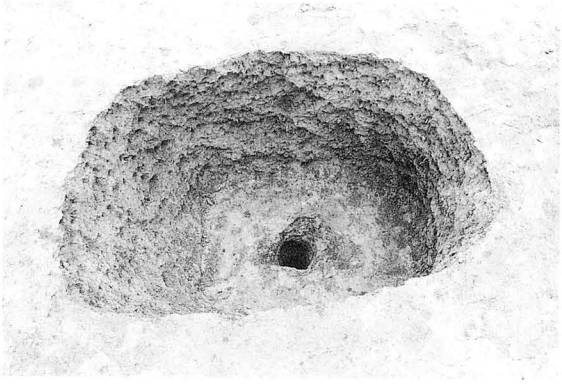
図版26　ＳＫ－19土坑土層断面（東より）



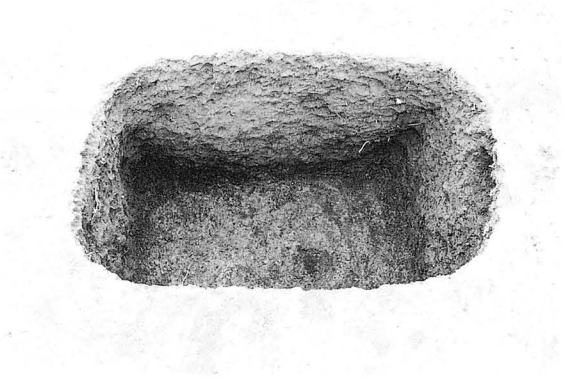
図版27　ＳＫ－19土坑断ち割り状況（東より）



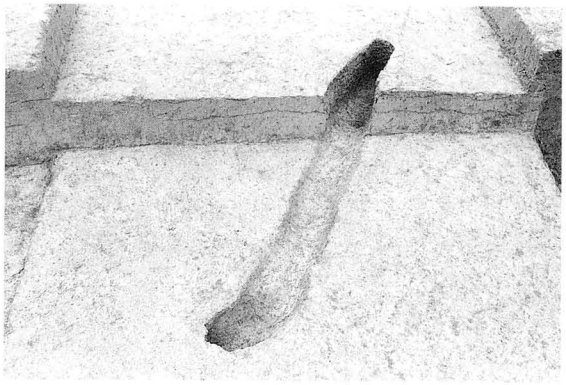
図版28　ＳＫ－23土坑土層断面（東より）



図版30　ＳＫ－26土坑（東より）

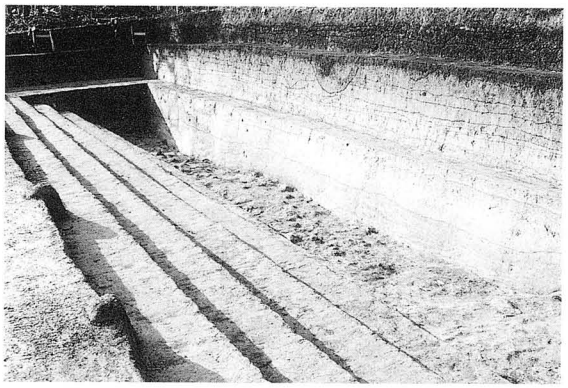


図版29　ＳＫ－24土坑（北より）

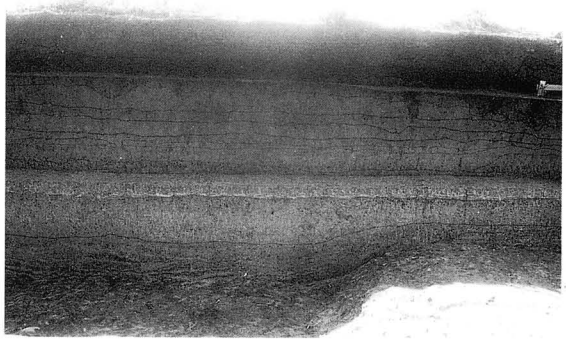


図版31　ＳＫ－32土坑（北より）

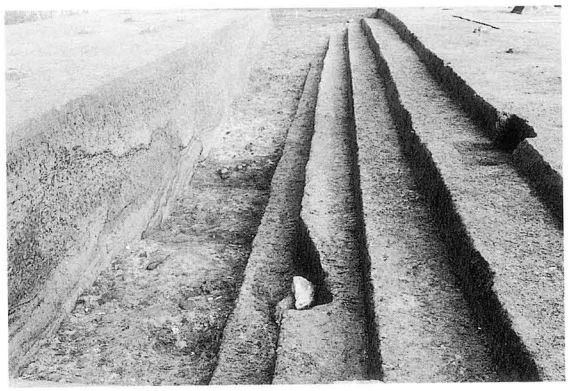
図版32　Ⅰ区全景（北より）



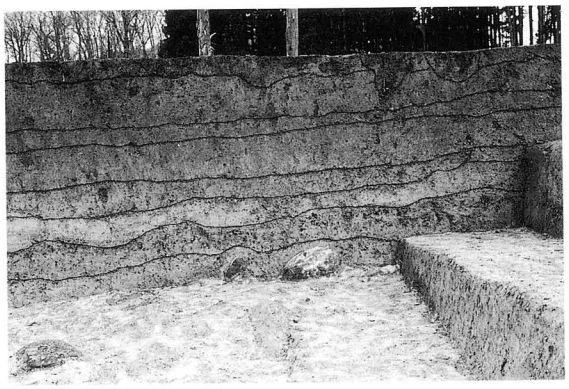
図版33　Ⅰ区西トレンチ（北東より）



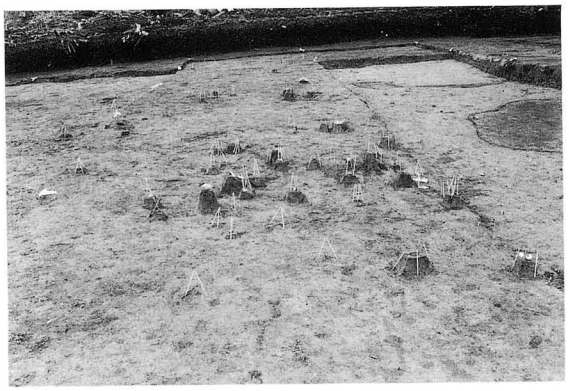
図版34　Ⅰ区西トレンチ西壁北側断面（東より）



図版35　Ⅰ区東トレンチ（南東より）

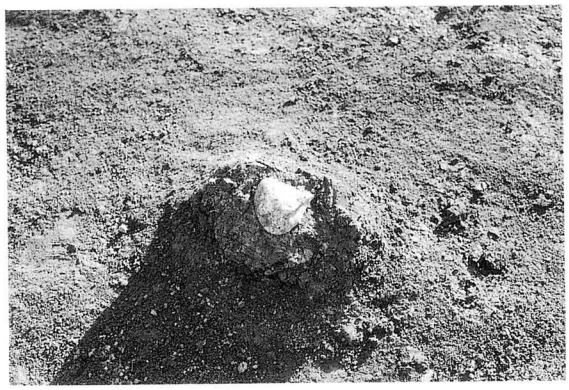


図版36　Ⅰ区東トレンチ北壁断面（南より）



図版37　Ⅰ区第５層遺物出土状況（北より）

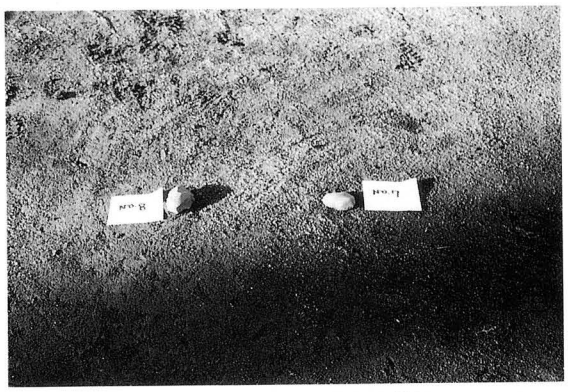
図版38　（第37図６）石器出土状況



図版39　（第39図１）石器出土状況

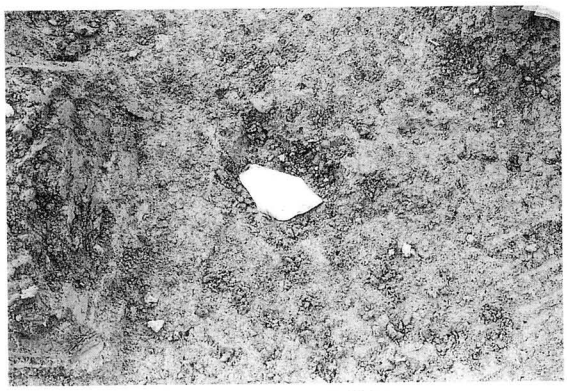
図版40　（第39図２）石器出土状況

図版41　（第39図３）石器出土状況



図版42　（第39図５、６）石器出土状況

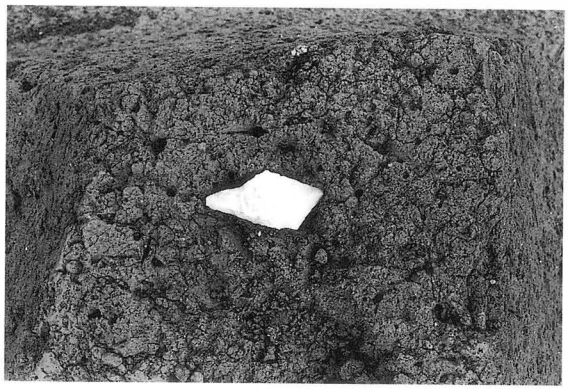
図版43　（第40図１）石器出土状況



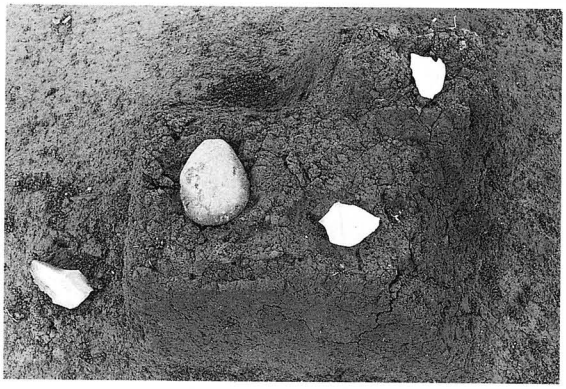
図版44　（第45図２）石器出土状況

図版45　Ⅰ区７層石器出土状況（東より）

図版47　（第50図１）石器出土状況（西より）



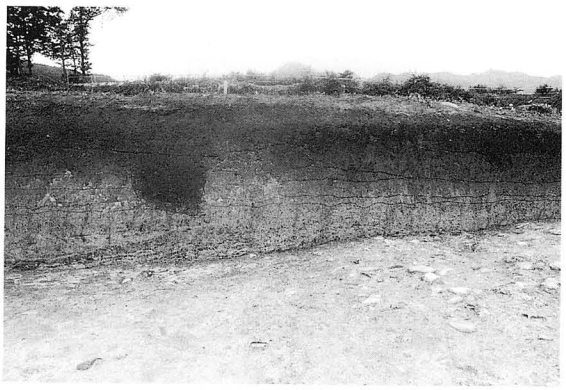
図版46　（第47図２）石器出土状況（西より）



図版48　Ⅰ区10層石器出土状況（西より）

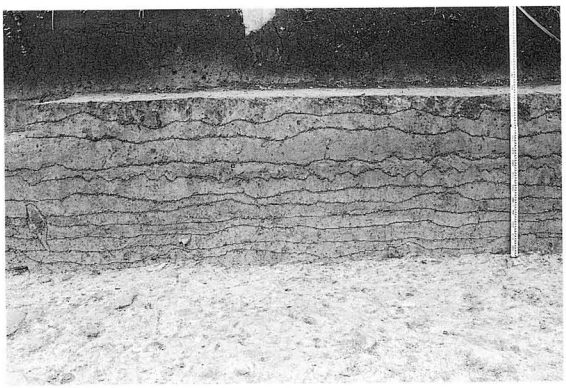
図版49　Ⅱ区全景

図版50　Ⅱ区全景（北より）

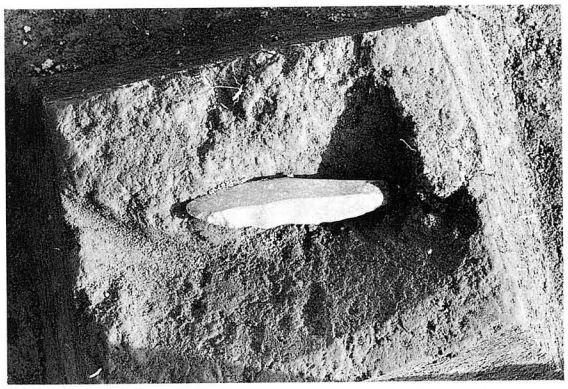


図版51　Ⅱ区西壁断面（東より）

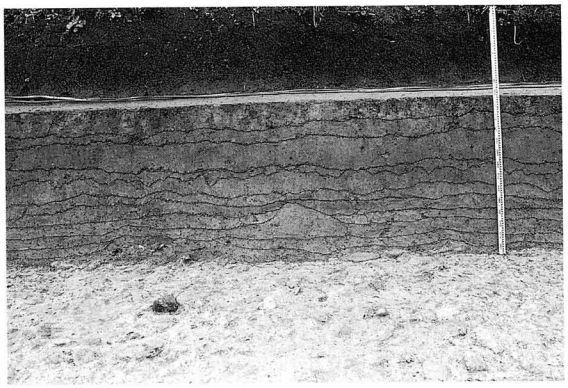
図版52　Ⅲ・Ⅳ区全景（南より）



図版53　Ⅳ区西壁断面・北部（東より）



図版56　（第60図２）石器出土状況（北より）

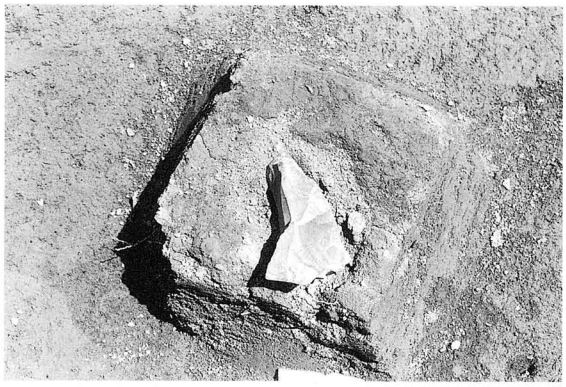


図版54　Ⅳ区西壁断面・中央部（東より）

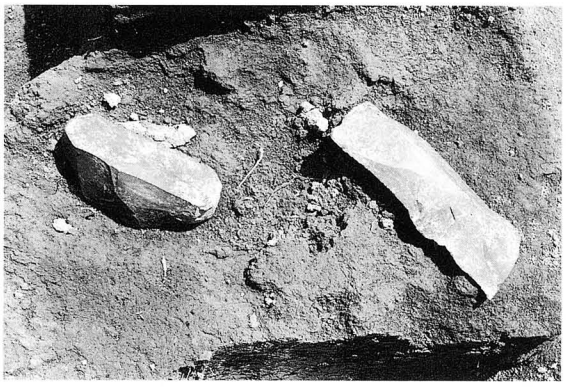
図版57　Ⅳ区５層石器出土状況（東より）

図版55　Ⅳ区西壁断面・中央南寄（東より）

図版58　（第61図１）石器出土状況（西より）

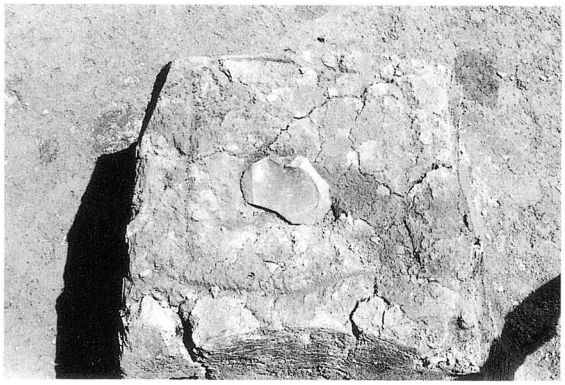


図版59　（第61図２）石器出土状況（西より）

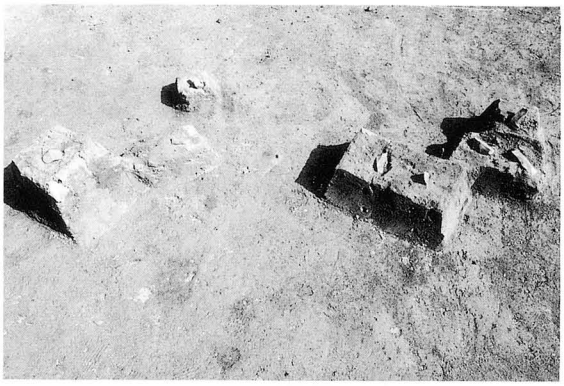


図版60　（第63図１、５）石器出土状況（北より）

図版61　（第62図３、6　第63図１、4、5）石器出土状況（北西より）

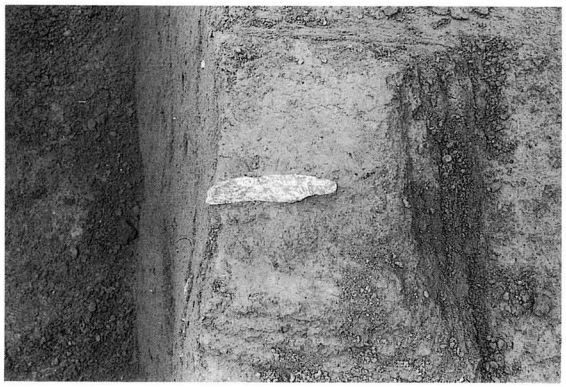


図版62　（第64図１）石器出土状況（西より）

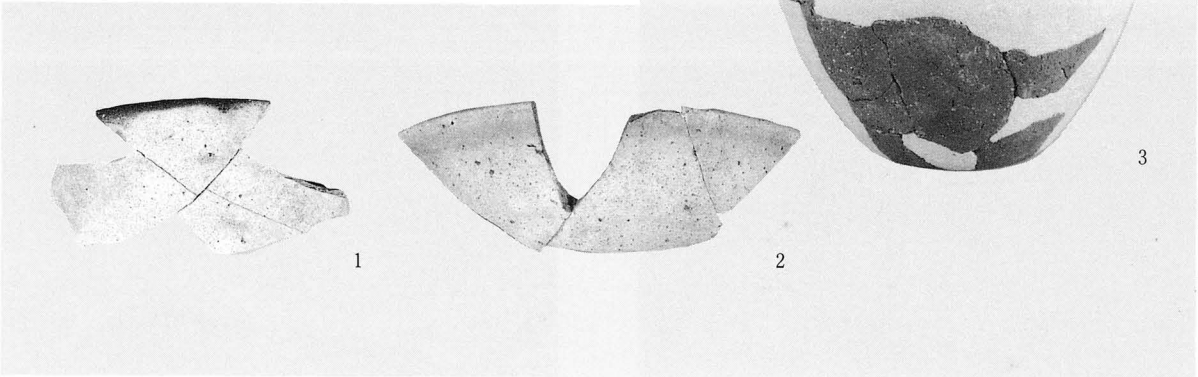


図版63　Ⅳ区５層石器出土状況（北西より）

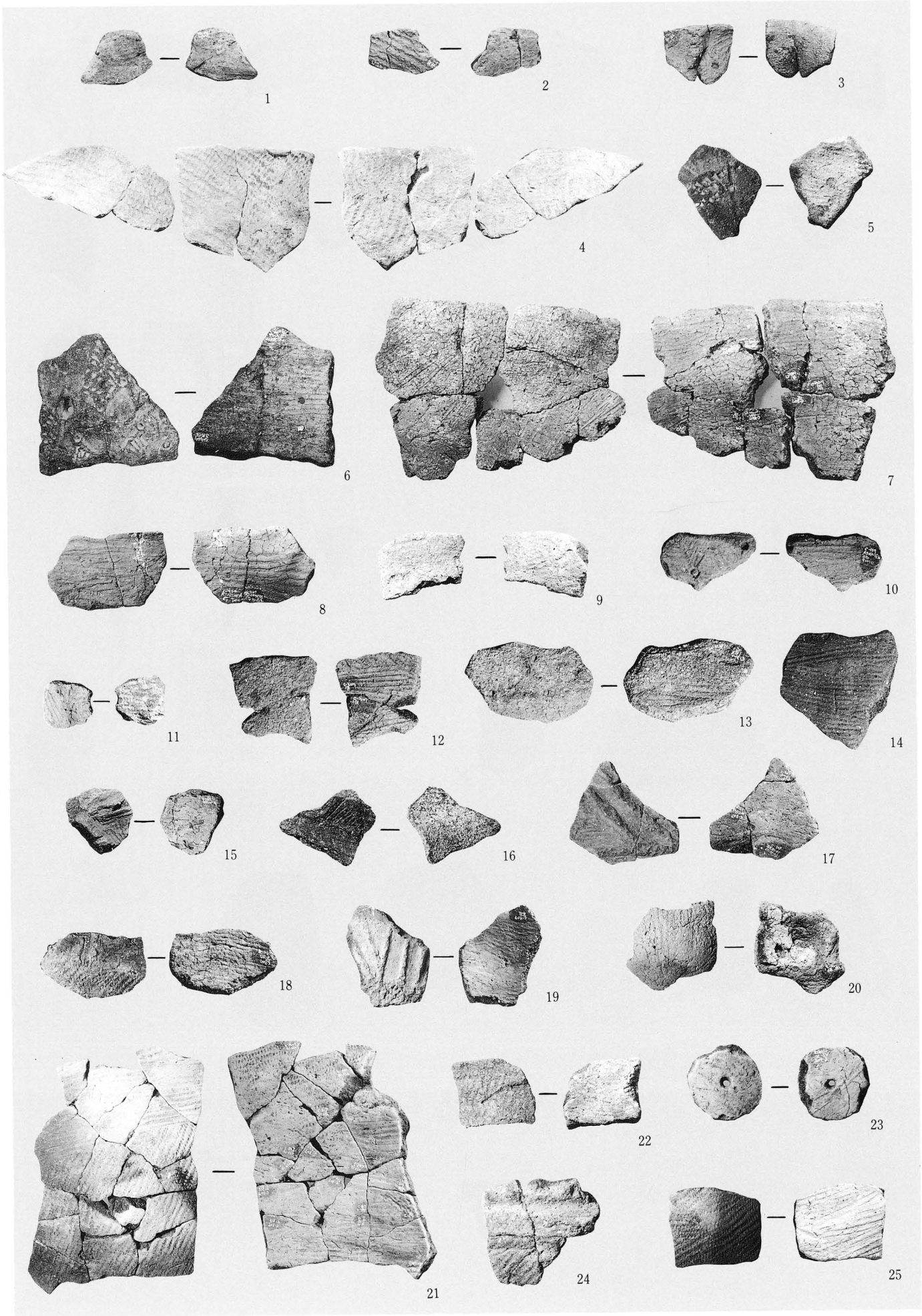
図版64　Ⅳ区５層石器出土状況（東より）



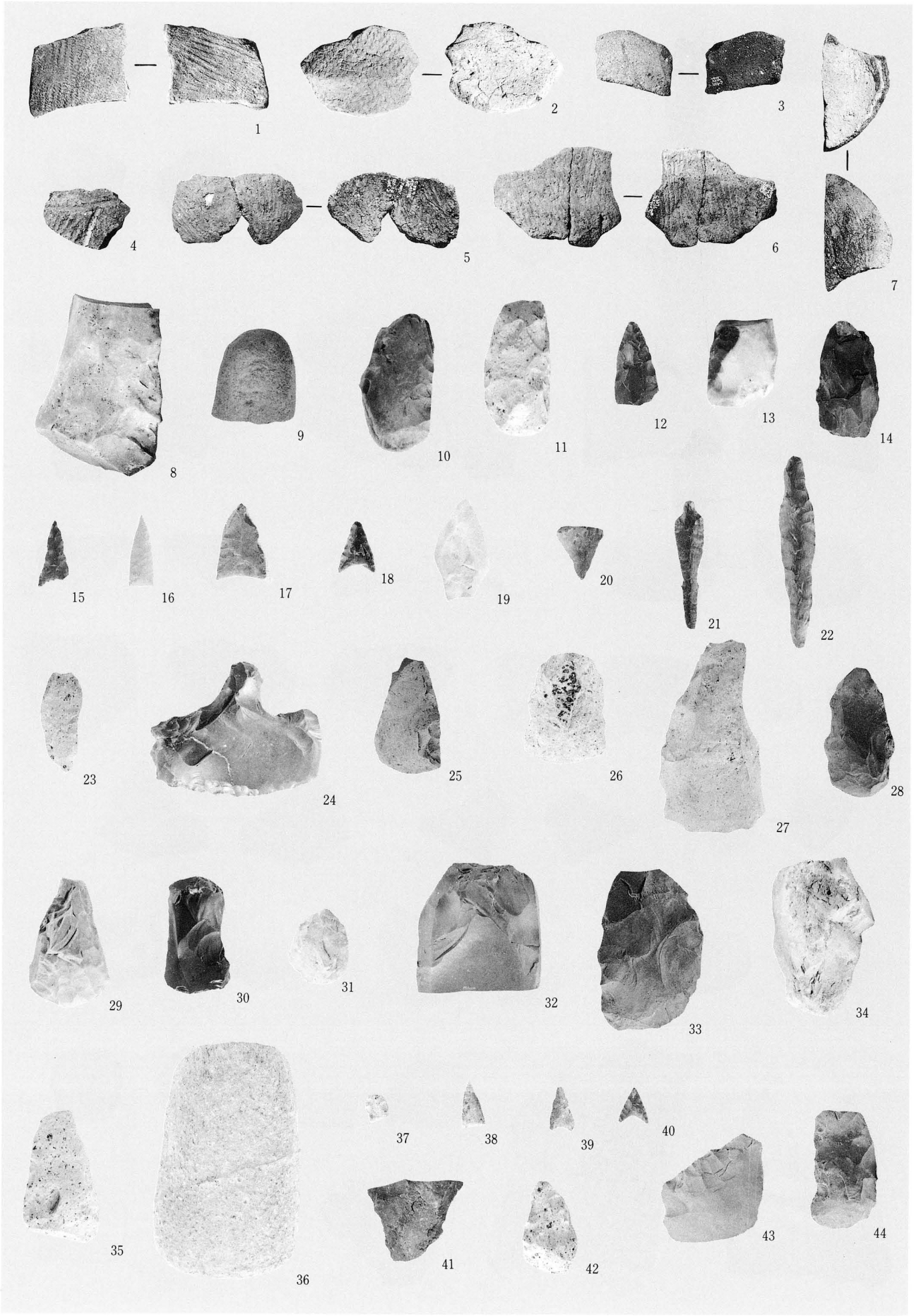
図版65　（第66図１）石器出土状況（東より）



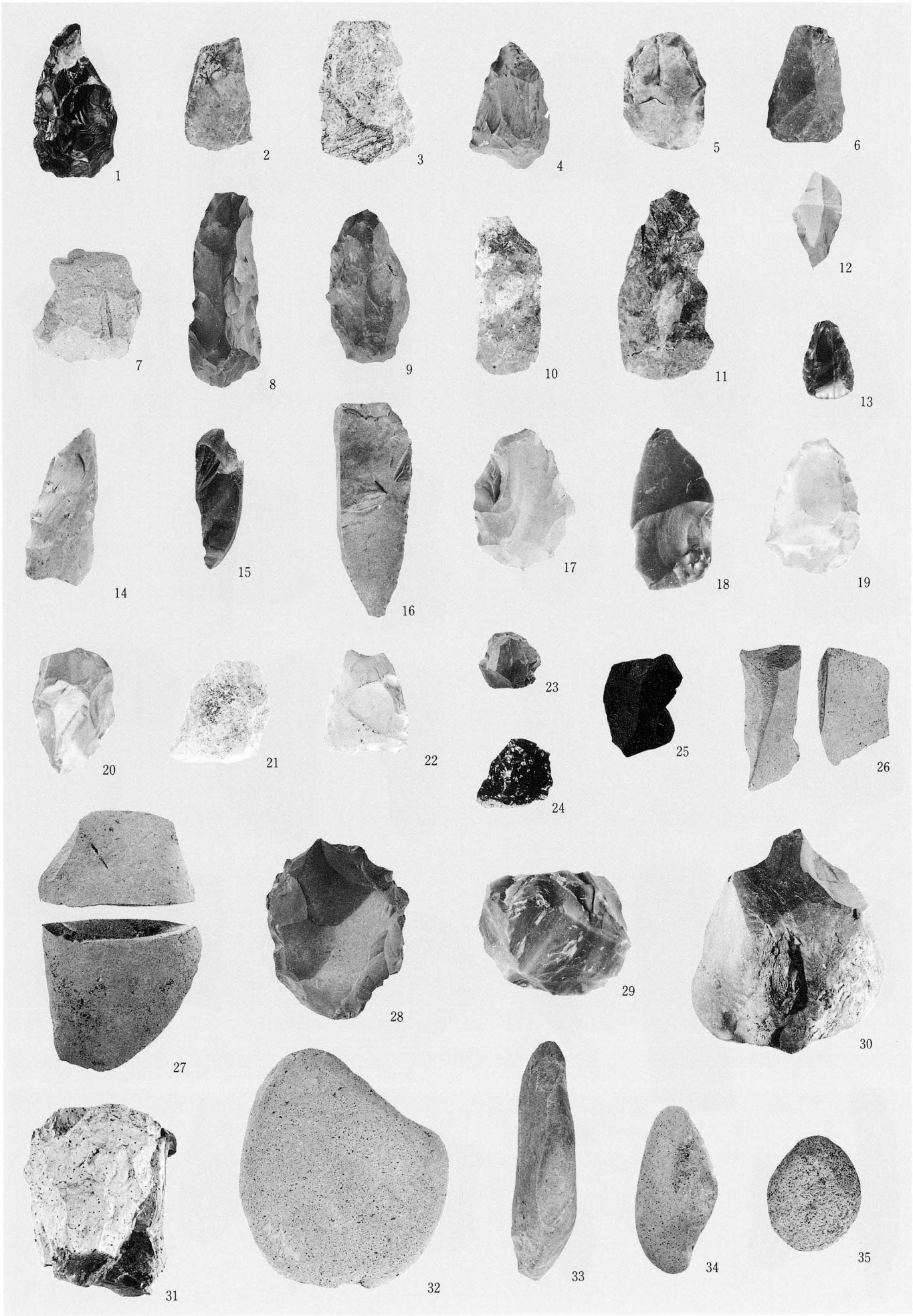
図版66　ＳＩ－３　住居跡出土土器



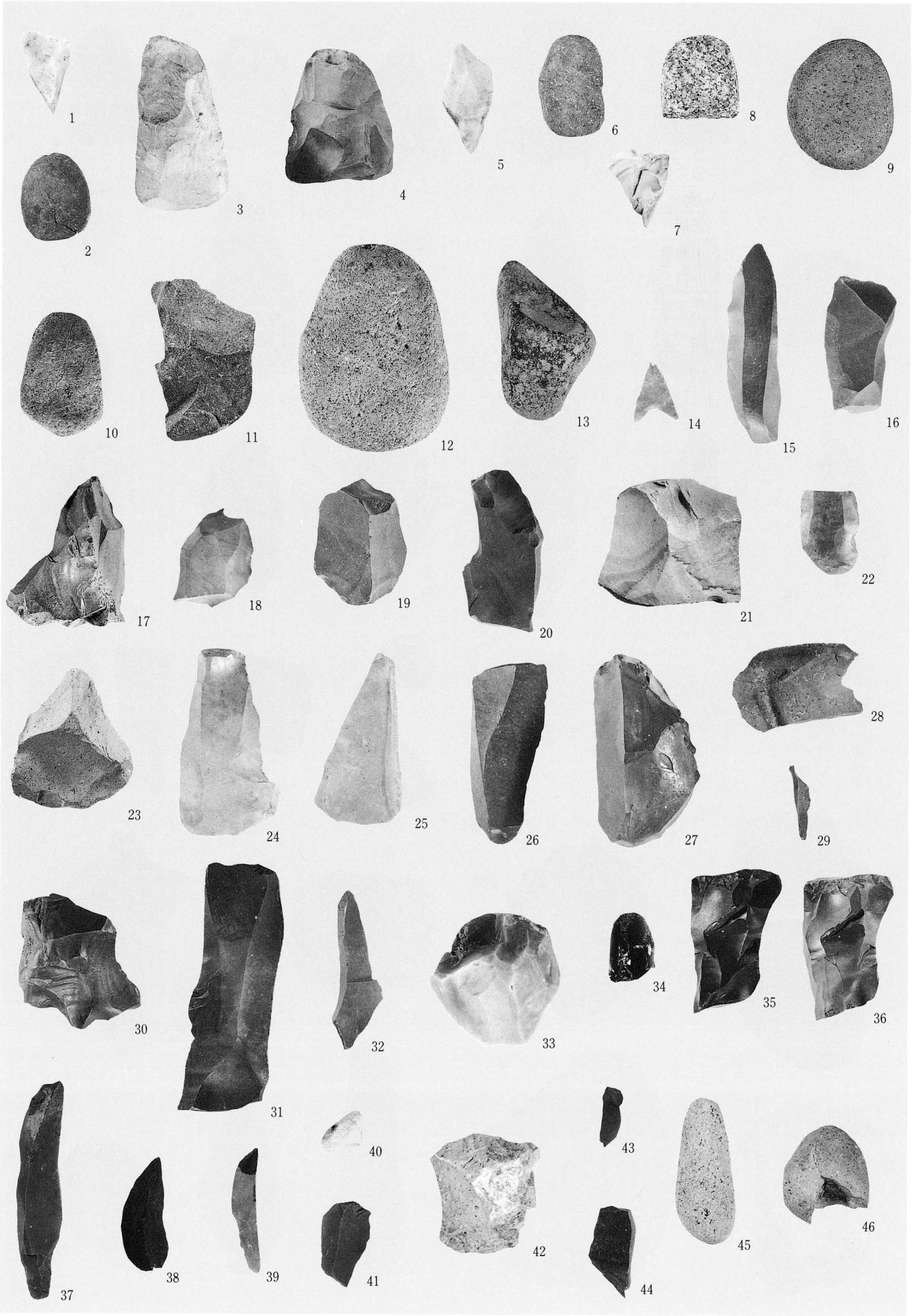
図版67　出土遺物(1)


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44

図版68　出土遺物(2)


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35

図版69　出土遺物(3)


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46

図版70　出土遺物(4)

報告書抄録

ふりがな	うえのはらやまいせき
書名	上ノ原山遺跡
副書名	国道286号線（茂庭工区）道路工事関係遺跡発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第198集
編著者名	主浜光朗
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒980-71　宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号　TEL 022-214-8893～4
発行年月日	1995年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
上ノ原山遺跡（うえのはらやまいせき）	宮城県仙台市太白区茂庭字上ノ原山（みやぎけんせんだいしたいはくくもにわあざうえのはらやま）	04100	01423	38°12′54″	140°48′10″	1989 10 2～1991 9 21	8,000㎡	道路改良工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上ノ原山遺跡	集落跡 包含地	古代～旧石器	竪穴住居跡・土坑	土師器・須恵器・縄文土器・石器	

仙台市文化財調査報告書第198集

上ノ原山遺跡

—国道286号線（茂庭工区）道路工事関係遺跡調査報告書—

1995年3月31日

発行　仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町三丁目7番1号

文化財課 022-214-8893～4

印刷　針生印刷株式会社

仙台市若林区六丁の目西町1－38

TEL 022-288-5011